

令和4年度

新時代に対応した高等学校改革推進事業
(普通科改革支援事業)

研究実施報告書



北九州市立高等学校
北九州市教育委員会

目 次

はじめに

1 背景と目的

- (1) 北九州市立高等学校の概要 1
- (2) 北九州市立高等学校の現状と課題 1
- (3) 事業の目標・目的 2

2 令和4年度事業の取組

- (1) 「認識の共有」からのスタート 4
- (2) 外部と一緒に考える
 - ア 文科省事業における実施体制 5
 - イ コーディネーターの配置 5
 - ウ 市高魅力化コンソーシアム 6
 - エ 北九州市立高等学校の魅力向上事業にかかる運営指導委員会 8
 - オ その他の取組 9
- (3) 「現状」を視覚化する 10
 - ～「高校魅力化評価システム」の活用～
- (4) 学校の教育理念の柱をつくる 11
 - ア スクール・ミッションの策定
 - イ スクール・ポリシー案（骨格）の検討
- (5) 新しい学びのイメージを言語化し、共有する 12
 - ～「北九州市立高等学校にかかる魅力向上プラン（案）」の策定～
- (6) ステークホルダーのニーズを把握する（学校内外でのアンケート調査の実施） 13
 - ア 調査実施の背景
 - イ 調査対象及び回答数
 - ウ 結果の概要
- (7) 校内体制を整備する 14
 - ア 「市高魅力化検討委員会」の設置
 - イ 「カリキュラム検討委員会」の設置
- (8) カリキュラムを検討する（進捗状況） 14
 - ア 学校設定教科にかかるカリキュラム案（令和4年度現在の検討状況）

イ	カリキュラムの共同開発	15
ウ	カリキュラム開発にかかる今後の展望	16
3	令和5年度の展望	17

●参考資料●

参考資料 1	令和3年「北九州市における後期中等教育機関の今後の在り方について」	18
参考資料 2	北九州市立高等学校の魅力向上事業について	22
参考資料 3	北九州市立高等学校にかかる魅力向上プラン（案）（概要）	23
参考資料 4	北九州市立高等学校にかかる魅力向上プラン（案）	30
参考資料 5	北九州市立高等学校の魅力向上にかかるアンケート調査結果	55
参考資料 6	高校魅力化評価システム（北九州市立高等学校）	75

1 背景と目的

(1) 北九州市立高等学校の概要

北九州市立高等学校は、北九州市立戸畑商業高等学校として昭和38年に開校しており、若年人口が現在よりもはるかに多く、進学率が上昇している時代に設立された学校である。

普通科（定員80名）と情報ビジネス科（いわゆる商業科。定員120名）を併設しており、かつては卒業後に就職する生徒が大半であったが、現在は8割以上の生徒が進学している。

【令和4年5月1日時点】

◇ 所在地	北九州市戸畑区浅生一丁目10番1号	
◇ 開校	昭和38年	
◇ 定員	600名（各学年200名×3学年）	
	〔各学年の内訳：普通科（各学年80名） 情報ビジネス科（各学年120名）〕	
◇ 生徒数	584名	◇ 職員体制 72名
◇ 沿革	昭和38年	開校（発足時は戸畑市立戸畑商業高校）
	平成11年	学科改編によって、①商業科（進学コース・ビジネスコース）及び②情報処理科の2学科へ
	平成19年	学科改編によって、①普通科及び②情報ビジネス科へ名称を「北九州市立高等学校」に変更
	平成29年	通学区域を「市内」→「県内」へ（平成30年度入学者～）
	令和元年	令和2年度入学者から情報ビジネス科の定員変更（1学年160名→120名へ）

(2) 北九州市立高等学校の現状と課題

北九州市立高等学校（以下「本校」という。）には、普通科（定員80名）及び情報ビジネス科（定員120名）を設置している。

本校は、北九州市内のみならず、福岡県全域から受検可能であるが、近年15歳以下の人口が減少していることもあり、過去5年間の平均志願倍率は1.09倍で、倍率が1.01となった年もある。

本校は部活動が大変盛んで、九州大会や全国大会に出場する部活動もあり、常に地域の注目を浴びている。そのため、部活動が主目的の志願者が大半を占めており、部活後・卒業後の展望を持っていない状態の生徒が少なからずいることも課題である。

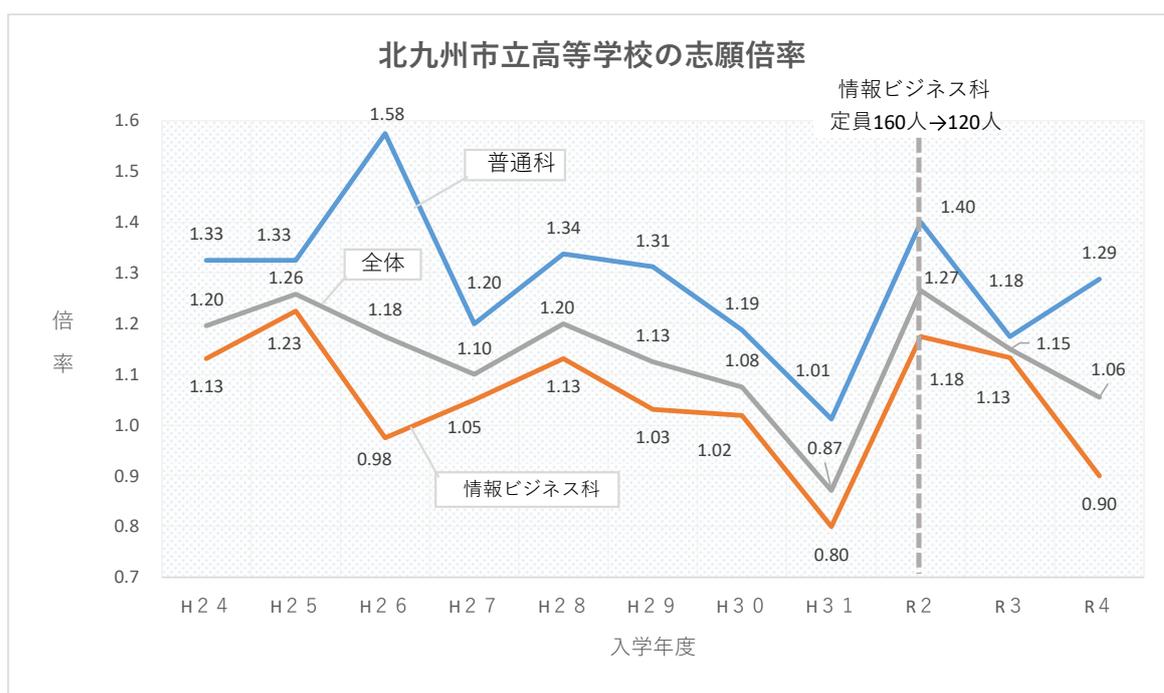
また、唯一の市立高校であることから、人事が固定化しがちである。本校が中学校教員の異動先になっていることは、「中高連携」の一環としてプラスの側面がある一方で、中学校の延長化、「高校が中学校化」しているといった側面があることも否めない。

教職員は教育活動に非常に熱心であるが、市内の県立高校や高等教育機関などとの交流も

少なく、「学校のことは学校の中だけでどうかしなくてはならない」と、いわゆる「自前」で努力してきた経緯がある。

本校は、令和4年度に創立60周年を迎えたが、厳しい校則・校風が「古きよき伝統」として重んじられている学校であることから、非常に礼儀正しい生徒が多いのはよいが、一方で生徒と教職員の間に独特の緊張感を生み出す要因ともなっており、生徒が主体性を発揮しづらい状況を生み出している可能性もある。

歴史や伝統も大事にしつつも、生徒も教職員も安心して過ごすことができる学校づくり、時代の要請に応じた学びへの変化、探究学習などを通じて「コンピテンシー・ベースの学び」に転換していくことなどが本校の喫緊の課題となっている。



【志願倍率の状況（直近5年）】

平成30年度	普通科	1.19	情報ビジネス科	1.02
令和元年度	普通科	1.01	情報ビジネス科	0.80
令和2年度	普通科	1.40	情報ビジネス科	1.18
令和3年度	普通科	1.18	情報ビジネス科	1.13
令和4年度	普通科	1.29	情報ビジネス科	0.90

(3) 事業の目標・目的

北九州市教育委員会（以下「市教委」という。）は、産業構造や若年人口減などの社会情勢の変化などを踏まえ、令和元年に有識者会議「北九州市後期中等教育に関する検討会議」を立ち上げ、北九州市立高等学校及び戸畑高等専修学校の在り方について協議を重ねてきた。

令和3年3月に、市教委は検討会議での意見などを踏まえ、「北九州市における後期中等

教育機関の今後の方針について」(以下「令和3年方針」という。)を公表した。本校に関しては存続させるものの、地域の魅力を生かした特色ある教育内容の充実などの改革が急務であり、探究的な学習活動の充実や学科構成を変更(現行の普通科を「地域社会に関する学科」へ)することなどを明記している。

北九州市における後期中等教育機関の今後の方針について(概要)

【現状・課題】

- ・学校設置時と比べて、産業構造や若年人口減などの社会情勢が大きく変化している。
- ・後期中等教育に関しては、主に広域自治体が担っており、基礎自治体である本市がいかに関わっていくか。

R1.12.17 北九州市後期中等教育に関する検討会議(有識者会議)を設置

【意見のまとめ概要(R2.8.26公表)】

●北九州市立高等学校

- ・存続について、全体としては肯定的な意見が多かったものの、改革も急務
- ・地域の魅力を生かした特色ある教育内容の充実のため、「個別最適化」された学習や「探究活動」の推進、それを支えるための「学びの土壌づくり」、近隣の大学や地域社会との連携などが重要

●戸畑高等専修学校

- ・産業構造の変化等を踏まえると、服飾分野の高等専修学校を本市が維持するには厳しい側面(学びを生かした進路や専門性の高い教員の確保など)
- ・「市が有する意義として新たな取組を見出せるか」等、教育委員会において、方向性を十分に検討した上で最終的な結論を出してほしい。

意見のまとめを踏まえて教育委員会で検討

北九州市立高等学校

市立高校検討WG(4回)

➡ 教育内容を充実するための具体的な取組を推進

- ◎「(仮称)市高タイム」の導入(R3試行実施、R4本格導入)
 - ・部活動、資格講座、小論文講座、地域活動等を選択でき、自分の裁量で学べる個別最適化された学習環境の提供
- ◎探究的な学習活動の充実(R3~順次実施)
 - ① SDGsをテーマに3年間に渡る学習を可能にする
 - ② 学校内外の資源を活用し、専門家による研修などを通じて学習活動を充実化
- ◎学科構成の検討(R3~)
 - ・現在の普通科を「地域社会に関する学科」に転換することを検討
- ◎「スクール・ポリシー」の策定(R5施行予定)

戸畑高等専修学校

近年の縫製関連の企業に就職している卒業生の減少、縫製に係る本市全体の従業者数等の減少状況、さらに入学生も減少している状況を踏まえると、今後も服飾分野の高等専修学校を本市が維持する必要性を十分に説明することは困難なため、生徒の募集を中止する。⇒令和4年度以降の入学生の生徒募集は実施しない

しかしながら、「特色化・魅力化を図る」「改革する」とは言え、既存の枠組みや限られたメンバー(例えば本校のみ、あるいは市教委と本校)だけで協議しても、既成概念から脱却することや新しいアイデアを取り入れることは極めて困難であり、新しい時代に必

要な資質・能力を見誤る恐れもある。

そのため、外部有識者からもご意見を賜りながら新しい教育方針について検討したり、本校と外部をつなぐためのコーディネーターを配置したり、カリキュラム案について多角的に考える機会を設けたりすることが極めて重要であることから、文部科学省委託事業「新時代に対応した高等学校改革推進事業（普通科改革支援事業）」（以下「文科省事業」という。）のスキームを活用して、令和6年度からの新学科設置に向けた準備を進めていくことにした。

2 令和4年度事業の取組

（1）「認識の共有」からのスタート

令和3年方針が出てから1年が経過し、令和4年度に入ってから本校での新学科の検討状況について確認したところ、令和3年方針や文科省事業に採択されていることなどにかかる校内での周知が十分に実施できていない、あるいは趣旨が十分に浸透していないことがわかった。

そのため、令和4年4月末に市教委から本校の全教職員に対して、令和3年方針が策定された経緯や文科省事業の概要などを直接説明した。この説明により、少なくとも令和3年方針の内容や普通科改革の理念・意義などについての情報提供はできたものの、本当の意味での共通理解のレベルにまで高めていくためには、時間をかけて丁寧に説明していく必要があった。

このたびの本校の魅力向上に向けた取組は、生徒ファーストで、生徒の学びをこれまで以上に充実させて、生徒の将来への展望をより明るいものにしていくことが最大の目的である。

つまり、決して教職員のこれまでの努力を否定するものではなく、教職員がこれまでの経験で培ってきたノウハウと産・官・学・民の力を融合させて、よりよいカリキュラムを連携・協働して作り上げることによって、新時代に必要な資質・能力を生徒に身に付けてもらうことが大前提である。そのため、教職員に対しては、本校の管理職を通じて繰り返し丁寧に説明することに努めた。

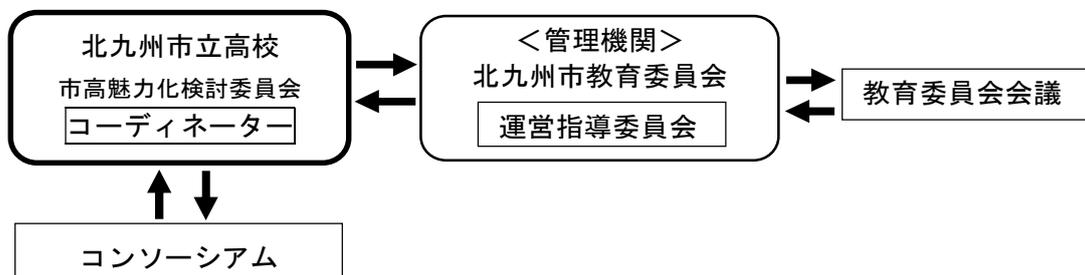
その結果、一部の教職員が研修会やコンソーシアムに参加してくれるようになったり、「せっかく取り組むのであれば、よいものを作りたい」「こんなことをやってみたい」といった思いを吐露してくれるようになったりと、本校の教職員の意識に変化の兆しが表れてきた。

少しずつ、一歩ずつではあるが、生徒たちの明るい未来を見据えて、新しい学びのスタイルを本校に生み出そうとする土壌ができつつある。

(2) 外部と一緒に考える

ア 文科省事業における実施体制

本事業における実施体制は以下のとおりである。



①事業実施主体

北九州市立高等学校に設置する「市高魅力化検討委員会」がコーディネーターと協議しながら「地域社会に関する学科」への改編の実施主体となり、事業計画の作成及び事業実施を担う。

②管理機関

北九州市立高等学校を所管する北九州市教育委員会の主な役割は以下の2点。

(ア) 予算規模や事業目的などを踏まえて、事業計画を検証する。

(イ) 教育委員会会議で事業の進捗を報告し、より実効性の高い事業に資する。

③運営指導委員会

管理機関は、外部有識者で構成される「運営指導委員会」を設置して、事業計画の進捗状況などを適宜報告し、評価・検証を依頼する。そこで得られた助言・意見などについては、検討部会にフィードバックする。

④コンソーシアム

「コンソーシアム」は、事業計画などについて検討部会と定期的に意見交換を行い、検討部会は、コンソーシアムとの協議において出た意見などを踏まえて事業計画の見直しを行い、学科改編に伴う事業計画や実施方針などに反映させる。

イ コーディネーターの配置

本事業を通じて、本校に2名のコーディネーターを配置した。当初は、常駐可能なコーディネーター（以下「CN」という。）の配置を目指していたが、受託費の範囲内では常駐CNを見つけることが極めて難しかったことから、必要なときにご相談する「単発型」での配置を選択した。

配置しているCN2名の内訳は、「広報魅力化CN」が1名、「カリキュラム等CN」が1名である。

「広報魅力化CN」には、YK STORES株式会社 代表取締役 吉田一直氏にご就任いただいた。吉田氏は、市役所や市内の大学とコラボレーションした動画制作、商品開発などに数多く携わっておられる。また、市内の複数法人のPRアドバイザーにも

就任しておられることから、広報部門のコーディネーターとして、本校の魅力発信にかかる技術的な助言等をお願いした。

「カリキュラム等CN」には、北九州市立大学地域創生学群の廣川祐司准教授にご就任いただいた。廣川CNは、北九州市立大学で入試広報センター委員及び大学全体の教育改革推進室委員を務めておられる。また、高大連携事業や高大接続についての取組をゼミ活動として行い、近隣の高校と連携した「地域課題解決型学習」の実践も行っておられる。本校においては、大学入試改革の動きにかかる情報把握や大学との強固な連携・協働体制の構築する必要があったことから、適任と判断してご就任いただいた。

「カリキュラム等CN」の配置は9月からで、かつ学校との連携・協働した活動も11月からとなったことから、活用時間は約50時間に留まった。しかし、令和5年2月からは頻繁に協議の場を設けており、北九州市立大学のゼミ生も交えた令和5年度からの探究活動の充実につなげていけるよう準備を進めている。

ウ 市高魅力化コンソーシアム

コンソーシアムについては、新学科の教育活動の基盤である本校の教職員等と一緒に、具体的なカリキュラム案や課題解決に向けた意見交換を行う場であることから、構成員については高等学校における探究活動にかかる実績が豊富な方々を中心に選定した。

企業関係者としては、全国規模で「高校生ビジネスプラン・グランプリ」を主催しておられる日本政策金融公庫から1名、そして九州各県の地場企業として産・官・学と連携し、持続可能なコミュニティの創造にご尽力されている九州電力株式会社から1名ご参加いただいた。

また、市役所・区役所との連携体制の構築も必要になってくることから、本市の企画調整局地方創生SDGs推進部からも1名参加してもらった。

コンソーシアムは、9月・10月・11月・12月に1回ずつ開催した。コンソーシアムの構成員から、「行政が主催する会議は、とにかく形式にこだわったものが多く、対話が少ないと感じる。既存の枠に捉われない新しい学びについて議論する場なのだから、堅苦しくないスタイルで、行政も構成員も交わり合って、立場に関係なく、自由闊達に議論する場にしてほしい」などのご意見を事前にいただいた。

そのため、コンソーシアムの席は「くじ引き」とし、会議机も置かず、円形に椅子を並べるなど、会議形式を抜本的に見直して実施した。また、「〇〇構成員」「事務局」といった堅苦しいネームプレートも置かず、参加者の名字をひらがな表記するとともに、各人の趣味や面白いことなども付記した粘着シール（毎回変更）を胸につけて一言発言してから会議を始めるなど、コンソーシアムの冒頭が常に「笑い声」から始まるように心掛けた。

コンソーシアムの様子は職員室でも視聴できるようにするとともに、授業に差し支えない場合は是非参加いただきたいと教職員にも声かけした。その結果、第3回目からは本校の教員2名も議論に加わってくれるようになり、構成員も教員と直接意見交換することができ、校内での検討状況や教職員が葛藤していることなどを的確に把握していた

だくことができた。また、第4回目のコンソーシアムでは約10名の教職員を交えたワークショップを行い、新学科で目指すことなどについて小グループで意見交換することができた。本校では、これまで外部の方々と教職員とが対面で市高の在り方について意見を交わす機会は皆無に近かったため、非常に小さな一歩であるものの、本校にとっては非常に大きな一歩となった。

(区分内で五十音順・敬称略)

◎：座長 ○：副座長

区分	氏名	所属
学識経験者	◎ なかお もと 中尾 基	国立大学法人 九州工業大学 工学研究院基礎科学研究系 教授
	まなべ かずひろ 眞鍋 和博	公立大学法人 北九州市立大学 地域創生学群 教授
企業関係者	なかむら やすし 中村 靖	日本政策金融公庫 北九州支店 国民生活事業統轄
	ひらはた さとる 平島 暁	九州電力(株) 北九州支店 副支店長 兼 企画・総務部長
民間関係者	○ ふくいずみ あきら 福 泉 亮	Nature&KOKOROZASHI Albireo 代表 北九州市立ユースステーション スタッフ
行政関係者	うえだ ゆかり 上田 ゆかり	北九州市企画調整局 SDGsプロジェクト担当部長
	おくむら かずみ 奥村 和美	北九州市教育委員会 指導企画課長
	ますだ しげお 増田 繁雄	北九州市立高等学校 教頭 兼 北九州市教育委員会学校教育課 指導主事



エ 北九州市立高等学校の魅力向上事業にかかる運営指導委員会

本市では、令和元年に外部有識者から構成された「北九州市後期中等教育に関する検討会議」を設置し、北九州市立高等学校及び北九州市立戸畑高等専修学校の存続も含めた在り方について議論をしてきた経緯がある。

運営指導委員会の委員については、当該検討会議の構成員であった方々を基本として選定した。また、これから本校に入学してくる中学生（ステークホルダー）の状況把握に資するため、北九州市立中学校長会からも1名参加してもらった。運営指導委員会には、「カリキュラム等CN」にも参加を依頼した。

運営指導委員会は、12月と1月に1回ずつ開催した。高校改革にかかる国と市の動向、本校の学科構成案、スクール・ポリシー案などについて協議し、次世代の子どもたちにとって望ましい教育システムや、ステークホルダー（生徒、保護者）に今回の普通科改革を理解していただくことの重要性などについてご意見をいただいた。

(区分内で五十音順・敬称略)
◎：委員長 ○：副委員長

区分	氏名	所属
学識経験者	◎ もとかね まさひろ 元兼 正浩	九州大学大学院 人間環境学研究院 教授
企業関係者	ながの けい 永野 恵	三菱 UFJ リサーチ&コンサルティング(株) 政策研究事業本部 公共経営・地域政策部 研究員
	はたの たかし 羽田野 隆士	北九州商工会議所 専務理事
民間関係者	あそう こうじ 麻生 浩二	北九州市立高等学校 PTA会長
行政関係者	うえだ ○上田 あけみ	北九州市立中学校長会 小倉北区中学校長会長



オ その他の取組

本校では、本校を取り巻く課題やこれからのあるべき姿について、教職員同士が膝を突き合わせて話し合うような機会がこれまで全くなく、普段から教職員同士が交流する機会も少ない。

本校の魅力化・特色化に当たっては、一人一人の教職員が課題意識を持ち、新しい時代に対応した学びのあるべき姿を念頭に置いて、主体的に取り組まなければ成り立たない。

そのためには、教職員同士が安心して、自由に意見を言い合うことができる雰囲気を作り出すことがまず必要で、互いにざっくばらんに思いを語り合うことで「気づき」を生み、「最適解へのヒント」を見出すような行動がなければ、本当の意味での魅力化・特色化を実現することは不可能であると感じた。

そのため、令和3年7月25日に本校の全教職員を対象として、ワールドカフェ形式の対話の場「市高について語ろう！」を開催した。ファシリテーターは、コンソーシアムのメンバーであり、北九州市立大学教授の眞鍋先生にお願いした。当日は、本校の卒業生でもある眞鍋ゼミの学生2名にもお手伝いいただいた。

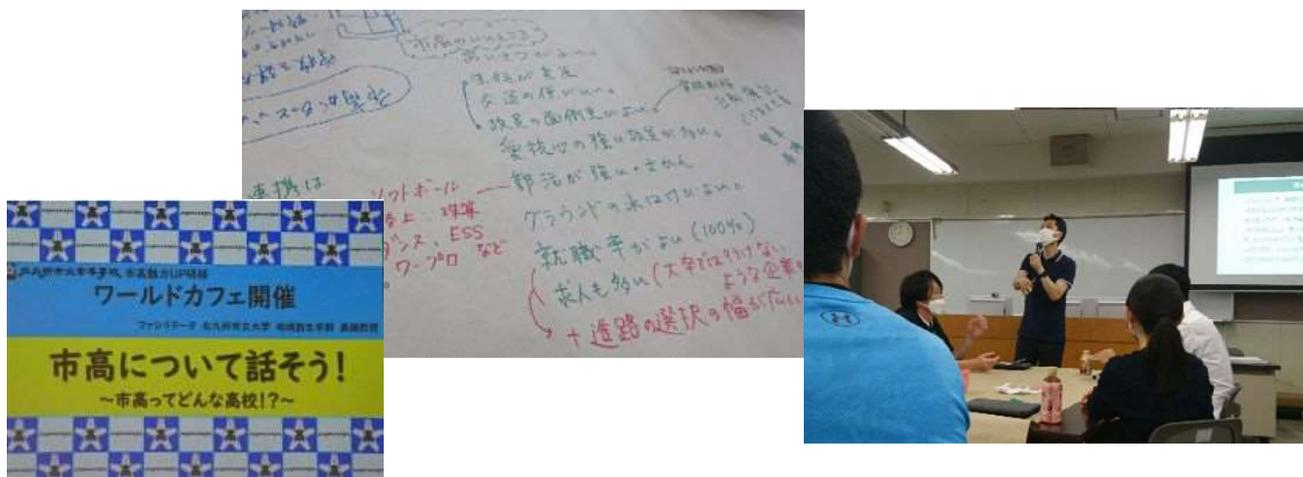
くじ引きによってグループを編成し、適宜入れ替わりながら、「市高のよさを感じる」「互いの立場、地位、意見の違いを越えて、相互理解する」「未来に向かって、どんな市高になったらいいのかの考えが浮かぶ」ことの3点を目的として実施した。

普段から教職員同士が対話する機会がないとのことだったので、会話が盛り上がるの心配だったが、堰を切ったようにどんどん意見が出て、非常に和やかな雰囲気の中で対話が盛り上がった。

会議終盤には、事前にサプライズで用意しておいた「卒業生からのビデオメッセージ」を流して、各卒業生が本校での思い出や社会で活躍する中で感じる「こんな学びがあるとよい」などの思いを語っていただいた。

会議終了後、教職員からは「こういう機会は初めてだったが、面白かった」「普段、話すことがない先生と話せてよかった」などのコメントもいただいた。

また、対話の場には、市教委からも数名参加し、教職員のグループに入って意見交換した。これまで、市教委と教職員が膝を突き合わせて意見交換するようなこともなかったため、互いの思いを語り合うことができ、大変有意義であった。



(3)「現状」を視覚化する

～「高校魅力化評価システム」の活用～

「高校魅力化評価システム」は、高等学校の生徒と、教職員・P T A・コーディネーター・コンソーシアムの構成員などの大人を対象としたアンケート調査で、令和元年に三菱U F J リサーチ&コンサルティングが開発し、令和3年度時点では40都道府県(186校)で導入されている。

本調査結果は、5つの側面(①学習活動、②学習環境、③能力認識、④行動実績、⑤満足度)を、4つの領域(主体性、協働性、探究性、社会性)から、3つの軸(時間軸(前年度からの伸び)、学年軸、地域軸(他地域との比較))で整理されており、各項目で肯定的回答(「あてはまる」「どちらかといえばあてはまる」)をした割合を示している。

本調査の目的は大きく2点あり、1点目は高校の魅力化によって、生徒の資質・能力・意識等の変化の見える化であり、2点目は高校の魅力化に取り組む各高校、各高校の教職員などの大人が、自らの実践を振り返るために、現状の取組の見える化によってさらなる改善に生かしていくことである。

本校では、令和4年9月に初めて実施した。生徒の回答率は93%、教職員の回答率は46%(調査会社からも教職員については30名程度までと言われていたため、全教職員数に対する回答者割合が46%という意味)であった。

本調査結果には、現場で奮闘する教職員が自ら対話を深めて、納得のいく解に至るための「問い」が網羅されている。また、教職員間のみならず、外部の方々や生徒たちを交えて意見交換をするなど、様々な場面での「対話」の材料になるものでもあり、非常に有効なデータが取得することできた。

本調査結果には、大変多くの情報が網羅されていることから、本校もどこから手をつけてよいのかがまだよく整理しきれていない状況である。これから大切なのは、教職員一人一人が「羅針盤を持つ(ターゲット指標の選定)」「気づく」「心当たりを探す」「次の一手を考える(具体的なアクションを検討する)」ステップである。調査結果を入手したことだけに満足するのではなく、データを基に対話を重ねる中で、生徒も教職員も安心して過ごせる学校づくり、深く楽しく学べる学校づくり、生徒の視野と将来への展望が広がる環境づくりのヒントを見出していきたい。

【参考】令和4年度の調査結果（抄）

番号	質問項目	生徒回答	大人回答
90・25	この学校を中学生におすすめできる	56.5%	58.1%
66	この学校に入ってよかったと思う	70.2%	
9	活動、学習内容について大人（教員や地域の大人）と話し合う	35.5%	
20	失敗してもよいという安全・安心な雰囲気がある	64.8%	45.2%
22	人と違うことが尊重される雰囲気がある	68.3%	45.2%
17	本音を気兼ねなく発言できる雰囲気がある	75.9%	29.0%
29	地域の人や課題などにじかに触れる機会がある	44.4%	25.8%
39	現状を分析し、目的や課題を明らかにすることができる	62.4%	
32	自分の暮らす地域を、外からの視点で考える機会がある	42.2%	25.8%
61	地域を対象とした課題探究学習に熱心に取り組んでいる	47.1%	
67	学習を通じて、自分がしたいことが増えている	67.8%	
79	まだ世の中にない新しい技術やサービスを生み出してみたい	53.4%	

（４）学校の教育理念の柱をつくる

ア スクール・ミッションの策定

令和3年の中央教育審議会答申「『令和の日本型学校教育』の構築を目指して」及び同年に公表した本市の「北九州市における後期中等教育機関の今後の方針について」などを踏まえ、令和4年度に北九州市教育委員会（以下「市教委」という。）はスクール・ミッションを策定した（令和5年3月30日 教育委員会会議に付議・承認）。

スクール・ミッション

市内唯一の「市立」高等学校の強みである北九州市のリソースを活用して、「産・官・学・民」と連携・協働しながら、絶えず変化する未来の社会や世界をけん引する若者を育成します。

イ スクール・ポリシー案（骨格）の検討

カリキュラムの検討に当たっては、新学科「未来共創科」のスクール・ポリシー案（令和5年度中に策定予定）の骨格（以下「スクール・ポリシー案」という。）を踏まえて検討する必要がある。

スクール・ポリシー案については、学校管理職、校内の教職員で構成される校内魅力化検討委員会及び職員会議において検討した。

また、外部有識者から構成される後述の「市高魅力化コンソーシアム」「北九州市立高等学校の魅力向上にかかる運営指導委員会」「カリキュラム等コーディネーター」及び大学生からもご意見をいただいて検討した。

アドミッション・ポリシー（AP）

「このような生徒を受け入れます（求めます）。」

- 何事にも粘り強く取り組みたい生徒
- 現状に満足せず、向上したいと願う生徒
- 他者と協力し、課題解決に取り組みたい生徒
- 探究に深く取り組みたい生徒

カリキュラム・ポリシー（CP）「このような学びを展開します。」

- 産・官・学・民などの多様な人々と共に探究的な学びの充実を図ります。
- ICT を様々な場面で活用した学びの充実を図ります。
- 各教科・科目において、課題解決型の学びの充実を図ります。
- 社会の変化に対応し、活躍している人との交流を図ります。

グラデュエーション・ポリシー（GP）「このような力を育成します。」

- 一歩前に踏み出し、失敗しても粘り強く取り組むことができる力
- 疑問を持ち、考え抜くことができる力
- 多様な人々とともに、目標に向けて協力できる力
- 社会の変化にしなやかに対応できる力

補足：スクール・ポリシー案にかかる今後の共有案

スクール・ミッションと並んで、スクール・ポリシー案はカリキュラムの作成の根幹となることから、教職員全員が確実に理解しておく必要がある。そのため、目につくところに貼り出す、学期に1度はスクール・ポリシー案を踏まえた協議の場を設けるなど、年間を通じた取組が必要不可欠であると考えている。

共有の方法としては、一方通行の説明ではなく、スクール・ポリシーをワークショップ形式で職員間の対話の充実を図ることにより、新学科における学びの充実につながるよう実施する予定である。

また、教職員が視野を広く持ち、様々な視点で「学びの在り方」について考えることができるように、コーディネーターや大学生などの外部の方々のワークショップへの参加も積極的に進めたい。

（5）新しい学びのイメージを言語化し、共有する

～「北九州市立高等学校にかかる魅力向上プラン（案）」の策定～

本校では、令和6年度から普通科を「魅力共創科」に改称することとしている。学科構成の変更を契機として、「指導から支援へ」「自前から外部との連携・協働」へ、そし

てより質の高い学びにつなげるための「授業研究」に重点を置き、市立高校全体の底上げを図り、生徒の明るい未来につなげていくこととしている。

本校が学科構成を変更するきっかけとなった、令和3年の中央教育審議会答申『令和の日本型学校教育』の構築を目指して」及び本市の令和3年方針の内容、令和4年度にコンソーシアムや運営指導委員会からいただいたご意見などを踏まえて、これからの時代に必要な学びの在り方と「未来共創科」に新たに追加する学習活動の概要についてまとめ、これからの高等学校のあるべき姿について共通理解を図るため、「北九州市立高等学校にかかる魅力向上プラン（案）」を策定した。

プラン案には、令和4年度に市教委が定めたスクール・ミッション（この時点では案）や、令和5年度の策定に向けて本校が準備を進めているスクール・ポリシー案の骨格などについても示し、本校の新たな教育方針について広く周知することに努めた。

（6）ステークホルダーのニーズを把握する（学校内外でのアンケート調査の実施）

ア 調査実施の背景

令和4年度のコンソーシアム及び運営指導委員会については、学科構成案をゼロベースから議論する必要があると、各回で提出する案が独り歩きすると混乱をきたす恐れがあったことから、会議については非公開にて実施した。

年末にようやく学科構成案が固まったが、内輪だけの議論で大きな方向性を決めるのではなく、きちんとステークホルダーの意見も聞いた上で新学科の在り方やカリキュラム研究をしなければならないのではないかと結論に至り、アンケート調査を実施することになった。

イ 調査対象及び回答数

調査対象は、①北九州市立中学校（抽出10校）の1・2年生（2,420名）及び②その保護者（2,420名）、③本校の1・2年生（390名）、④大学等（約50校）、⑤企業等（約500社）とした。調査は2月中旬から3月3日（金）までの期間に実施した。

回答者数は、①1,641名、②589名、③359名、④延べ20校、⑤延べ133社で、想定していた以上にたくさんの回答が寄せられた。

ウ 結果の概要

それぞれのアンケート結果については、参考資料5にまとめているが、新学科に対する期待と合わせて、今の教育や学校運営の在り方を時代に合わせて変えてほしいといった声が非常に多かったことが印象的であった。

中学生や本校の生徒からは、進学先や将来の職業に関する情報をもっと早い段階で知りたいといった声も寄せられた。

大学や企業からは、見学の受入れ、出前講座の実施、インターンシップなどについて「相談可能」とのありがたいお申し出もたくさんいただいた。個別に本校に連絡をと

り、今後協力できそうなことを提案してくださった企業もあった

今回のアンケートを通じて得られたすべてのご意見を真摯に受け止め、具体的なカリキュラムの検討に生かしていきたい。

(7) 校内体制を整備する

ア 「市高魅力化検討委員会」の設置

本校の学校管理職、教務主任、主任等で構成される「市高魅力化検討委員会」を立ち上げ、新学科の在り方について検討を行っている。

メンバーの選定に当たっては、探究的な取組に積極的に取り組んでいる教職員を中心に、普通科と情報ビジネス科の両方から選定している。双方の科から選定したのは、時代に対応した新しい学びは新学科のみで実施するのではなく、本校のすべての学科で実施するという学校としての強い意思表示をするためでもあった。

イ 「カリキュラム検討委員会」の設置

上記とは別に、「カリキュラム検討委員会」も校内に設置している。教頭1名、教職員3名、カリキュラム等コーディネーター及び大学生が定期的に集まって令和6年度からのカリキュラムの検討を行っている（年明けから週1～2回のペースで「カリキュラム検討会議」を実施している）。

なお、検討したカリキュラム案については、令和5年度から試行実施しながらブラッシュアップしながら令和6年度からの新学科の設置に備えることとしている。

(8) カリキュラムを検討する（進捗状況）

ア 学校設定教科にかかるカリキュラム案（令和4年度現在の検討状況）

<学びの目的>

- 学校内外の様々な年齢・分野・立場の方々と対話・連携・協働して、以下の3つの力の育成に軸を置いた学びを積み重ねることにより、「北九州グローバル人材」に必要な資質・能力の育成を目指す。

<各学年で育成する力>

1年生	発見する力	・課題を発見する力 ・「なぜ？」を見出して追求する力 ・他者の困り感に気づく力 など
1・2年生	まとめる力	・情報を共有する力 (コミュニケーション能力) ・協働する力、リーダーシップ など
2・3年生	伝える力	・自分の考えを言語化する力 ・情報を的確に伝える力

		・活動計画や取り組み方などを筋道を立てて他者に伝える力 など
3年生	共創する力	・2年生までに培った上記の力を発揮して、他者と協力しながら課題解決しようとする力

<単位>

- 3年間で3単位（各学年1単位）を取得予定

<コマの設定>

- 総合的な探究の時間と連結して2時間連続のコマとして設定
(例：1～3学年すべて月曜日5・6校時)

<学びの形態>

- 各学年に分かれて活動を行うのではなく、プロジェクトごとに各学年8名程度から構成される24名のチームを作って学ぶ（学年横断プロジェクト）。

<プロジェクト>

- 各プロジェクトのテーマや詳細は、教員が設定するのではなく、地域の方々との対話などを通じて生徒自身が課題を発見し、地域の方や企業等と協働して課題解決を目指すものとする。
- 各プロジェクトは、地域人材や大学・企業等とも連携・協働して取り組むよう心がける（学校だけで完結させない）。

イ カリキュラムの共同開発

(ア) カリキュラム等コーディネーターと大学生との共同開発

当初は、「カリキュラム検討委員会」のメンバーだけでカリキュラムの検討を重ねたが、初めての試みであり、教職員の経験値もないことから、案を出すこと自体が難しく、案が出てはすぐに立ち消えになるといったことの繰り返しであった。

メンバーからも、学校の教職員だけの検討には限界があり、外部有識者からの指導・助言が必要との意見が出たことから、カリキュラム等CN（大学准教授）及び大学生にも参加をお願いした。

(イ) 共同開発の効果

カリキュラム等CNや大学生が検討の場に加わったことにより、以下のような利点があった。

利 点

- 大学における地域社会に関する学びの実践例が参考になった。
- カリキュラム検討に、高校生と年齢に近い大学生が参加することで、「生徒の実像」を念頭に置きながらカリキュラム開発することができた。



ウ カリキュラム開発にかかる今後の展望

①カリキュラムの内容にかかる共通理解

- ・ 令和5年度からのカリキュラムの試行実施に当たり、カリキュラムの目的や育成したい生徒像にかかる教職員間の共通理解を図るため、ワークショップ形式での対話の場を設ける予定である。
- ・ カリキュラムの内容にかかる情報共有は、本校での実施のみならず、本校とつながりの深い地域の方々や大学・企業等との共有も必要である。そのため、ホームページ・SNSなどを通じた情報提供や、公開授業なども実施する予定である。

②カリキュラムの試行実施に向けた準備

- ・ 令和5年度では、第1学年で試行実施する。
- ・ 試行実施に向けて、「カリキュラム検討委員会」で準備すべき内容を確認
- ・ 準備すべき内容については、カリキュラム等CNと一緒に検討
- ・ 北九州市立大学（地域創生学群）の大学生とも意見交換を実施

③カリキュラムの試行実施の振り返りと改善

- ・ 試行実施状況をカリキュラム等CNと共有し、定期的に取り組を振り返り、ブラッシュアップしていく。

④連携・協働する地域や大学・企業等との検討部会の立ち上げ

- ・ 実際に連携・協働する方々と、カリキュラムの目的や育成する生徒像などを共有するための対話の場を設定したいと考えている。
- ・ 検討部会を立ち上げる理由は、カリキュラムの試行実施の結果を踏まえた振り返りや改善策の検討を、学校の教職員だけで実施するのではなく、様々な分野で活躍する方々の視点も取り入れるためである。
- ・ コンソーシアムや運営指導委員会においても試行実施結果を報告して、いただいたご意見をカリキュラムの改善に生かしていく。

3 令和5年度の展望

令和6年度からの新学科「未来共創科」には、これまでの「普通科」で実施してきた教育課程に加えて、北九州市立高等学校独自の設定教科「(仮称)未来共創学」(以下「未来共創学」という。)を新設する。必修科目「総合的な探究の時間」(以下「総探」という。)と合わせて、6単位以上を取得できるように設定する。

令和5年度は、そのプレ実施年度であることから、外部と連携・協働した授業づくり、学年・学校種を超える学び、タテ(先輩、後輩)・ヨコ(同輩)・ナナメ(学校外など)の関係づくり、市役所・区役所等との連携・協力体制の構築に尽力していきたい。

また、令和5年度は新学科の生徒募集の時期に当たるので、広報魅力化コーディネーターとも密に連携しながら、戦略的な広報活動に取り組む。

令和5年度のスケジュール案

- 4月～ (仮称)未来共創学の試行
- 5月 新学科について掲載した広報物等の作成・周知
各中学校での説明開始
- 6月 新学科教科書採択
- 9月 高校魅力化評価システムの実施
- 9・10月 学校見学会
- 10月 入試要項発表
- 1月～3月 選抜試験

※コンソーシアム及び運営指導委員会は定期的開催(年間3～4回ずつ程度)

※カリキュラム等CNと連携して、カリキュラム開発協議を毎月実施

北九州市における後期中等教育機関の今後の方針について（概要）

【現状・課題】

- ・ 学校設置時と比べて、産業構造や若年人口減などの社会情勢が大きく変化している。
- ・ 後期中等教育に関しては、主に広域自治体が担っており、基礎自治体である本市がいかに関わっていくか。

R1.12.17 北九州市後期中等教育に関する検討会議（有識者会議）を設置

【意見のまとめ概要（R2.8.26公表）】

●北九州市立高等学校

- ・ 存続について、全体としては肯定的な意見が多かったものの、改革も急務
- ・ 地域の魅力を生かした特色ある教育内容の充実のため、「個別最適化」された学習や「探究活動」の推進、それを支えるための「学びの土壌づくり」、近隣の大学や地域社会との連携などが重要

●戸畑高等専修学校

- ・ 産業構造の変化等を踏まえると、服飾分野の高等専修学校を本市が維持するには厳しい側面（学びを生かした進路や専門性の高い教員の確保など）
- ・ 「市が有する意義として新たな取組を見出せるか」等、教育委員会において、方向性を十分に検討した上で最終的な結論を出してほしい。

意見のまとめを踏まえて教育委員会で検討

北九州市立高等学校

市立高校検討WG（4回）

➡ 教育内容を充実するための具体的な取組を推進

- ◎ 「（仮称）市高タイム」の導入（R3試行実施、R4本格導入）
 - ・ 部活動、資格講座、小論文講座、地域活動等を選択でき、自分の裁量で学べる個別最適化された学習環境の提供
- ◎ 探究的な学習活動の充実（R3～順次実施）
 - ① SDGsをテーマに3年間に渡る学習を可能にする
 - ② 学校内外の資源を活用し、専門家による研修などを通じて学習活動を充実化
- ◎ 学科構成の検討（R3～）
 - ・ 現在の普通科を「地域社会に関する学科」に転換することを検討
- ◎ 「スクール・ポリシー」の策定（R5施行予定）

戸畑高等専修学校

近年の縫製関連の企業に就職している卒業生の減少、縫製に係る本市全体の従業者数等の減少状況、さらに入学生も減少している状況を踏まえると、今後も服飾分野の高等専修学校を本市が維持する必要性を十分に説明することは困難なため、生徒の募集を中止する。⇒令和4年度以降の入学生の生徒募集は実施しない

北九州市における後期中等教育機関の今後の方針について

1. 経緯

北九州市教育委員会では、後期中等教育機関として、北九州市立高等学校と戸畑高等専修学校の2校を設置している。

産業構造の変化や若年人口の減少など社会経済の状況が大きく変わっていることなどから、令和2年1月から「北九州市後期中等教育に関する検討会議」（以下「検討会議」という。）を開催し、同年8月に意見がまとめられた。これに基づき、教育委員会の関係部局等において、今後の対応について検討を行った結果、本市における後期中等教育機関に係る今後の方針を策定することとする。

2. 北九州市立高等学校に関する今後の方針

検討会議の意見のまとめの内容を具現化するため、教職員・生徒会・PTA・教育委員会にてワーキンググループを開催して検討を進めた。

ワーキンググループでの議論等を踏まえ、部活動などの現在成果を出している取組は継続しつつ、北九州市立高等学校の教育内容を充実していくための取組を進める。具体的な内容は次のとおりである。

(1) 学科の構成の変更

文部科学省では、高等学校設置基準の一部を改正することにより、令和4年度から、普通教育を主とする学科として、普通科のほか、「地域社会に関する学科」など、普通教育を施す学科として適当な規模及び内容があると認められる学科を設けられることとする予定である。特に、「地域社会に関する学科」を置く高等学校は、次のとおり関係機関等との連携協力体制を置くこととする予定である。

- (a) 地域社会に関する学校設定教科に関する科目の開設及び実施その他学校運営の円滑かつ効果的な実施のために、当該高等学校が所在する地方公共団体又はその地域の活性化等に関する活動を行う団体との連携協力体制を置くこと。
- (b) また、これらの連携協力体制の整備及び連絡調整に従事する職員の配置など、関係団体との連携協力が円滑に行われるように教職員組織を編制するよう努めること。

北九州市立高等学校については、唯一の市立の高等学校として、地域に根ざし、地域の魅力を活かした教育機関を目指すため、現在の普通科を「地域社会に関する学科」に転換することとする。

転換した際のカリキュラムや上記のように関係機関と連携した教育体制の構築等の方向性を令和3年度中にとりまとめ、令和4年度は転換に向けた準備等を行い、令和5年度に新たな学科を設置し、入学生を受け入れることを目指す。

(2) スクール・ポリシーの策定

文部科学省では、すべての高等学校において、遅くとも令和6年度までに、学科等ごとに、次に掲げる方針（以下「スクール・ポリシー」という。）を定め、公表することとするため、学校教育法施行規則の一部を改正する予定である。

【3つのスクール・ポリシー】

- (a) 育成を目指す資質・能力に関する方針
- (b) 教育課程の編成及び実施に関する方針
- (c) 入学者の受入れに関する方針

北九州市立高等学校においては、まず学校のミッションを見直し、その内容に基づいてスクール・ポリシーを策定することとする。

学校のミッションについては、

- ・創造性や行動力を持ちつつ、市に対して愛着をもった若者を育成していくこと。
- ・北九州市が一丸となって進めている SDGs を教育活動に導入し、国際的な視点を持ちつつ、地域で活動できる人材を育成すること。
- ・卒業後に就職と進学の両方が一定数いる学校であることも踏まえて、入学後に生徒のニーズにあわせた個別最適化された学習環境の推進すること。
- ・上記取組にあわせて、市立である強みを生かして地域に根差した取組を多く行うとともに、外部人材の活用などをさらに進めること。

などの内容を基本にさらなる検討を進め、策定を行うこととする。

新しい学校のミッションは、令和3年度中に作成し、後に示す「(3) 探究的な学習活動の充実」、「(4) 市高タイムの導入」の内容も踏まえ、スクール・ポリシーは令和4年度中に作成を進め、学科の転換とあわせて令和5年度から施行できるように取り組む。

(3) 探究的な学習活動の充実

新しい学習指導要領でより重視された「探究的な学習活動」を充実するため、本市が一丸となって取り組んでいる SDGs をテーマに1年生から3年生まで継続して探求的な学習を行えるように準備を進め、令和3年度から順次実施を進める。

なお、専門家を招いて研修を行うなど、探究的な学習活動を充実させるための取組を行っていく。

(4) 市高タイムの導入

個別最適化された学習環境を提供する観点から、既存の教科に関する授業時間を精選し、生徒個人の関心や進路希望等に応じて、部活動、資格講座、小論文講座、

地域活動などを選択できる時間として「市高タイム」を導入することとし、令和3年度は取組の試行を行い、令和4年度からの本格的に導入する。

(5) 環境の整備

上記の内容を効果的に行っていくために、教職員の配置を含めて環境整備が必要となる。そのため、上記の内容を具体化していく過程で、必要な環境の整備をあわせて進めていくこととする。

3. 戸畑高等専修学校に関する今後の方針

(1) 基本的方向性

検討会議では、戸畑高等専修学校については、「限られた時間の中での議論であったため、存続や廃止について結論を出すことは難しいが、存続について厳しい側面があることについては確認された」とされ、教育委員会において今後を検討する観点として、次の3つが示された。

【検討の観点】

- ① 北九州市が引き続き有していくことを十分に説明できる新たな取組を見出せるか。
- ② 意義ある取組を行うために実施すべき内容としてどのようなことがあるか。
- ③ 実施すべき内容について現在の学校や北九州市の資源で対応可能か。

この観点を踏まえて検討を進めた結果は次のとおりである。

- ・縫製技術等に係る専門的な人材を育成し、縫製に関連する企業に多くの人材を供給するなど、これまで本市の産業等に対して大きな役割を果たしてきたところである。
- ・一方で、近年では縫製に関連する企業に就職している卒業生の減少、縫製に係る本市全体の従業者数等の減少状況、さらに入学生も減少している状況を踏まえると、今後も服飾分野の高等専修学校を北九州市が維持する必要性を十分に説明することは困難である。
- ・分野を転換する場合は、分野にあわせた教室の整備や新たな教員の確保などが必要となるが、服飾に関連のある分野では、これらの資源を確保してまで転換した方が良いと考えられる分野は見出されなかった。

以上の検討結果から、検討の観点①を十分に説明することは難しく、生徒の募集を中止することとする。

(2) 今後のスケジュール

令和4年度入学生の生徒募集は実施せず、令和3年度入学生が卒業する段階で学校を廃止する方向で、制度面も含めて調整を進めることとする。

北九州市立高等学校の魅力向上事業について

1 経緯

- (1) 令和3年1月 中央教育審議会答申「『令和の日本型学校教育』の構築を目指して」
- (2) 令和3年4月21日 教育文化委員会報告
「北九州市における後期中等教育機関の今後の方針について」
→ 「普通科」を「地域社会に関する学科」に変更 など

2 新学科検討の経過

- (1) 文部科学省
「令和4年度 新時代に対応した高等学校改革推進事業（普通科改革支援事業）」採択
- (2) 産・官・学・民から構成される有識者会議の設置・協議（令和4年度）
「市高魅力化コンソーシアム」
「北九州市立高等学校の魅力向上事業にかかる運営指導委員会」
- (3) スクール・ミッション及びスクール・ポリシーの検討

3 「普通科」から「未来共創科」へ

- ・「普通科」を「未来共創科」に改称し、生徒が学校内外の様々な年齢・分野・立場の方々と対話・連携・協働しながら、共に未来を創造する学びを通して、「北九州グローバル人材」として必要な資質・能力の育成を目指す。
- ・総合型選抜（大学入試）などにおいて必要な表現力・発信力の育成も目指す。

	R4年度の学科		定員	→		R6年度からの学科		定員
	組	学科				組	学科	
普通科	1組	普通科	80人	→	普通科	1組	未来共創科	120人
	2組	普通科				2組	未来共創科	
			3組			未来共創科		
専門学科	1組	情報ビジネス科	120人		専門学科	1組	情報ビジネス科	80人
	2組	情報ビジネス科				2組	情報ビジネス科	
	3組	情報ビジネス科						

4 アンケート調査の実施

- ・北九州市立高等学校にかかる魅力向上プラン案を踏まえ、中学生及び保護者、北九州市立高等学校の生徒、大学・企業にアンケート調査を実施。今後のカリキュラムや学習内容等に生かしていく。

北九州市立高等学校にかかる魅力向上プラン(案) ～「普通科」から「未来共創科」へ～

はじめに

令和3年1月 中央教育審議会答申『令和の日本型学校教育』の構築を目指して」より

高等学校

(1)各学科に共通した基本的な考え方

- ①生徒の多様な能力・適性、興味・関心等に応じた学びの実現が必要
- ②高校生の学習意欲を喚起し、可能性・能力を最大限に伸長するものへと転換
- ③社会の変化や令和4年度から実施される新学習指導要領を踏まえた高校の在り方の検討
- ④主権者の一人としての自覚を深め、学びに向かう力の育成やキャリア教育の充実を図る
- ⑤遠隔・オンラインと対面・オンラインの最適な組合せを検討

(2)高校生の学習意欲を喚起し、可能性及び能力を最大限に伸長するための各高校の特色化・魅力化

- ①スクール・ミッションの再定義：各高校の存在意義・社会的役割等を明確化
- ②スクール・ポリシーの策定：各高校の入り口から出口までの教育活動の指針の策定
- ③普通科改革：「普通科教育を主とする学科」の弾力化・大綱化
- ④高等教育機関や地域社会等の関係機関と連携・協働した高度な学びの提供 など

- 令和3年「北九州市における後期中等教育機関の今後の方針について」を踏まえ、北九州市立高等学校のさらなる魅力向上を図り、生徒の学びの一層の充実に向けて取組を推進している。
- 令和4年度から文部科学省「新時代に対応した高等学校改革推進事業（普通科改革支援事業）」の指定を受け、新しい学びの在り方などを議論している。

1 未来の社会の見通し

- AI やロボットで代替しやすい職種では雇用が減少するが、代替しづらい職種や新たな技術開発を担う職種では雇用が増加するとの見通し。
- これからの時代に必要な能力・スキルは、基礎能力や高度な専門知識だけではなく、根源的な意識・行動面に至る能力や姿勢が求められる。

キーワード

ゼロからイチを生み出す能力

夢中を手放さず一つのことを掘り下げる姿勢

グローバルな社会課題を解決する意欲

多様性を受容し他者と協働する能力

2 社会構造の変化と従来の教育からの脱却について(令和答申より)

- 社会の変化が加速度を増し、複雑で予測困難な時代背景を踏まえて、よりよい社会を創るという理念を学校と社会が共有していくことが必要。
- 「知識の習得」が重視された、従来の「コンテンツ・ベースの学び」から、「知識の習得だけでなく、知識を使う能力（思考力やコミュニケーション能力など）」の育成に重点を置いた「コンピテンシー・ベースの学び」、主体的・対話的な深い学びへと変化してきている。
- 学校教育を学校内に閉じるのではなく、地域の人的・物的資源も活用して、社会との連携及び協働によってその実現を図る「社会に開かれた教育課程」が重視されている。

キーワード

教科等横断的な視点での教育内容等の組立て（STEAM教育）

カリキュラムマネジメント

ICTとの最適な組合せ など

3 高等学校改革等にかかる国の動向について

- 産業構造や社会システムが「非連続的」かつ急激に変化している現代では、実社会で求められる能力も日々刻々と変化している。
- 民法の改正により、令和4年に成年年齢と選挙権年齢が18歳に引き下げられた。主権者の一人として自覚を深めること、自立した「大人」として振る舞えるようになることが必要。
- 大学入試等においても、探究的な活動を通じて身に付く能力・資質等を評価する取組が求められている。

キーワード

個別最適な学び

協働的な学び

そろえる教育から伸ばす教育へ

多様な幸せ (well-being)

社会や民間の専門性やリソースの活用 (教育 DX)

一つの学校が全ての分野・機能を担う構造から協働する体制へ

デジタル技術

- 高等学校を選ぶ際に、多くの生徒は学校の特色・教育内容ではなく、いわゆる偏差値を基に選択している現状や、普通科では受験や就職に役立つ教科以外への意欲が薄れがちとの指摘もある。

➡ 国は、約7割の生徒が進学する「普通科」の画一的な在り方を見直し、偏差値ではなく、特色や魅力で選ばれる高等学校を増やし、授業についても生徒を惹きつける内容を充実させて、生徒の学習意欲を高めることを目的として、令和3年に学校教育法施行規則等の一部を改正した。

4 北九州市立高等学校にかかる現状と魅力向上に向けた取組

- 近年15歳以下の人口が減少しており、情報ビジネス科は志願倍率も下降傾向。
- 令和3年に、北九州市立高等学校は存続させるものの、地域の魅力を生かした特色ある教育内容の充実などの改革が急務であり、探究的な学習活動の充実や学科構成を変更することを決定。
- 令和4年度から文部科学省「普通科改革支援事業」の指定を受けている。有識者会議での議論なども踏まえて、新しい時代の学びの在り方や新学科での学校設定教科の内容などに生かしていく。
- 外部人材ならではの大胆な発想と幅広いネットワークを生かして、本市が目指す「市高の魅力向上」を推進するため、民間人校長を採用。
- 令和4年度中に北九州市立高等学校のスクール・ミッションを策定・公表予定。
令和5年度末までに、スクール・ポリシーを策定・公表予定。

5 「普通科」から「未来共創科」へ

- 令和6年度から、従来の「普通科」を「未来共創科」に改称予定。定員変更も実施予定（未来共創科120名、情報ビジネス科80名へ。）
- 「未来共創科」では、生徒が学校内外の様々な年齢・分野・立場の方々と対話・連携・協働しながら、共に未来を創造する学びを通して、「北九州グローバル人材」として必要な資質・能力の育成を目指すとともに、総合型選抜（大学入試）の要となる表現力・発信力の育成を目指す学科へと進化させる。
- 「未来共創科」には、これまでの「普通科」で実施してきた教育課程に加えて、北九州市立高等学校独自の設定教科「(仮称)未来共創学」を新設する。
- 大学・企業・行政・地域などと連携・対話して、社会課題などに対する改善策を検討していく。
- 枠にとらわれない学びのスタイルや横断型の授業・教育活動を柔軟に組み込む。
- 本市が所管する施設等とも連携しながら、北九州市立高等学校ならではの探究活動の充実を図る。
- 「指導から支援へ」、「自前から外部との連携・協働」、より質の高い学びにつなげるための「授業研究」に重点を置き、北九州市立高等学校全体の底上げを図り、生徒の明るい未来につなげる。

北九州市立高等学校の概要（令和4年5月1日現在）

- ◇ 所在地 北九州市戸畑区浅生一丁目10番1号
- ◇ 開校 昭和38年
- ◇ 定員 600名（各学年200名×3学年）
 - 各学年の内訳： 普通科（各学年80名）
 - 情報ビジネス科（各学年120名）
- ◇ 生徒数 584名
- ◇ 沿革
 - 昭和38年 開校（開校時は北九州市立戸畑商業高等学校）
 - 平成11年 学科改編によって、①商業科（進学コース・ビジネスコース）及び②情報処理科の2学科へ
 - 平成19年 学科改編によって、①普通科及び②情報ビジネス科へ名称を「北九州市立高等学校」に変更
 - 平成29年 通学区域を「市内」→「県内」へ（平成30年度入学者～）
 - 令和元年 令和2年度入学者から情報ビジネス科の定員変更（160名→120名）

志願倍率

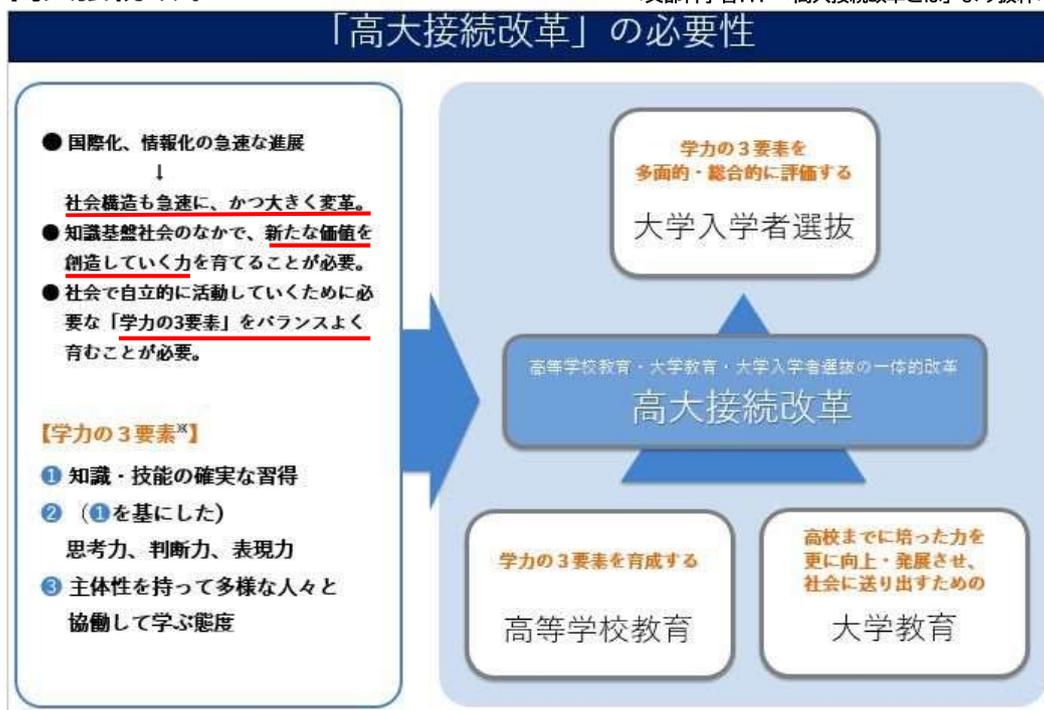


1

高等学校改革等にかかる国・北九州市の動向 ① 高大接続改革

1. 高大接続改革

<文部科学省HP「高大接続改革とは」より抜粋>



※ 学力の3要素は、中央教育審議会「新しい時代にふさわしい高大接続の実現に向けた高等学校教育、大学教育、大学入学者選抜の一体的改革について～全ての若者が夢や目標を芽吹かせ、未来に花開かせるために～（答申）」（平成26年12月22日）で示されたもの。

2

2. 高等学校改革

平成31年4月 文科省→中央教育審議会に諮問「新しい時代の初等中等教育の在り方について」
 ※ 諮問事項の一つに「新時代に対応した高等学校教育の在り方」

令和元年12月～令和2年8月 北九州市後期中等教育に関する検討会議（有識者会議）

令和2年8月 上記検討会議から「意見のまとめ」

【北九州市立高等学校】

- ・ 存続について、全体としては肯定的な意見が多かったものの、**改革も急務**
- ・ **地域の魅力を生かした特色ある教育内容の充実のため、「個別最適化」された学習や「探究活動」の推進、それを支えるための「学びの土壌づくり」、近隣の大学や地域社会との連携**などが重要

令和2年11月 中教審「新しい時代の高等学校教育の在り方WG」から審議まとめ
 「多様な生徒が社会とつながり、学ぶ意欲が育まれる魅力ある高等学校教育の実現に向けて」

令和3年1月 中教審答申「『令和の日本型学校教育』の構築を目指して」

第Ⅱ部 各論「3 新時代に対応した高等学校教育等の在り方について」

(1) 各学科に共通した基本的な考え方

- ① 様々な背景の生徒が在籍するため、**生徒の多様な能力・適正・興味・関心等に応じた学びの実現が必要**
- ② 高校での教育活動を、**高校生の学習意欲を喚起し、可能性・能力を最大限に伸長するものへと転換**
- ③ **社会経済の変化**やR4年度から実施される新学習指導要領を踏まえた高校の在り方の検討が必要
- ④ 在学中の生徒が**主権者の一人としての自覚を深める学び**が求められており、**学びに向かう力の育成やキャリア教育の充実**を図ることが必要
- ⑤ 新型コロナウイルス感染症の感染拡大を通じて再認識された高校の役割や価値を踏まえ、**遠隔・オンラインと対面・オンラインの最適な組み合わせ**を検討

3

(2) 高校生の学習意欲を喚起し、可能性及び能力を最大限に伸長するための各高校の特色化・魅力化

- ① **スクール・ミッションの再定義**：各高校の存在意義・社会的役割等を明確化
- ② **スクール・ポリシーの策定**：各高校の入り口から出口までの教育活動の指針の策定
- ③ **普通科改革**：「普通科教育を主とする学科」の弾力化・大綱化
 - ・ 「普通科教育を主とする学科」を置く各高等学校が、各設置者の判断により、学際的な学びに重点的に取り組む学科、地域社会に関する学びに重点的に取り組む学科等を設置可能とする制度的措置
 - ・ 新たな学科における教育課程においては、**学校設定教科・科目**や総合的な探究の時間を各年次にわたって体系的に開設、国内外の関係機関との連携・協働体制の構築、**コーディネーターの配置**
- ④ 産業界と一体となって地域産業界を支える革新的職業人材の育成（専門学科改革）
- ⑤ 新しい時代にこそ求められる総合学科における学びの推進
- ⑥ 高等教育機関や地域社会等の関係機関と連携・協働した高度な学びの提供

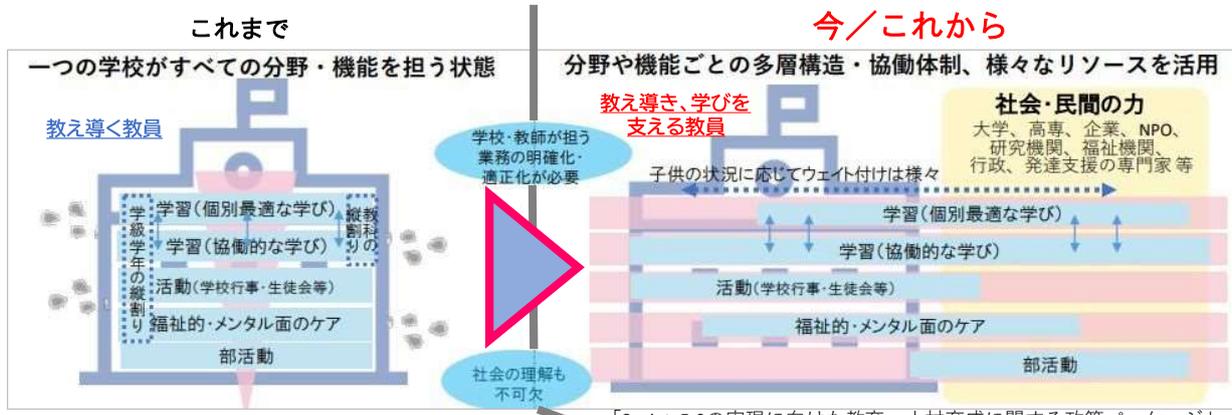
令和3年3月25日 教育委員会会議にて「北九州市における後期中等教育機関の今後の方針について」決定

【北九州市立高等学校】

- ◎ 「（仮称）市高タイム」の導入（R4年度から本格導入）
- ◎ 探究的な学習活動の充実
- ◎ 学科構成の転換：**現在の普通科を「地域社会に関する学科」へ**
 （※報告時の予定ではR5年度設置だったが、準備に時間を要するため、R6年度設置に変更）
- ◎ 「スクール・ポリシー」の策定（R5年度施行）

令和3年4月21日 上記方針を北九州市議会に報告

この方針に沿って、市立高校の魅力向上や取組の充実を図っていくことになりました 4

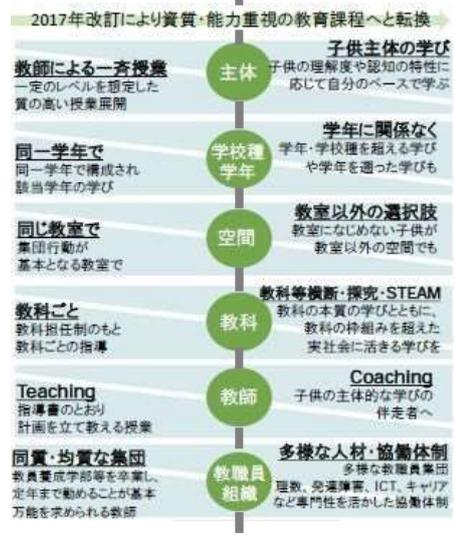


「Society5.0の実現に向けた教育・人材育成に関する政策パッケージ」より

ピラミッド組織の人の力で媒体をつないだ時代



- 「具体」のゴールあり
- 「モノ」を所有
- 業界内での競合、身内主義
- 連続的イノベーション



AI・DX・ビッグデータ...
必要な解を自分で選ぶ時代
必要な解・情報がやってくる時代

- 「抽象」の時代。正解なし
- 新サービスの誕生
- 分野を超えた競合や連携が当たり前
- 非連続なイノベーション

現在は「注意深さ・ミスがないこと」、「責任感・まじめさ」が重視されるが、
将来は「問題発見力」、「的確な予測」、「革新性」が一層求められる。

56の能力等に対する需要

2015年		2050年	
注意深さ・ミスがないこと	1.14	問題発見力	1.52
責任感・まじめさ	1.13	的確な予測	1.25
信頼感・誠実さ	1.12	革新性*	1.19
基本機能 (読み、書き、計算、等)	1.11	的確な決定	1.12
スピード	1.10	情報収集	1.11
柔軟性	1.10	客観視	1.11
社会常識・マナー	1.10	コンピュータスキル	1.09
粘り強さ	1.09	言語スキル：口頭	1.08
基盤スキル*	1.09	科学・技術	1.07
意欲積極性	1.09	柔軟性	1.07
⋮	⋮	⋮	⋮

*基盤スキル：広く様々なことを、正確に、早くできるスキル

*革新性：新たなモノ、サービス、方法等を作り出す能力

経済産業省「未来人材ビジョン」より



新時代に対応した高等学校改革推進事業

令和3年1月の中央教育審議会答申において提言された普通教育を主とする学科の弾力化(普通科改革)や教科等横断的な学習の推進による資質・能力の育成を実現するため、令和4年度から設置が可能となる学際領域学科及び地域社会学科の設置を予定している学校の取組を推進するとともに、遠隔・オンライン教育等を活用した新たな教育方法を用いたカリキュラム開発等のモデル事業を実施する。加えて、新学科における学びや教科等横断的な学びを実現するためには、地域、大学、国際機関等との連携協力、調整が必要であり、その役割を担う「コーディネーター」について、その育成や活用を支援するための全国プラットフォームを構築する。

事業内容

<h3>①普通科改革支援事業</h3> <p>令和4年度より設置が可能となる学際領域学科及び地域社会学科を設置する予定の高等学校等に対し、設置にあたって義務化されている関係機関等との連携協力体制の整備や、配置が努力義務化されているコーディネーターの配置など、新学科設置の取組を推進する。</p>	<h3>②創造的教育方法実践プログラム</h3> <p>教科等横断的な学びの実現による資質・能力の育成の推進のため、遠隔・オンライン教育や質が確保された通信教育を活用した新たな方法による学びを実現する。具体的には、(1)Society 5.0に対応する先端的な学び、(2)自分のペースでの学習に着目し、同一設置者の学校間のみでなく、他地域における大学や研究機関、国際機関等の関係機関からの同時双方向型の授業を取り入れたカリキュラム開発を行い、新しい時代の学びを創造する。</p>	<h3>③高校コーディネーター全国プラットフォーム構築事業 (PDCAサイクルの構築)</h3> <p>高校と地域、関係団体等とをつなぐコーディネーターの全国的なプラットフォームを構築する。プラットフォームにおいては、コーディネーター人材やコーディネーターを受け入れる学校に対する研修を行うとともに、コーディネーター間の情報共有を促す場を創出することで、コーディネーターが持続的効果的に活躍できるようにするとともに、成果指標の検証による高等学校改革のPDCAサイクルの構築を図る。</p>
対象校種 国公立の高等学校	委託先 学校設置者、民間団体等(予定)	
箇所数 ①24校 5,600千円/1校 ②8箇所 6,000千円/1校 ③1団体 20,000千円/1団体	委託対象経費 ①新学科の設置に必要な経費(委託) ②新たな教育方法を用いた学びに必要な経費(委託) ③プラットフォームの構築や成果検証に必要な経費(委託)	

7

北九州市教育委員会

令和4年度 新時代に対応した高等学校改革推進事業(普通科改革支援事業)

【北九州市立高等学校】地域社会にかかる新学科を設置(令和6年度予定)

新学科の目的:
SDGsの視点から社会課題を捉え、探究活動と「産・官・学・民」の連携によって社会変革とビジネスの一致を目指すとともに、未来の社会や世界をけん引する力を備えた若者を育成します。

学校を支援する人材
地域住民
企業、大学、行政

探究的な学習活動の充実
(PBL、STEAM等の手法を用いた学び)
SDGsをテーマに3年間に渡る学習を可能。学校内外の資源を活用し、専門家による研修などを通して学習活動を充実

学校設定の独自教科を新設
企業や大学の協力で、情報ビジネス科との連携の下、社会問題・社会課題をビジネスの視点から着目し、解決に導くことを目指す。→ 地方創生、新たな産業の創出

(仮称)「市高タイム」の導入
資格講座、小論文講座、地域活動、部活動等を選択でき、自分の裁量で学べる個別最適化された学習環境を提供

市民からさらに愛され、選ばれる学校へ

- 生徒のキャリア育成
- 地域人材の育成
- 主権者教育
- 小中高大の連携
- 持続可能な地域との協働学習

コーディネーター
・外部との連携調整
・考察のみならず、事業化などの視点も取り入れたカリキュラムの開発など

主体性・企画力・協働する力を持つ生徒の育成

学びたいことを積極的に提案(主体性・企画力) → 提案に応じた学校支援 → 情報ビジネス科との協働・交流(商業のノウハウなど)

運営指導委員会
事業の目的・年間計画等の検討・承認

「産・官・学・民」連携によるコンソーシアム

「北九州市立」だからできること

- **市内唯一の「市立」高等学校である強み**
 - ・市立小・中・高と系統的な学びが可能
 - ・北九州市役所の様々な部署(産業経済局、環境局等)との連携、協力体制を構築(多種多様な分野の外部人材、企業等との連携が可能)
- **「産・官・学・民」が連携して世界の環境都市に成長した実績**
 - ・「産・官・学・民」の力で公害を克服した実績(ピンチをチャンスに変えてきた「市民力」の精神)
 - ・環境モデル都市、環境未来都市、SDGs未来都市等の取組を通じて、シビックプライドを醸成(北九州市民であることの誇り)

「産・官・学・民」が連携して公害を克服

OECDより「SDGs推進に向けた世界のモデル都市」に選定

8

28

「普通科」から「未来共創科」へ

スクール・ミッション (案)

市内唯一の「市立」高等学校の強みである北九州市のリソースを活用して、「産・官・学・民」と連携・協働しながら、絶えず変化する未来の社会や世界をけん引する若者を育成します。

未来共創科

生徒が学校内外の様々な年齢・分野・立場の方々と
対話・連携・協働しながら**共に未来を創造**する学びを通して
「北九州グローバル人材」として必要な資質・能力の育成を目指すとともに
総合型選抜（大学入試）などにおいて必要な**表現力・発信力の育成**も目指す学科

学科構成

		R 4 年度の学科		定員			R 6 年度からの学科		定員
普通科	1組	普通科		80人	➔	普通科	1組	未来共創科	120人
	2組	普通科					2組	未来共創科	
専門学科	1組	情報ビジネス科		120人			専門学科	3組	
	2組	情報ビジネス科			1組	情報ビジネス科			
	3組	情報ビジネス科			2組	情報ビジネス科			

進行イメージ

		R 5 年度			R 6 年度			R 7 年度			R 8 年度					
		1年生	2年生	3年生												
➔	1組	普通科	普通科	普通科	1組	新学科	普通科	普通科	1組	新学科	新学科	普通科	1組	新学科	新学科	新学科
	2組	普通科	普通科	普通科	2組	新学科	普通科	普通科	2組	新学科	新学科	普通科	2組	新学科	新学科	新学科
	3組	情ビ科	情ビ科	情ビ科	3組	新学科	情ビ科	情ビ科	3組	新学科	新学科	情ビ科	3組	新学科	新学科	新学科
	4組	情ビ科	情ビ科	情ビ科	4組	情ビ科	情ビ科	情ビ科	4組	情ビ科	情ビ科	情ビ科	4組	情ビ科	情ビ科	情ビ科
	5組	情ビ科	情ビ科	情ビ科	5組	情ビ科	情ビ科	情ビ科	5組	情ビ科	情ビ科	情ビ科	5組	情ビ科	情ビ科	情ビ科

初実績

9

教育課程案 (未来共創科)

新学科	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31
1年	現代の国語	言語文化	歴史総合	公共	数学I	数学A	物理基礎	生物基礎	体育	保健	英コミI	英語論表I	家庭基礎	総探	学校設定教科	HR	教科等横断的な学びの充実														
2年	文系 論理国語	文学国語	古典探究	数学II	数学B	地理総合	日史探究/世史探究	化学基礎	体育	保健	情報I	英コミII(-1)	英語論表II	総探	学校設定教科	HR	教科等横断的な学びの充実														
	理系 論理国語	古典探究	数学II	数学B	地理総合	化学基礎	物理/生物	化学	体育	保健	情報I	英コミII(-1)	英語論表II	総探	学校設定教科	HR															
3年	文系 論理国語	文学国語	古典探究	数学C(+1)	日本探(+2)/世界探(+2)	政治経済	理科演習	教科演習	体育	英コミIII(-1)	英語論表II(+2)	芸術I	総探	学校設定教科	HR	教科等横断的な学びの充実															
	理系 論理国語	古典短探究	数学III(+1)	数学C	地理探究	物理(+1)/生物(+1)	化学(+1)	体育	英コミIII(-1)	英語論表II(+2)	芸術I	総探	学校設定教科	HR																	

学校設定教科 (仮称「未来共創学」) での取組例

- ◆北九州市にゆかりがあり活躍されている方による講演やワークショップの設定 (ロールモデルとの出会い)
- ◆学校内外で、自分の世界観や視野を広げる機会の設定 (出前講義、対話、フィールドワーク、インターシップなど)
- ◆生徒が主体的に探究を行うための異学年の交流の場の設定
- ◆探究した内容を発表する場 (アウトプット) の設定 (学校内外)

10

北九州市立高等学校にかかる
魅力向上プラン(案)
～「普通科」から「未来共創科」へ～

令和5年2月

北九州市立高等学校
北九州市教育委員会

はじめに

令和3年1月に、中央教育審議会答申「『令和の日本型学校教育』の構築を目指して」（以下「令和答申」という。）が発表されました。この答申の中で、「新時代に対応した高等学校教育等の在り方」として、以下の考え方が示されました。

（1）各学科に共通した基本的な考え方

- ①生徒の多様な能力・適性、興味・関心等に応じた学びの実現が必要
- ②高校生の学習意欲を喚起し、可能性・能力を最大限に伸長するものへと転換
- ③社会の変化や令和4年度から実施される新学習指導要領を踏まえた高校の在り方の検討
- ④主権者の一人としての自覚を深め、学びに向かう力の育成やキャリア教育の充実を図る
- ⑤遠隔・オンラインと対面・オンラインの最適な組合せを検討

（2）高校生の学習意欲を喚起し、可能性及び能力を最大限に伸長するための各高校の特色化・魅力化

- ①スクール・ミッションの再定義：各高校の存在意義・社会的役割等を明確化
- ②スクール・ポリシーの策定：各高校の入り口から出口までの教育活動の指針の策定
- ③普通科改革：「普通科教育を主とする学科」の弾力化・大綱化
- ④高等教育機関や地域社会等の関係機関と連携・協働した高度な学びの提供 など

北九州市教育委員会では、上記の答申及び令和3年に公表した「北九州市における後期中等教育機関の今後の方針について」を踏まえ、北九州市立高等学校のさらなる魅力向上を図り、生徒の学びの一層の充実に向けて取組を推進しています。

令和4年度からは文部科学省「新時代に対応した高等学校改革推進事業（普通科改革支援事業）」の指定を受け、有識者会議（産・官・学・民から構成される「市高魅力化コンソーシアム」及び「北九州市立高等学校の魅力向上事業にかかる運営指導委員会」）を立ち上げ、絶えず変化する社会の中での新しい学びの在り方や外部の関係機関等と連携・協働した教育活動の必要性などについて議論を重ねてきました。

今後の具体的な取組としては、令和4年度中に北九州市立高等学校のスクール・ミッションを、令和5年度末までにスクール・ポリシーを策定・公表します。また、令和6年度に現行の普通科を「未来共創科」に変更し、これまでの普通科のカリキュラムに加えて、様々な年齢・分野・立場の人と対話しながら、共に新たな価値を創造することを目指す教育を実施します。

本魅力向上プランは、これからの時代に必要な学びの在り方と「未来共創科」に新たに追加する学習活動の概要についてまとめ、広く周知するとともに、これからの高等学校のあるべき姿について共通理解を図るものです。

目次

1 未来の社会の見通し	1
2 社会構造の変化と従来の教育からの脱却について（令和答申より）	1—2
3 高等学校改革等にかかる国の動向について	2—6
(1) 高等学校の意義・目的	
(2) 高等学校教育を取り巻く現状と課題（令和答申より）	
(3) 学校やクラスなどの「空間」を超えた学びへ	
(4) なぜ普通科改革か	
(5) 大学入試の変化	
4 北九州市立高等学校にかかる現状と魅力向上に向けた取組	6—9
(1) 現状と課題	
(2) 「北九州市における後期中等教育機関の今後の方針について」	
(3) 北九州市立高等学校の魅力向上事業	
(4) 民間人校長の採用	
(5) スクール・ミッションとスクール・ポリシーの策定	
5 「普通科」から「未来共創科」へ	10—13
(1) 普通科の学科構成の変更	
(2) 令和6年度以降の学科構成及び定員	
(3) 「未来共創科」での探究的な学び	
(4) 学校やクラスの枠を超えた学び — 「タテ」「ヨコ」「ナナメ」の関係づくり—	
(5) 北九州市立高等学校ならではの市役所・区役所等との連携・協力体制の構築	
(6) 「指導者」から「伴走者」へ、そして様々な人材が生徒も教職員も支える学校へ	

参考

14—22

- これまでの協議経過と今後のスケジュール（案）
- 市高魅力化コンソーシアム議事要旨及び構成員名簿
- 北九州市立高等学校の魅力向上事業にかかる運営指導委員会議事要旨及び委員名簿

1 未来の社会の見通し

令和4年5月に、経済産業省から「未来人材ビジョン」が公表されました。このビジョンにおいて、AIやロボットで代替しやすい職種では雇用が減少するものの、代替しづらい職種や新たな技術開発を担う職種では雇用が増加するとの見通しが示されています。

この変化に対処するため、産業界と教育機関が一体となり、今後必要とされる能力等を備えた人材を育成することが求められています。

これからの時代に必要な能力・スキルは基礎能力や高度な専門知識だけではなく、

「常識や前提にとらわれず、ゼロからイチを生み出す能力」

「夢中を手放さず一つのことを掘り下げていく姿勢」

「グローバルな社会課題を解決する意欲」

「多様性を受容し他者と協働する能力」

などの、根源的な意識・行動面に至る能力や姿勢が求められるとも指摘されています。

2 社会構造の変化と従来の教育からの脱却について（令和答申より）

高度経済成長期までの日本では、経済発展を支えるため、上質で均質な労働者の育成が社会の要請として学校教育に求められてきました。

そのため、「みんなと同じことができる」「言われたことを言われたとおりにできる」といった「正解（知識）の暗記」の比重が大きくなり、「自ら課題を見つけ、それを解決する力」を育成することや、他者と協働して、自ら考え抜く学びが十分になされていないのではないかなどの指摘もされてきました。

しかし、社会の変化が加速度を増し、複雑で予測困難な時代背景を踏まえて、平成28年答申に基づく新しい学習指導要領においては、資質・能力を「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」の3つの柱に整理した上で、よりよい学校教育を通して、よりよい社会を創るという理念を学校と社会が共有していくことが求められています。

つまり、「知識の習得」が重視された、従来の「コンテンツ・ベースの学び」から、「知識の習得だけでなく、知識を使う能力（思考力やコミュニケーション能力など）」の育成に重点を置いた「コンピテンシー・ベースの学び」、主体的・対話的な深い学びへと変化してきています。

また、学校教育を学校内に閉じるのではなく、地域の人的・物的資源も活用して、社会との連携及び協働によってその実現を図る「社会に開かれた教育課程」も重視されています。

教育の目的・目標の実現に必要な教育内容等の教科等横断的な視点での組立て（STEAM教育）、実施状況の評価と改善、必要な人的・物的確保などによって教育活動の質を向上させ、学習効果の最大化を図る「カリキュラム・マネジメント」の確立を図ることも重要です。

GIGA スクール構想により、学校の ICT 環境も急速に整備されています。情報化が加速度的に進む Society5.0 の時代において求められる力の育成とともに、ツールとしての ICT を基盤として自ら調整しながら学ぶことができる「個に応じた指導」の充実を図ることや、これまでの取組と ICT との最適な組合せの実現も求められています。

3 高等学校改革等にかかる国の動向について

(1) 高等学校の意義・目的

教育基本法や学校教育法において、高等学校は義務教育の基礎の上に立ち、生徒の心身の発達及び進路に応じて、高度な普通教育及び専門教育を施すことを目的としています。

産業構造や社会システムが「非連続的」かつ急激に変化している現代では、実社会で求められる能力も日々刻々と変わり続けています。

そのため、特定の分野に関する知識及び技能だけではなく、他分野に関する理解や新たなことを学び、挑戦する意欲を育むことも重要とされています。

また、「人生 100 年時代」において、よりよい社会と多様な幸せ（well-being）の創り手を育てることも求められています。

(2) 高等学校教育を取り巻く現状と課題（令和答申より）

日本の高等学校は、義務教育機関ではありませんが、進学率が既に約99%に達しており、中学校を卒業したほぼすべての生徒が進学する教育機関になっています。

そのため、多様な入学動機や進路希望、学習経験など、様々な背景を持つ生徒が在籍しています（例えば、学力面において、非常に高い能力を有している生徒もいれば、小学校及び中学校での学習内容を十分に理解・修得できていない状態の生徒も少なからず見られるなど）。高等学校においては、そのような現状を踏まえた教育活動を展開していくことが大変重要です。

また、すべての高校生が社会で生きていくために必要となる力を共通して身に付けられるようにするだけでなく、生徒一人一人の特性等に応じた多様な可能性を伸ばすための対応をすることにより、高等学校教育の質の確保・向上を目指すことも求められています。

様々な特性等を持つ生徒の学習意欲を喚起する観点からは、すべての生徒の可能性を引き出す教育、個別最適な学びと協働的な学びを実現することが必要であり、これからの高等学校教育の在り方やそれぞれの高等学校に求められる役割を様々な観点から検討する必要があるとされています。

しかしながら、高校生の学習意欲に関する国の調査などによれば、全体的な傾向として、学校生活への満足度や学習意欲が中学校段階に比べて低下しています。

他国との比較においても、日本の普通科の高校生の特徴として、「試験の前にまとめて勉強する」生徒が多い一方で、「自分で整理しながら勉強する」「参考書をたくさん読む」「勉強したものを実際に応用してみる」「教わったことをほかの方法でもやってみる」生徒が少なく、授業中の居眠りも他国と比べて多い傾向にあるなど、能動的に学んでいない実態が指摘されています。

民法の改正により、令和4年に成年年齢と選挙権年齢が18歳に引き下げられました。これに伴い、生徒にとって政治や社会が一層身近なものとなり、主権者の一人として自覚を深めること、自立した「大人」として振る舞えるようになることが期待されています。

高等学校に対しては、生徒一人一人に社会で求められる資質・能力を育み、生涯にわたって探究を深める未来の創り手として送り出していくことが、これまで以上に求められています。

(3) 学校やクラスなどの「空間」を超えた学びへ

令和4年6月に、内閣総理大臣が議長を務める総合科学技術・イノベーション会議から「Society5.0の実現に向けた教育・人材育成に関する政策パッケージ」（以下「政策パッケージ」という。）が公表されました。

この方針の中で、「すべての子供たちの可能性を最大限引き出すことを目指し、子供の認知の特性を踏まえ、『個別最適な学び』と『協働的な学び』の一体的な充実を図り、『そろえる』教育から『伸ばす』教育へ転換し、子供一人ひとりの多様な幸せ（well-being）を実現するとともに、一つの学校がすべての分野・機能を担う構造から、協働する体制を構築し、デジタル技術も最大限活用しながら、社会や民間の専門性やリソースを活用する組織（教育DX）への転換を目指す。」と明記されています。

つまり、各学校における学びのスタイルについては、下表の観点を踏まえた上で変容していくことが求められています。

学び方が時間的・空間的にも多様化することが想定されるため、学習履歴（スタディログ）などによって生徒の学びを教職員が把握できる体制づくりも必要です。

	これまで		今・これから
学びの主体	教職員による一斉授業	→	生徒主体の学び
学校種・学年	同一学年で	→	学年・学校種を超えて
空間	同じ教室で	→	教室以外の選択肢
教科	教科ごと	→	教科等横断・探究・STEAM
教職員	Teaching（指導者）	→	Coaching（伴走者）
教職員組織	同質・均質な集団	→	多様な人材・協働体制

(4) なぜ普通科改革か

日本の高等学校は、普通科、専門学科、総合学科の3つに分かれています。約7割の生徒は普通科に進学しています。

しかし、高等学校を選ぶ際に、多くの生徒は学校の特色・教育内容ではなく、いわゆる偏差値を基に選択しているとの現状があります。このことには、「とりあえず普通科に行けば『つぶし』がきくのでは」「普通科ならば、教育内容に大きな差や違いがないはずだから安心」といった、普通科特有の漠然としたイメージも関係しています。

また、普通科においては、大多数の保護者や生徒の進路希望が大学進学であることから、多くの生徒が文系・理系に分かれ、2年次以降は特定の教科について十分に学習しない傾向があり、受験や就職に役立つ教科以外への意欲が薄れがちとの指摘もあります。

国は、約7割の生徒が進学する「普通科」の画一的な在り方を見直し、偏差値ではなく、特色や魅力で選ばれる高等学校を増やすとともに、授業についても生徒を惹きつける内容を増やして生徒の学習意欲を高めることを目的として、令和3年に学校教育法施行規則等の一部を改正しました。

この改正により、これまでは「普通教育を主とする学科」には「普通科」しか設置できませんでしたが、令和4年度から「学際領域に関する学科」（学際的・複合的な学問分野に関する教科等を設ける学科）と「地域社会に関する学科」（地域社会が有する課題や魅力に着目した実践的な学びに関する学科）を設けることが可能となりました。

また、各設置者に対しては、20年後、30年後の社会像・地域像を見据えた上で、設置する高等学校の存在意義や期待される社会的役割、目指すべき学校像（スクール・ミッション）を再定義することが求められました。

さらに、各高等学校に対しては、高等学校の入口から出口までの3つの教育活動指針（スクール・ポリシー）について、令和6年度末までに策定・公表することが義務付けられました。各高等学校は、入学者の受入れに関する方針（アドミッション・ポリシー）、教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）、育成を目指す資質・能力の明確化・具体化（グラデュエーション・ポリシー）を規定して、在籍する生徒、教職員、その他の学校内外の関係者に対してわかりやすく高等学校の役割や教育理念を示すことになりました。

普通科改革を契機として、学校全体での学びの在り方や支援体制を見直して、すべての生徒にとってよりよい学びにつなげていく必要があります。

(5) 大学入試の変化

かつては、大学入試センター試験（現在は共通テスト）など一般入試が主流であった大学入試でしたが、現在は総合型選抜や学校推薦型選抜による合格者が定員の半数程度を占めるなど、大学入試の流れが変わってきています。

令和4年度から全面実施されている新学習指導要領に基づいて、高等学校においては「総合的な探究の時間」などにより、問題発見・課題解決的な学習活動の充実を図ることになっています。

課題の発見、仮説の設定、実験・調査などを通じて課題解決・価値創造に向けた一連の過程を学ぶ探究活動は、新しい時代に求められる重要な力とされており、大学入試等においても、探究的な活動を通じて身に付く能力・資質等を評価する取組が求められています。

つまり、大学入試は、知識量を念頭に置いたテスト偏重から「学力の3要素」（主体性・多様性・協働性）が評価できる制度が変わってきています。

令和4年度から高等学校で「総合的な探究の時間」が必修化されたのも、そのような学力を身に付けるためでもあります。

探究的な学びに重点を置くことによって、国公立大学の現役合格者が約20倍に増加した高等学校も出てきています（「堀川の奇跡」と呼ばれた京都市立堀川高等学校など）。

4 北九州市立高等学校にかかる現状と魅力向上に向けた取組

(1) 現状と課題

北九州市立高等学校は、北九州市立戸畑商業高等学校として昭和38年に開校しており、若年人口が現在よりもはるかに多く、進学率が上昇している時代に設立された学校です。

設置している学科は、普通科（定員 80 名）と情報ビジネス科（いわゆる商業科。定員 120 名）です。かつては卒業後に就職する生徒が大半でしたが、現在は 8 割以上の生徒が進学しています。

北九州市立高等学校のセールスポイントの一つは、北九州市内のみならず、福岡県全域から受検可能であることですが、近年 15 歳以下の人口が減少していることもあり、過去 5 年間の普通科の平均志願倍率は 1.2 倍で、情報ビジネス科においては、直近 5 年間に倍率が 1 未満となった年度もありました。

北九州市立高等学校は部活動が大変盛んで、九州大会や全国大会に出場する部活動もあり、常に地域の注目を浴びている学校です。そのため、部活動が主目的の志願者が大半を占めており、部活後・卒業後の展望を持っていない状態の生徒も少なからず見られることも課題となっています。

また、唯一の市立高等学校であることから、人事が固定化しがちであることや、教職員が他の学校や他の機関と連携・協働する機会が少ないことも課題です。これからの時代に合った学習活動を進める上では、外部との連携・協働体制の改善が喫緊の課題です。

（２） 「北九州市における後期中等教育機関の今後の方針について」

本市においては、産業構造や若年人口減などの社会情勢の変化などを踏まえ、令和元年度に有識者会議「北九州市後期中等教育に関する検討会議」を立ち上げ、北九州市立高等学校及び戸畑高等専修学校の存続も含めた在り方について協議を重ねてきました。

令和 3 年に、北九州市教育委員会では、検討会議での意見などを踏まえ、北九州市立高等学校については存続させるものの、地域の魅力を生かした特色ある教育内容の充実などの改革が急務であり、探究的な学習活動の充実や学科構成を変更（現行の普通科を「地域社会に関する学科」へ）することなどを決定しました。

なお、学科構成の変更については、当初は令和 5 年度からの予定でしたが、十分な準備期間を設けるため、令和 6 年度からに変更しています。

(3) 北九州市立高等学校の魅力向上事業

北九州市立高等学校は、令和4年度文部科学省「新時代に対応した高等学校改革推進事業」(普通科改革支援事業)の指定を受け、新学科の設置に当たって義務化されている関係機関等との連携協力体制の整備や、カリキュラム等コーディネーターの配置など、新学科設置に向けた取組を推進しています。

産・官・学・民から構成される有識者会議「市高魅力化コンソーシアム」と「北九州市立高等学校の魅力向上事業にかかる運営指導委員会」を立ち上げ、令和4年9月から、これからの時代に対応した学びの在り方や、新学科での学校設定教科の内容などについて議論を重ねてきました(詳細は14ページ以降の議事要旨をご参照ください)。

コンソーシアムや運営指導委員会でのご意見も参考にして、北九州市立高等学校のスクール・ポリシーの策定、カリキュラムづくり、学校外の関係機関との連携・協働体制の構築、授業研究などに生かしていきます。

(4) 民間人校長の採用

北九州市教育委員会では、北九州市立高等学校のこれまでの取組や実績、地域の教育資源を活用しながら、外部人材ならではの大胆な発想と幅広いネットワークを生かして、本市が目指す「市高の魅力向上」を推進するため、民間企業や行政機関、研究・教育機関の出身者等の外部人材の登用に向け、令和4年度に公募及び選考を行いました。

令和4年10月1日からは副校長として就任しており、令和5年4月1日からは民間人校長として採用することとしています。

(5) スクール・ミッションとスクール・ポリシーの策定

令和4年度中に、北九州市教育委員会は、これから20年、30年後の北九州市立高等学校のあるべき姿を見据えて、スクール・ミッションを定めることとしています(以下は案です)。このミッションの下で、北九州市立高等学校としての全体カリキュラムを再構築し、変化の激しい社会に対応できる力を備えた生徒の育成を目指すこととします。

スクール・ミッション（案）

市内唯一の「市立」高等学校の強みである北九州市のリソースを活用して、「産・官・学・民」と連携・協働しながら、絶えず変化する未来の社会や世界をけん引する若者を育成します。

スクール・ポリシーについては、新学習指導要領の理念などを踏まえた以下の考え方を基本として北九州市立高等学校において検討中であり、令和5年度中に策定・公表する予定です。

アドミッション・ポリシー（AP）「このような生徒を受け入れます（求めます）。」

- 何事にも粘り強く取り組みたい生徒
- 現状に満足せず、向上したいと願う生徒
- 他者と協力し、課題解決に取り組みたい生徒
- 探究に深く取り組みたい生徒

カリキュラム・ポリシー（CP）「このような学びを展開します。」

- 産・官・学・民などの多様な人々と共に探究的な学びの充実を図ります。
- ICTを様々な場面で活用した学びの充実を図ります。
- 各教科・科目において、課題解決型の学びの充実を図ります。
- 社会の変化に対応し、活躍している人との交流を図ります。

グラデュエーション・ポリシー（GP）「このような力を育成します。」

- 一歩前に踏み出し、失敗しても粘り強く取り組むことができる力
- 疑問を持ち、考え抜くことができる力
- 多様な人々とともに、目標に向けて協力できる力
- 社会の変化にしなやかに対応できる力

5 「普通科」から「未来共創科」へ

(1) 普通科の学科構成の変更

有識者会議での協議等を踏まえ、北九州市立高等学校では、令和6年度から「普通科」を「未来共創科」に改称します。

この名称は、従来からの普通科のカリキュラム・学習内容に加えて、様々な年齢・分野・立場の方々と対話・連携・協働しながら、「共」に「未来」を「創造」する学びを追求する学科に進化・変化することに由来しています。

北九州市のリソースを存分に活用して、国際社会や地域で力を発揮できる「北九州グローバル人材」の育成を目指します。

総合型選抜（大学入試）の要となる表現力・発信力の育成にも努めるなど、新しい大学入試にも対応できるように、探究的な学習の機会の充実などに努めていきます。

(2) 令和6年度以降の学科構成及び定員

現在、北九州市立高等学校の学科については、普通科2クラス（定員80名）、情報ビジネス科3クラス（定員120名）で構成しています。令和6年度入学生からは「未来共創科」3クラス（定員120名）、情報ビジネス科2クラス（定員80名）に変更する予定であり、令和8年度に「未来共創科」の生徒が1～3年生まで揃うこととなります。

(3) 「未来共創科」での探究的な学び

「未来共創科」には、これまでの「普通科」で実施してきた教育課程に加えて、北九州市立高等学校独自の設定教科「(仮称)未来共創学」を新設します。必履修科目「総合的な探究の時間」と合わせて、6単位以上を取得できるように設定します。

「(仮称)未来共創学」では、希望あふれる未来を地域の様々な仲間（産・官・学・民）と共に創る学びを通して、生徒のキャリア形成と進路選択（大学進学等）に生かしていただけるようにします。

そのため、「(仮称) 未来共創学」では、一方通行で教員が生徒に教えるといった、座学中心ではなく、様々な方々との対話を通じて見出した社会課題などを題材とした、生徒参加型の授業を実施することとしています。外部人材を講師として活用したり、学校外でのフィールドワークを取り入れたり、大学と連携した授業の実施なども予定しています。

学校・地域(地元)・北九州市の未来を「探究学習のテーマ」として設定し、異なる学校種(大学など)、市役所・区役所、市民・自治会・市民センター・商店街、企業・SDGsステーションなどと連携・対話しながら、社会課題などに対する改善策を協働して検討していくプログラムを実施します。

この「インプット」(情報・知識を取り込む)→「アウトプット」(活用・運用・表現)→「フィードバック」(評価、振り返り)の3ステップを何度も繰り返すことにより、新しい大学入試にも対応できる力を身に付けるとともに、社会人になっても役立つ「課題発見力」「表現力・説明力」などを育成します。

(4) 学校やクラスの枠を超えた学び — 「タテ」「ヨコ」「ナナメ」の関係づくり—

実社会に出れば、一つの答えでは解決できない課題が山積しています。現代は「先行きが不透明で、将来の予測が困難な状態」、略してVUCA^{ブーカ}時代とも呼ばれています(Volatility(変動性)・Uncertainty(不確実性)・Complexity(複雑性)・Ambiguity(曖昧性)の頭文字をとった造語)。

このような時代においては、情報収集力、状況把握力、リーダーシップ、実行力などが求められますが、リーダーシップを発揮するためには他者との連携・協働が不可欠です。先に紹介した政策パッケージにおいても、他者と協働しながら新たな価値創造を生み出すことが重視されており、「みんな一緒に・同じペースで・同じことを」といった、かつての工業化社会で用いられた教育スタイルとは異なる思考・発想の変化が求められています。

他者と協働するためには、学校やクラスの枠を超えた異なる集団での活動や、自分が考えていることを誰にでもわかりやすく説明できる力も必要です。また、異なる集団との活動を通じて、自分とは違う見解やアイデアを聴くことによって、互いの意見を尊重することの大切さや、自らの興味・関心や学びをさらに深めることにもつながるものと考えます。

こうした活動をきっかけとして、「タテ」（保護者・教職員・先輩・後輩など）、「ヨコ」（同輩）、「ナナメ」（企業や市民など、他の組織・集団との関わり）の人間関係が生まれ、生徒が幅広いネットワークを構築して、広い視野を持つきっかけになるものと期待されます。

そのため、「未来共創科」では、定期的に学年・学校種を超える学びを取り入れるなど、枠にとらわれない学びのスタイルや横断型の授業・教育活動を柔軟に組み込んでいきます。

（５）北九州市立高等学校ならではの市役所・区役所等との連携・協力体制の構築

北九州市立高等学校は、北九州市が設置する唯一の高等学校です。そのため、北九州市立小・中学校等のもとより、市役所・区役所、市立施設等の所管部署との強いつながりをもっています。

しかし、これまでは「自前」で教育活動を完結しがちで、市役所等との連携の仕方について学校内で共有されていなかったため、一部の活動に留まっていたのが現状です。

令和４年度からは、外部との連携体制の構築等の役割を担うカリキュラム等コーディネーターを配置したり、教育委員会が北九州市立高等学校と市の関係機関とのつなぎ役になったりするなど、新たな体制も構築しています。

新体制の下で、北九州市が所管する施設・機関とも連携しながら、北九州市立高等学校ならではの探究活動の充実を図っていきます。

（６）「指導者」から「伴走者」へ、そして様々な人材が生徒も教職員も支える学校へ

「令和答申」などにおいて、教職員の望ましい姿として、「子どもの主体的な学びを支援する伴走者としての能力を備えること」「時代の変化に対応して求められる資質・能力を身に付けること」「継続的に新しい知識・技能を学び続けて、子供一人一人の学びを最大限に引き出す質の高い指導を可能にすること」などを求めています。

このことを踏まえ、校内だけでなく、他校や大学・企業などとも連携した職員研修の充実を努めます。

新しい時代に生きる生徒を支援するためには、教職員には時代の変化に対応した資質・能力、すなわち AI やロボティクス、ビッグデータ、IoT などの情報活用能力、学習履歴（スタディ・ログ）の利活用など、教職員のデータリテラシーの向上がこれまで以上に必要とされています。

しかし、通常業務に加えて、教職員がこれらの対応を一手に担い、一つの学校で教育活動を完結させようとするのは極めて困難です。

そのため、従来からの、いわゆる「自前主義」で教育活動を行っている状態から、大学教授や企業出身者などの専門性の高い外部人材を活用した連携授業の実施など、生徒の学びをより豊かにできる体制への転換を図ります。

「指導から支援へ」、「自前から外部との連携・協働」、より質の高い学びにつなげるための「授業研究」に重点を置き、北九州市立高等学校全体の底上げを図り、生徒の明るい未来につなげます。

これまでの協議経過と今後のスケジュール(案)

時期	概要
令和4年9月2日(金) 15時～17時	第1回 市高魅力化コンソーシアム (1) 国と市の動向 (2) 他の自治体の取組等 (3) 学科構成の検討状況
令和4年10月13日(木) 10時～12時	第2回 市高魅力化コンソーシアム (1) 大学入試の動向 (2) 市高アンケート結果 (3) 学科構成の検討状況
令和4年11月21日(月) 10時～12時	第3回 市高魅力化コンソーシアム (1) 高校魅力化評価システムの結果 (2) スクール・ポリシー案 (3) 学科構成案
令和4年12月16日(金) 13時～14時50分	第1回 運営指導委員会 (1) 国と市の動向 (2) 学科構成案
令和4年12月19日(月) 13時半～15時40分	第4回 市高魅力化コンソーシアム ワークショップ (新学科で目指すことなど)
令和5年1月13日(金) 13時～15時10分	第2回 運営指導委員会 (1) スクール・ポリシー案 (2) 学科構成案
令和5年3月(予定)	北九州市立高等学校学則変更 ・定員変更(普通科1学級増) (情報ビジネス科1学級減) ・普通科を新学科「未来共創科」へ
令和5年4月～	新学科にかかる広報活動・募集開始
令和6年4月	新学科の入学生入学

第1回 市高魅力化コンソーシアム 議事要旨

1 開催日時 令和4年9月2日(金) 15時~17時

2 議題

- (1) 高等学校改革等にかかる国・北九州市の動向について
- (2) 他校での特色ある取組事例
- (3) 北九州市立高等学校の概要・課題
- (4) 次世代にはばたく人材育成に向けた新学科案

3 構成員の主な発言

- ・公立学校は私立と比べて、「この学校をどうにかしないといけない」といった危機感が薄いと思う。偏差値ではない、新しい学校選択の軸をどう作っていくかが重要。
- ・せっかく改革をするのであれば、新しい価値基準を世の中に提示していくことがこの学校が存在していく上でも重要である。地域で一番になると思って進めていくべき。
- ・最近の改革で欠けていると感じるのは、とにかく対話が少ない。対話→参加→改革の気運・場づくりにつなげていくことが必要。
- ・地域の人や年代の違う「異質」の人との交流によって学んでいくことが非常に重要。
- ・県立高校が多数を占める中で、「唯一の市立」というのはアドバンテージでもある。
- ・Society5.0に向けては、多様性を打ち出した自由なカリキュラム、探究・STEAM教育の充実、文理分断からの脱却が必要。
- ・市高は市立の強みがあるので、中学校と探究でつながるようなことができればよい。
- ・探究活動は特定のコースのみで実施するものではなく、教科全体、学校全体でやるべきこと。
- ・探究活動や社会とのつながりにより、内発的動機が生まれ、生徒のやる気スイッチが入る。
- ・市高の学科改変が、学校改革の原動力になることを一番期待している。そのためには、中身や出口をどう見せられるかがこれからの課題と思う。
- ・出口戦略が重要であり、そういう意味では、市高も実績を作っていないといけない。
- ・こういう改革をするときに、自分たちのリソースでできることをやろうとしてしまうが、社会からの要請や大学・社会がどういう人材を育ててほしいと思っているのかを踏まえて実施するべき。
- ・学校改革は苦難もあるが、そればかり考えることは中長期的にはよくない。一つ一つ課題をクリアしていただけたらと思う。
- ・情報ビジネス科も含めた全学科を新学科にするほうがよいと思う。
- ・全学科をいきなり新学科にするよりも、小さく始める方が効率的だと思う。
- ・教員が新学科1期生たちにどれだけコミットできるのかが重要。

第2回 市高魅力化コンソーシアム 議事要旨

1 開催日時 令和4年10月13日(木)10時~12時

2 議題

- (1) 前回会議の論点整理
- (2) 大学入試の変化
- (3) 北九州市立高等学校にかかるアンケート調査結果
- (4) 北九州市立高等学校での新学科の検討状況

3 構成員の主な発言

- ・高校のカリキュラムの改編に合わせて、大学でも教育改革が推進されており、新たなカリキュラムづくり、評価指標の開発等も行っている。大学と高校が接続しながら「生きる力」を7年間かけて育めるようなカリキュラムづくりが必要である。
- ・急に高みを目指すのではなく、これまで市高が積み重ねてきた実績と、「地域とつながる」というところを大切にしていけるとよいと思う。
- ・一部の人で新学科の在り方などを決めていかないような形をとることが望ましい。
- ・昔はセンター試験を受けて、それから一般入試という流れだったと思うが、これからは総合型選抜で、12月末までの段階で定員の半数ぐらいは合格が出るといった流れにしていくよう、文科省からも指導が行われている。先んじて、私立は既に推薦で半数以上の定員を埋めているような状況。国公立大学はこれからであり、まだ一般選抜の枠が多いが、文科省からの指導もあり、必然的に入試制度を変えざるを得ない状況になっている。
- ・大学の入試で、知識量を念頭に置いたようなテストから「学力の3要素」(主体性・多様性・協働性)が評価できるような制度に変わってきている。高校で「総合的な探究の時間」が必修化されたのも、そのような学力を身に付けるためである。
- ・アクティブラーニング型授業や探究学習の際のグループワークなどでも、「インプット」→「アウトプット」→「フィードバック」の流れを何度も繰り返すべき。この一連の流れの訓練を授業の中でどこまで取り込めるかがこれからの大学入試にも生きてくる。
- ・チームの中で皆が納得できる最適解を見つける力が問われていることを認識するべき。要は、成功を求めすぎてはいけない。
- ・事前にしっかり目標・目的を設定して、それをどう達成していったのか、どのくらい進んでいないのかを言語化していく活動を授業の中に埋め込むべき。
- ・新学科で大事なものは、①特色ある入試、②カリキュラム、③進学実績の3点である。
- ・目指す大学実績やAO入試に対応できるような学科となることを示すべき。
- ・北九州市はものづくりの街でもあるので、1年生で扱う内容の中に理系的な素養(ものづくりなど)がほしい。ITもあるとよい。
- ・広く浅くさせるよりも、知識の量を増やすことよりも、深掘りをする行為が大事。
- ・技を伸ばす部活動だけではなく、コーチングなども付加するべき。

第3回 市高魅力化コンソーシアム 議事要旨

1 開催日時 令和4年11月21日(月)10時~12時

2 議題

- (1) 前回会議の論点整理
- (2) 高校魅力化評価システムの結果
- (3) 令和6年度からのスクール・ポリシー案
- (4) 令和6年度からの学科構成案

3 構成員の主な発言

- ・以前から市高の課題と感じてきたことで、今回の調査(高校魅力化評価システム)でも視覚化されたのが生徒も教職員も「安全・安心」に感じる風土をどう作り出すか。
- ・「この学校を中学生に勧めたい」との肯定的意見が絶対値として低いと感じる。
- ・「成長したい」という思いが低いことも気になる。現状で満足してしまっている感じがする。
- ・ポリシーの策定方法については、誰かが考えた案を基に進めていくのではなく、ステークホルダーからの意見を拾い、言葉を紡いでいくようなアプローチが必要。
- ・市高は1校しかないので、県立と同じことをやっていると埋没する。市立高校の良さをもっと意識すべき。
- ・高校入試のことも考えて学科案をつくらないと、絵に描いた餅になる。
- ・仮にすべての学科を1本化して、コースを3つに分けるなどするのであれば、実質は3つの別々の科を運営していくぐらいの覚悟が必要。そうしないと中途半端なものになる。その場合に、学校全体のカリキュラムとコースのプログラムとのすみわけを誰がどう作りこんでいくかという点も気になる。
- ・広報をしていく上でも、「このコースで学ぶとこうなります」を具体化していくことが大事である。
- ・商業科系の科目についても、単に資格をとるためではなく、「〇〇をやるためにITパスポートをとりました」のような、夢をかなえるための足掛かりとなるようにすべき。
- ・大学入試でも、一般入試はペーパーテストだけで合格が決まるわけではない。地方の国公立大学でも、特定の課題にどう取り組んできたかなどの活動実績票や集団討論などにもそれなりのウェイトを置いている。つまり、紙ベースだけで合格が決まるところのほうが少ないようになってきている。
そのため、高校入試でも、一般入試のペーパーテストに加えて、中学時代に特定の課題に対して取り組んできたこと、志望理由書や活動実績票などを加味して採用する形も取り入れると特色化になると思う。
- ・高校から大学、そして社会に出る時には自分の「ものさし」を持つことが大切。社会に出て色々な人と付き合い、接していく上で「硬直化したものさし」では対応できない。その意味で、社会経験の豊富な民間人校長がいるという点は強みであるので、民間人校長がおられるといった強みも学校案内には打ち出すべき。

第4回 市高魅力化コンソーシアム 議事要旨

1 開催日時 令和4年12月19日(月)13時30分～15時40分

2 議題

(1) 前回会議の論点整理

(2) ワークショップ

- ①市高の生徒がやってみたいと思う探究学習をみんなで(協働し)考えよう!
- ②①を実施するために必要なこと(人・もの・予算・心構え)をみんなで(協働し)考えよう!

3 構成員の主な発言(これまでの総括)

- ・市長が変わると北九州市の体制も変わるだろうが、「退化」ではなく「進化」。市高も、この街を盛り上げていく1プレイヤーとして、市と様々な取組を行っていただきたい。
- ・誰にでも自分に合う仕事など、自分の力が発揮できる場所が必ずあるので、生徒のポテンシャルを信じて取り組んでいただきたい。
- ・これまで市高とは全く縁がなかったが、市高がやっていることは面白い。その理由は、今回の取組は学校改革につながっているからである。学校改革に取り組んでいる高校はほかにもあるが、一部の教職員が取り組んでいるだけのレベル感のところもある。しかし、市高に関しては市教委を含めてみんなで学校を変えようとしていることがとても面白く、時代に合っていて、私自身も非常に勉強になった。ぜひこれからも学校改革の視点を外さないでいただきたい。
- ・これからの部活の在り方、新学科の在り方、もっと言えばエージェンシー(自ら考え、主体的に行動して、責任をもって社会変革を実現していく姿勢・意欲)の高い教育をどう実現するかといったところまでを含めて、市高全体としての学校改革をしないと、新学科がうまく機能しないと思う。学科構成という側面にだけ着目するのではなく、あくまで学校改革をしているという意識でお願いしたい。
- ・前回から現場の先生方がコンソーシアムに出席してくださって、いろいろなお話をお聴きすることができてうれしかった。

4 まとめ(北九州市立高等学校)

- ・今回の学科構成の変更が学校改革と一体となっているのは間違いない。ただ、現実には北九州市の人口は減少しており、10年後の中学生の卒業生の数は8割になり、その後も減り続けると想定される。「情報ビジネス科は定員が割れているから問題だ」みたいな狭い議論ではなくて、普通科は普通科で改革しないと、数年前にあった「本当に市高は必要なのか」の議論が3、4年後には再び出てくる可能性がある。「あのときの議論がこのように結実した」とよい報告ができるようにしたい。
- ・北九州市立の唯一の高校。それは課題でもあるが、北九州が、地域が、企業が、みんなが市高を応援してくれるなど、ものすごく大きな強みでもある。まだ「こうすれば絶対大丈夫」と言えるまでの確信は持っていないが、必ずいい方向にもっていく。

市高魅力化コンソーシアム 構成員名簿

(区分内で五十音順・敬称略)

◎：座長 ○：副座長

区分	氏名	所属
学識経験者	◎ <small>なか お</small> 中尾 <small>もと い</small> 基	国立大学法人 九州工業大学 工学研究院基礎科学研究系 教授
	<small>ま なべ</small> 眞鍋 <small>かず ひろ</small> 和博	公立大学法人 北九州市立大学 地域創生学群 教授
企業関係者	<small>なかむら</small> 中村 <small>やす し</small> 靖	日本政策金融公庫 北九州支店 国民生活事業統轄
	<small>ひらはた</small> 平畠 <small>さと り</small> 暁	九州電力(株) 北九州支店 副支店長 兼 企画・総務部長
民間関係者	○ <small>ふくいずみ</small> 福泉 <small>あきら</small> 亮	Nature & KOKOROZASHI Albireo 代表 北九州市立ユースステーション スタッフ
行政関係者	<small>うえだ</small> 上田 <small>ゆかり</small> ゆかり	北九州市企画調整局 SDGsプロジェクト担当部長
	<small>おくむら</small> 奥村 <small>かず み</small> 和美	北九州市教育委員会 指導企画課長
	<small>ますだ</small> 増田 <small>しげ お</small> 繁雄	北九州市立高等学校 教頭 兼 北九州市教育委員会学校教育課 指導主事

カリキュラム等コーディネーター

北九州市立大学 地域創生学群 准教授 ひろかわ 廣川 ゆうじ 祐司

第1回 北九州市立高等学校の魅力向上事業にかかる運営指導委員会 議事要旨

1 開催日時 令和4年12月16日(金)13時~14時50分

2 議題

- (1) 高等学校改革等にかかる国・北九州市の動向について
- (2) 北九州市立高等学校の概要・課題
- (3) 令和6年度からの学科構成案

3 委員の主な発言

- ・今は節目の時期で、過渡期である。北九州市立高等学校だけではなく、学校の在り方、公教育の在り方をもう一度見直さなければならない時期である。残念ながら、ノスタルジックな「昭和」のままでは乗り切れない。道を間違えると、本当に公教育が壊れてしまいかねないので、次世代の子どもたちにとって、どういう教育のシステムが望ましいかということ議論していきたいと思う。
- ・かつての市高では、ほとんどの生徒が就職していたが、今は8割以上が進学する。「普通科=大学・専門学校」というイメージがあるので、「普通科」という名称でなくなるのであれば、かなりのPRが必要と思う。
- ・普通科が変わることで、一体何が変わるのかについて、生徒にも保護者にも市民にもわかりやすく伝えてほしい。ステークホルダー(生徒、保護者)に今回の普通科改革をどう理解してもらうかが鍵となる。不安感をどう払しょくできるかが課題だと思う。
- ・学校の改善というものは先生がやる気になって初めてできるものなので、先生方が内発的にどこまでやろうと思っているのかが気になる。
- ・学習活動や学習環境については、どんな活動があったか、失敗を認めてくれる雰囲気があるかなど、北九州市立高等学校の改善に生かせる部分かと思う。PDCAや対話が非常に大事。
- ・どこの高校でも、一部の教職員のみが学校改革に取り組んでいるといった現実はある。市高だけの問題ではない。ただ、時代の変化に対応した変化も必要で、地域・企業・行政など関わって、市の課題解決に向けて取り組むことが市高の使命だと思っている。外から評価される中で、校内での賛同者を作っていけたらいいのではないか。
- ・進学実績を上げるだけでなく、地域への誇りを看板にするような、それを目玉にするような魅力的な取組が求められると思う。
- ・成果検証や着目する指標の選定の重要性である。
- ・いかに中学生に選ばれる学校になるかが重要。
- ・非常に厳しい校則指導も市高の「売り」だったとのことだが、子ども自身がルールメイキングをして、自分で自己決定していくことで大人に育てていくという高校の役割を踏まえた切り替えをどうしていくかが肝である。先生方の間で忌憚なく対話してほしい。

第2回 北九州市立高等学校の魅力向上事業にかかる運営指導委員会 議事要旨

1 開催日時 令和5年1月13日（金）13時～15時10分

2 議題

- (1) 前回会議の論点整理
- (2) 中学3年生及び教職員に対するアンケート結果
- (3) 令和6年度からのスクール・ポリシー案
- (4) 令和6年度からの学科構成案

3 委員の主な発言

- ・中学生は、高校入学後の「出口」を踏まえて進学先を選んでいるので、わかりやすい提示が必要である。
- ・大学入試も変化しており、基礎知識や教養も大事だが、学力の3要素を評価するウェイトが上がってきている。
- ・スクール・ミッションやスクール・ポリシーが、誰に訴えるものなのかをよく念頭に置くこと。汎用性を持たせるために抽象的な表現になりがちなのは理解できるが、教育委員会と学校、教職員間などで認識の乖離が生じないようにしておくこと。
- ・ミッションやポリシーに立派なことが書いてあるのはよいが、成果測定の仕方なども併せて考えておくべき。その年々で抑えておくべき成果指標が必要ではないか。学校の現状と目標とを照合して、現在地がどこかが把握できるようにしておくべき。
- ・どうしても未来共創科の学校設定科目や総合的な探究的な学びの在り方に特化した議論になりがちだが、教科学習との接続も意識するべきである。教科学習でも探究的な活動を取り入れることは可能である。
- ・未来共創科だけではなく、情報ビジネス科も含めた市高全体で変わろうとしているということを伝えてほしい。
- ・高校生が減っていく中で、「市高から北九大に〇〇人は入学できるようにします」などと具体的に言えるようなインパクトがあるとよい。
- ・出口がどこまで見せられるかも大事だが、まずは大学がどんどん採りたくなる生徒を育てるほうが先ではないか。
- ・設定している探究テーマがローカルを強く意識しすぎているため、グローバルな視点も盛り込むべき。
- ・普通科と情報ビジネス科の差別化ではなく、相互交流などが必要。

4 まとめ（北九州市立高等学校）

- ・市高の存在意義や育てる生徒像を校内で共通認識して、着実に魅力向上につなげる。
- ・変わるべきは市高の授業であり、新学科はゴールではなく、スタートとの認識である。常に改善しながら、理想形に近づけたい。

北九州市立高等学校の魅力向上事業にかかる運営指導委員会 委員名簿

(区分内で五十音順・敬称略)

◎：委員長 ○：副委員長

区分	氏名	所属
学識経験者	◎ <small>もとかね まさひろ</small> 元兼 正浩	九州大学大学院 人間環境学研究院 教授
企業関係者	<small>ながの けい</small> 永野 恵	三菱 UFJ リサーチ&コンサルティング(株) 政策研究事業本部 公共経営・地域政策部 研究員
	<small>はたの たかし</small> 羽田野 隆士	北九州商工会議所 専務理事
民間関係者	<small>あそう こうじ</small> 麻生 浩二	北九州市立高等学校 PTA会長
行政関係者	○ <small>うえだ あけみ</small> 上田 あけみ	北九州市立中学校長会 小倉北区中学校長会長

カリキュラム等コーディネーター

北九州市立大学 地域創生学群 准教授 ひろかわ ゆうじ
廣川 祐司

北九州市立高等学校の魅力向上にかかるアンケート調査結果 (別紙 1)

1. 調査の目的

これから高校に入学する中学生や保護者が進路選択に求めていることや、「出口」である大学・企業が高等学校にどのような人材育成を求めているのかなどを調査し、これからの北九州市立高等学校における魅力向上に資するもの。

2. 調査対象者

- ①北九州市立中学校 1・2 年生 【2,420 人】
- ②北九州市立中学校 1・2 年生の保護者 【2,420 人】 ※①②ともに、抽出 10 校
- ③北九州市立高等学校 1・2 年生 【 390 人】
- ④福岡県内の大学等 【約 50 校】
- ⑤北九州市内・首都圏等の企業等 【約 500 社】

3. 調査時期 2 月中旬から 3 月 3 日 (金) まで

4. 調査方法 電子アンケート (Microsoft Forms)

5. 回答者数 (回答率)

- ①北九州市立中学校 1・2 年生 1,641 人 (67.8%)
- ②北九州市立中学校 1・2 年生の保護者 589 人 (24.3%)
- ③北九州市立高等学校 1・2 年生 359 人 (92.1%)
- ④福岡県内の大学等 延べ 20 校 (40.0%)
- ⑤北九州市内・首都圏等の企業等 延べ 133 社 (26.6%)

6. 調査結果 別紙 2 のとおり

調査結果【概要】

【共通】

- 「これからどのような学びや力が必要だと思いますか？」の設問に対して、①③ともに「基礎・基本となる学力」が第2位であるが、高校生になると割合が低下し、大人の調査（②④⑤）では位置づけが下がる傾向にある。

	①中学生	②保護者	③高校生	④大学等	⑤企業等
1	コミュニケーション力・協調性	コミュニケーション力・協調性	コミュニケーション力・協調性	コミュニケーション力	コミュニケーション力
2	基礎・基本の学力 (18.9%)	まとめ・発信力	基礎・基本の学力 (13.0%)	課題発見・解決	課題発見・解決
3	情報処理・活用	情報処理・活用	情報処理・活用	まとめ・発信力	まとめ・発信力
4	問題発見・解決	問題発見・解決	問題発見・解決	論理的思考	基礎・基本の学力
5	まとめ・発信力	基礎・基本の学力	まとめ・発信力	基礎・基本の学力	協調性・社交性

- ①～③の自由記述欄においては、「校則の見直し」が上位を占める。
- 「高大接続改革などの国の動向の認知度」について、「知らなかった」と回答したのは②では77.6%、⑤では75.2%である。「北九州市立高等学校の魅力向上事業など、本市の取組の認知度」について、「知らなかった」と回答したのは②では85.2%、④では60%、⑤では87.2%である。
- 進学先を選ぶ際に重視することとして、「やりたい部活動ができること」が①では第2位であるが、②では第6位である。

【①北九州市立中学校1・2年生】

- 中学卒業後の進路について、「まだ決めていない」と回答したのは40.3%である。進路を決めている生徒のうち、高等学校(普通科)への進学を希望しているのは73.4%。

【②北九州市立中学校1・2年生の保護者】

- 自由記述欄において、「時代の変化に対応した学校づくり、対応できる力の育成」が最も多く、次いで校則の見直しや「厳しい学校」「昭和的なイメージからの脱却」を求める声が続く。市立高等学校ならではの取組を期待する声もあった。

【③北九州市立高等学校1・2年生】

- 高校卒業後の進路をまだ決めていない生徒は39.6%を占める。
- 進学を希望する生徒のうち、困っている・悩んでいることとして「学習意欲がわからないこと」が18.5%、「勉強がよくわからないこと」が16.2%を占める。
- 自由記述欄において、「教育活動の見直し」「教職員の意識改革」「授業の質の向上・授業改善」を求める声上位を占める。また、時代に合った変化や行進などの集団行動の見直しを求める声もある。

【④福岡県内の大学等】

- 協力可能な活動として「見学の受入れ」「出前講座」が上位を占め、相談可能との回答が85%を占める。

【⑤北九州市内・首都圏等の企業等】

- 協力可能な活動として「見学の受入れ」「インタビューやインターンシップの受入れ」が上位を占め、相談可能との回答が66.2%を占める。

★北九州市立中学校1・2年生

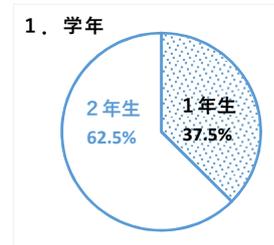
調査対象者数 2,420名（令和4年5月1日時点）

回答者数 1,641名

回収率 67.8%

1. あなたの学年を教えてください。

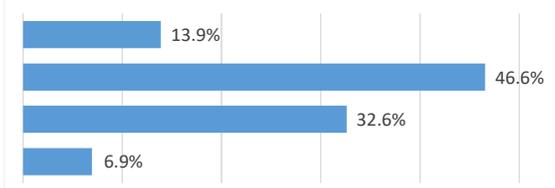
1年生	615
2年生	1,026
	1,641



2. あなたは将来の生き方や進路について、保護者の方とどの程度話し合っていますか？

よく話し合っている	228
ときどき話し合っている	764
あまり話し合っていない	535
話し合っていない	114
	1,641

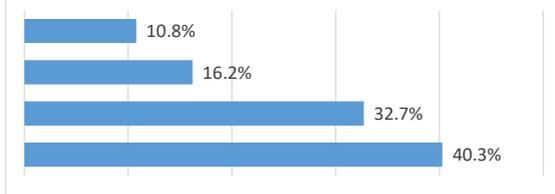
2. 進路を保護者と話し合う頻度



3. 中学卒業後の進路(高校や専門学校等への進学や就職など)の希望はいつ頃決めましたか？ 当てはまるものを1つ選んでください。

中学校に入学する前に決めていた	177
中学1年生の頃	266
中学2年生になってから	537
まだ決めていない	661
	1,641

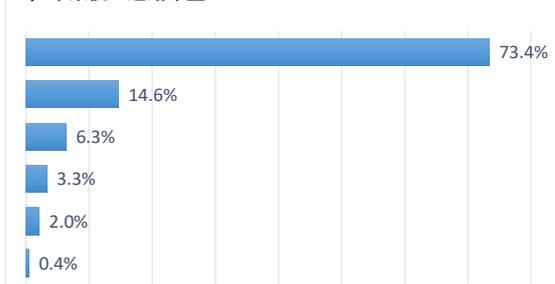
3. 卒業後の進路を決めた時期



4. あなたは中学校卒業後、どのような進路を希望していますか？ 当てはまるものを1つ選んでください。

高等学校（普通科）	719
高等学校（工業・商業・看護などの職業に関する専門学科）	143
高等学校（理数・体育・美術・英語などのその他の専門学科）	62
高等専門学校・専修学校・各種学校	32
その他の学校	20
進学せずに就職・家の手伝いなど	4
	980

4. 卒業後の進路希望

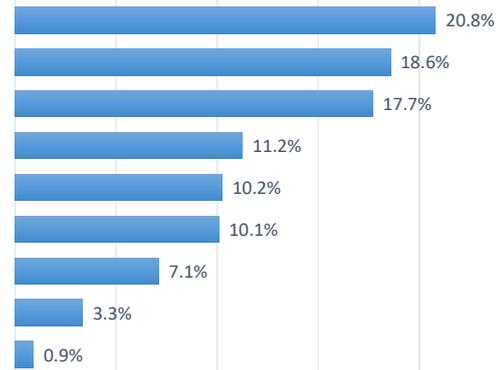


5. あなたが進学を希望する理由は何ですか？当てはまるものを選んでください。（複数回答可：最大3つまで）

学力を身につけたいから	522
高等学校などを卒業したほうが就職に有利だと思うから	466
将来に役立つ専門的な知識・技能を身につけたいから	444
大学などに進学したいから	282
希望する職業に就くために必要な資格をとりたいから	257
みんなが進学するから	253
部活動がしたいから	178
周りの人がすすめるから	84
その他（記述式）	23

2,509

5. 進学を希望する理由



「その他」の詳細：

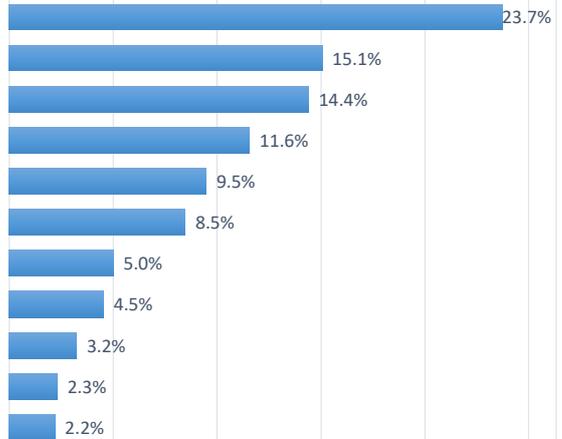
- 近いから（5件）
- 将来の職業・夢のため（3件）
- 興味のあることや好きなことを伸ばしたいから（2件）
- （興味のある）スポーツができるから（2件）
- 職業や夢を見つけないから
- 自分の目標の夢に向かってしっかり歩いているという証明になるから
- いろんな経験がしたいから
- （行きたい高校は）校則がなく、単位制の学校だから
- きょうだいが行っているから
- 親が行きなさいと言うから
- その高校の行事の音や声が聞こえてきて、いろんな人が必死に頑張ってる姿を見たときに「自分もあの人たちと一緒に何か成し遂げたい」という思いと、中学校で教わったことが一番生かせる高校だと感じたから
- 選択肢のすべてが該当
- まだ遊んでいたいから

6. あなたは進学先を選ぶときに、どんなことを重視していますか？当てはまるものを選んでください。（複数回答可：最大3つまで）

自分の学力に合っていること	616
自分のやりたい部活動ができること	391
通学が便利なこと	374
進学・就職に有利なこと	300
将来希望する職業に役立つ知識・技術や資格が得られること	246
自分のやりたい勉強ができること	220
保護者や先生の意見	130
校則・校風が自分に合っていること	118
友人と同じ学校であること	84
施設・設備が充実していること	60
気に入った制服であること	57

2,596

6. 進学先選びで重視すること

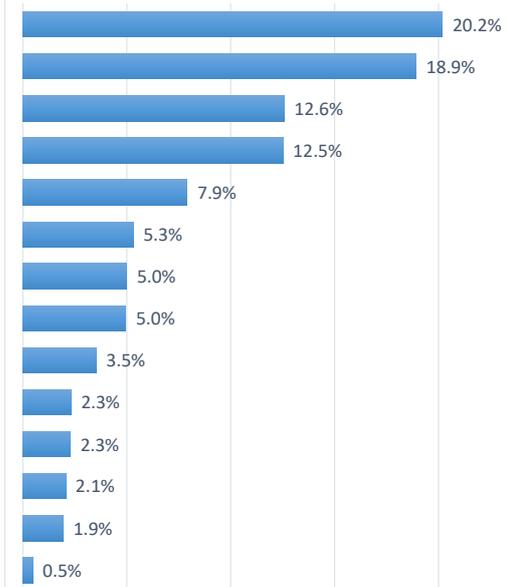


7. あなたは、これからの社会には、どのような学びや力が必要だと思いますか？
 当てはまるものを選んでください。(複数回答可:最大5つまで)

コミュニケーション力・協調性	1,295
基礎・基本となる学力	1,213
情報を処理して活用できる能力	806
問題を発見し解決する能力	803
自分の考えを筋道を立ててまとめ、発信する力	508
リーダーシップ力	341
グループによる学習	321
職場の見学、就業体験（インターンシップ）	318
ボランティア活動	227
上級学校（大学、短期大学、専門学校等）の見学、体験入学	148
卒業生や社会人などの大人の話	146
身近な産業や職業についての調べ学習	132
学年や学校種を超えた学び	125
その他	30

6,413

7. これからの社会で必要と思う学びや力



「その他」の詳細：

- ICT関係（プログラミングなど）（4件）
- スポーツ、運動能力（3件）
- 英語で発信する能力（2件）
- これまでの凝り固まった固定観念と違う意見を積極的に言える力
- 移り変わる時代への理解
- 柔軟な発想と対応力
- 自分の考えをしっかり持つておくこと
- 自分たちで考えて行動できる力
- 自分で進んで何かを行おうとすること
- 人のいいところを盗んでそれを活用できる力
- 人の意見を尊重しながら考える能力
- 臨機応変な対応力
- マルチタスクに物事に対応する能力
- 自分の視点とは違うほかの視点を見つけ活用する力
- ユニークな発想力
- 想像力
- 努力できる力
- 思いやり
- 信頼性
- 生きていく力
- 専門的な体験や経験
- 自分の能力をアピールする力
- 性の多様性
- 株

8. そのほか、北九州市立高等学校での学びの充実に当たり、意見があれば、以下の枠に自由に記入してください。

- 校則を見直してほしい。 (8件)
- 新しい部活動を作してほしい (eスポーツ、クイズ、自分が将来就きたい職業のための部活動)。 (3件)
- 通学手段の充実 (自転車、バイク) (2件)
- 英語の時間を増やしてほしい。 (2件)
- 様々な言語を学びたい。
- 海外の授業を参考にして、「誰でも分かりやすく」インターネットを使う。今必要なのは、「書く力」ではなく「つくる力」だと思う。今はゲームでも学べる時代だから、勉強は楽しくてもいいと思う。「楽しい=遊び」ではないと思う。
- 計算はどうやってもコンピュータのほうが強い。だからこそコミュニケーション能力などが必要になってくると思うので、そういう部分にも力をいれていけたらいい。
- どの学校も、他校との関わりを増やすべき。
- 職場体験とかあったらいい勉強になると思う。
- いろんな職業を知ることができ、いろんな職業の方に仕事のことについて質問などができる環境があればよい。なぜなら、私たちは色んな人たちがそれぞれの職業に就きたいと思っているが、それについて深くかかわることができない。また広い視野を持ち、なりたい職業を増やすこともいいのではないか。
- 身近な仕事についてももう少し詳しく知りたい。
- 中学1年生の時から高校紹介のパンフレットなどを配り、自分の行きたい高等学校の偏差値や自分の学力でどんな高等学校に行けるかを知ることが大切だと思う。
- 自分に合う勉強やスポーツがしたい。
- もう少し仲間と協力して問題に取り組む活動が必要
- 一人一人に合わせた学習をしてほしい。
- もう少し学校設備をきれいにしてほしい。
- 図書室などリラックスしながら学べる空間が多くほしい。
- 先輩方とのふれあい活動
- 毎月、興味のある部活動に体験入部できるようにしてほしい。
- フクトのようなテストを増やしてほしい。
- もっと制服をかわいくしてほしい。
- 部活動や昼食の内容にかかる質問 など

★北九州市立中学校1・2年生の保護者

調査対象者数 2,420名（令和4年5月1日時点）

回答者数 589名

回収率 24.3%

1. お子様の学年を以下から選んでください。

中学1年生	283
中学2年生	301
中学1・2年生	5

589



2. あなたは、以前から「高大接続改革」「高等学校改革」「普通科改革」「学びの変化」などの国の動向についてご存じでしたか？【概要版P.1～5】

知らなかった	457
具体的なことは知らなかったが、動きとしては知っていた	119
知っていた	13

589

2. 高大接続改革など、国の動向の認知度

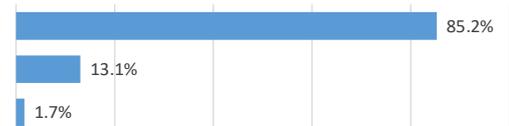


3. あなたは、以前から「北九州市における後期中等教育機関の今後の方針について」や北九州市立高等学校にかかる魅力向上事業などの取組についてご存じでしたか？【概要版P.4、6～7】

知らなかった	502
具体的なことは知らなかったが、動きとしては知っていた	77
知っていた	10

589

3. 市高の魅力向上事業など、市の取組の認知度



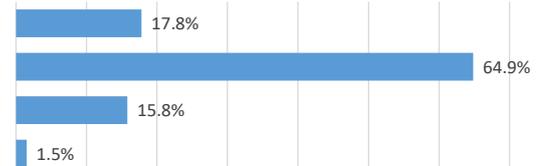
4. お子さんの将来の生き方や進路について、お子さんとの程度話し合っていますか？

※中学1・2年生両方のお子様がおられる場合は、2年生のお子様との状況をご回答ください。

よく話し合っている	105
ときどき話し合っている	382
あまり話し合っていない	93
話し合っていない	9

589

4. 進路をお子さんと話し合う頻度



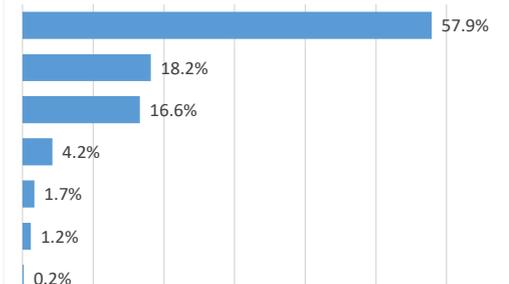
5. お子さんの中学卒業後の進路希望について、当てはまるものを1つ選んでください。

※中学1・2年生両方のお子様がおられる場合は、2年生のお子様との状況をご回答ください。

高等学校（普通科）	341
まだ決めていない	107
高等学校（工業・商業・看護などの職業に関する専門学科）	98
高等学校（理数・体育・美術・英語などのその他の専門学科）	25
高等専門学校・専修学校・各種学校	10
その他の学校	7
進学せずに就職・家の手伝いなど	1

589

5. お子さんの中学卒業後の進路希望



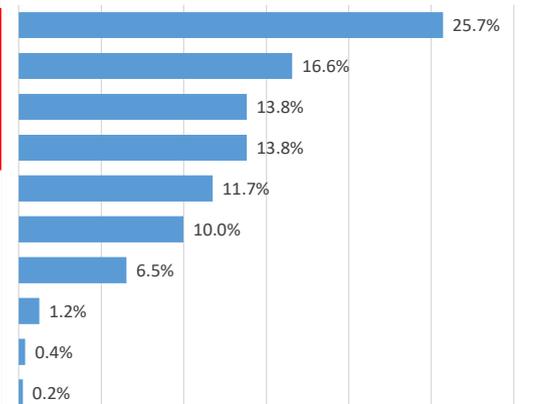
6. お子さんの進学先を選ぶときに、どのようなことを重視していますか？
 当てはまるものを選んでください。(複数回答可:最大3つまで)

※1・2年生両方のお子様がおられる場合は、2年生のお子様との状況をご回答ください。

子どもの学力に合っていること	335
子どものやりたい勉強ができること	216
通学が便利なこと	180
進学・就職に有利なこと	180
将来希望する職業に役立つ知識・技術や資格が得られること	153
子どものやりたい部活動ができること	130
校則・校風が子どもに合っていること	85
施設・設備が充実していること	16
子どもが気に入った制服であること	5
子どもの友人と同じ学校であること	3

1,303

6. お子さんの進学先選びで重視すること

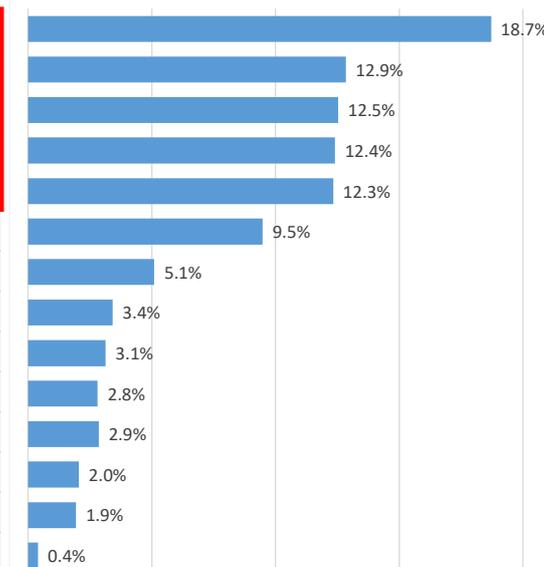


7. 北九州市立高等学校では、令和6年度に「普通科」を「未来共創科」に改称するとともに、これまでの教科指導に加えて、学校外活動や様々な方々との対話を通じて、新しい価値を生み出したり、社会課題について考えたりする機会を多数設ける予定です。あなたは、これからの社会には、どのような学びや力、活動が必要だと思いますか？当てはまるものを選んでください(複数回答可:最大5つまで)。

コミュニケーション力・協調性	466
自分の考えを筋道を立ててまとめ、発信する力	320
情報を処理して活用できる能力	312
問題を発見し解決する能力	309
基礎・基本となる学力	307
職場の見学、就業体験(インターンシップ)	236
上級学校(大学、短期大学、専門学校等)の見学、体験入学	127
リーダーシップ力	85
学年や学校種を超えた学び	78
卒業生や社会人などの大人の話	70
ボランティア活動	71
身近な産業や職業についての調べ学習	51
グループによる学習	48
その他(記述式)	10

2,490

7. これからの社会で必要と思う学びや力



「その他」の詳細：

- お金・経済・法律の知識(2件)
- 外国などの多文化に対する理解
- 英語力
- 優秀な人材を国内に留めるための活動
- 各種専門分野に関する導入のステップ
- ファイナンシャルプランナーの資格がとれる程の知識があれば将来役に立つ。
- 物事の本質や実態を見抜く力
- 変化に柔軟に対応出来る対応力
- 学科の名称が魅力的ではない。

8. そのほか、北九州市立高等学校での学びの充実に当たり、ご意見がございましたら、以下の枠に自由に記入してください。

- 時代の変化に対応した学校づくり、対応できる力の育成 (8件)
- 校則の見直し (7件)
- 「厳しい学校」「昭和的」といったイメージからの脱却 (7件)
- 進路指導や相談窓口の充実(様々な職業・進路の選択肢を提示するなど) (5件)
- 改革案に共感・期待 (5件)
- 市立高校にしかできない取組を期待 (4件)
- 教職員の意識改革 (3件)
- ICTや英語、数学などに重点を置いた学びの充実 (3件)
- 教育活動の充実(自主性やコミュニケーション能力の育成など) (3件)
- 保護者向け体験入学・オープンキャンパスの実施 (2件)
- 部活動の在り方の見直し(活動時間の短縮など) (2件)
- 将来の夢の実現、自分がしたいことが見つけられる教育の場の整備 (2件)
- 子どもの学習に予算を割いてほしい。
- 未来へのビジョンが模索しやすい学校づくりをお願いしたい。
- 広い世界観を培う体験、自分の世界を広げられる環境が大切。「無知の知」を知り、様々な変化への対応力が身に付く学びがあると子供達の未来が広がるのではないかと。
- ボランティア活動や農家体験の拡充など、実践して学ぶような機会を増やすことによって、子どもたちはより将来を想像しやすくなると思う。
- 学びの充実の前に、施設を見直すべきではないか。
- 内申点より学力で選抜してほしい。
- 基礎学力の底上げが必要不可欠
- 学力も大事だが、卒業してからも役立つ学びを提供してほしい。
- 単位制にして、誰でも学べる学校にしてほしい。
- 普通科、専門科、体育科、音楽科など選択肢が多様な学校になってほしい。
- プラン案の内容には共感するが、実現できるイメージがわからない。
- 北九州市立戸畑商業高等学校時代の卒業生である。母校の活躍や発展を嬉しく思う。これからの子どもたちの学びの場が更に素晴らしいものになっていくことを期待し応援している。
- 「求む校長」との奇抜な発想から新校長を迎える御校に非常に興味を持っている。 など

★北九州市立高等学校 1・2 年生

調査対象者数 390名 (令和4年5月1日時点)

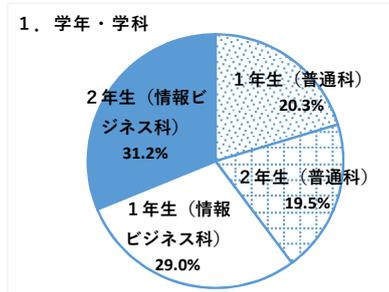
回答者数 359名

回収率 92.1%

1. あなたの学年・学科を教えてください。

1年生 (普通科)	73
2年生 (普通科)	70
1年生 (情報ビジネス科)	104
2年生 (情報ビジネス科)	112

359



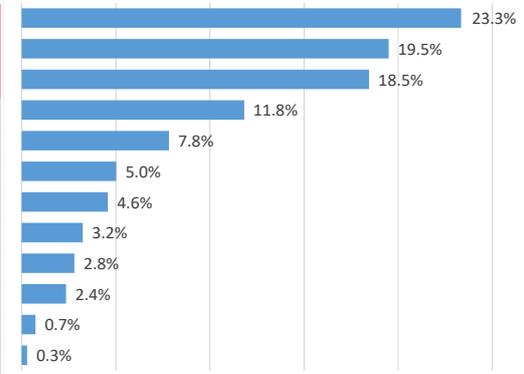
2. あなたが北九州市立高等学校に入学した動機は何でしたか？当てはまるものを選んでください。

(複数回答可:最大3つまで)

自分のやりたい部活動ができるから	158
自分の学力に合っていたから	132
資格が取得できるから	125
通学に便利だから	80
保護者や先生にすすめられたから	53
就職に有利だから	34
進学に有利だから	31
自分のやりたい勉強ができるから	22
友人と同じ学校に行きたいから	19
その他 (記述式)	16
学校の伝統や校風が自分に合っているから	5
学校の制服が気に入ったから	2

677

2. 市高に入学した動機



「その他」の詳細：

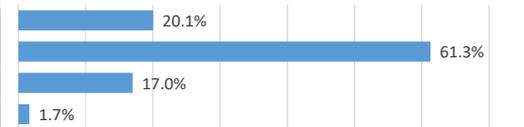
- 近いから (6件)
- 部活動推薦がもらえたから (2件)
- 特定の教員の授業を受けたかったから
- 好きな部活動があったから
- 先輩から誘われたから
- 電車通学したかったから
- 家から遠い学校に行きたかったから
- なんとなく

3. あなたは将来の生き方や進路について、保護者の方とどの程度話し合っていますか？

よく話し合っている	72
ときどき話し合っている	220
あまり話し合っていない	61
話し合っていない	6

359

3. 進路を保護者と話し合う頻度

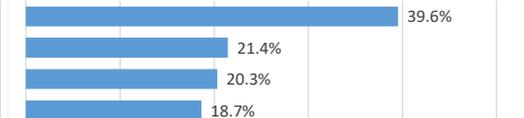


4. 高校卒業後の進路(大学や専門学校等への進学、就職等)はいつ頃決めましたか？1つ選んでください。

まだ決めていない→質問8へ	142
高校1年生	77
高校に入学する前	73
高校2年生	67

359

4. 卒業後の進路を決めた時期



5. あなたは高等学校卒業後、どのような進路を希望していますか？1つ選んでください。

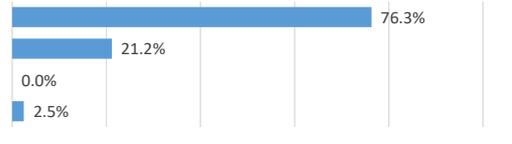
進学希望→質問6-1,7-1へ（質問6-2,7-2は回答しない）	274
就職希望→質問6-2,7-2へ（質問6-1,7-1は回答しない）	76
家業・家事に従事→質問6-2,7-2へ（質問6-1,7-1は回答しない）	0
その他（記述式）→質問8へ	9

359

「その他」の詳細：

- まだ決めていない（4件）
- 専門学校（3件）
- 就職課専門学校かで迷っている
- 消防士

5. 卒業後の希望進路



6-1. あなたが進学を希望する理由は何ですか？当てはまるものを選んでください。

（複数回答可：最大3つまで）

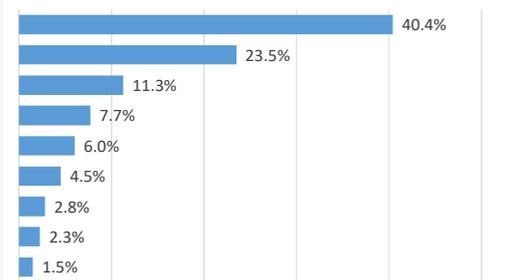
将来の仕事に役立つ専門的な知識・技能を身につけたいから	215
希望する職業につくために必要な資格をとりたいから	125
学校生活を楽しみたいから	60
教養を高めたいから	41
まだ働きたくないから	32
部活動（サークル活動など）がしたいから	24
周りの人がすすめるから	15
みんなが進学するから	12
その他（記述式）	8

532

「その他」の詳細：

- 将来的により収入を得たいため
- 高卒大卒で給与が違うから
- 将来の夢のため
- 自分の好きなことがそこで学べるから
- 好きな分野の知識を深めたいから
- 学歴
- まだどのような仕事をしたいか決めていないから
- 希望する就職先から募集が来るか分からないから

6-1. 進学を希望する理由



7-1. あなたが進学を希望するに当たり、どのようなことに困ったり悩んだりしていますか？当てはまるものを選んでください。（複数回答可：最大3つまで）

※困ったり悩んだりしていない場合には、「特に困ったり悩んだりしていることはない」1つのみを選択してください。

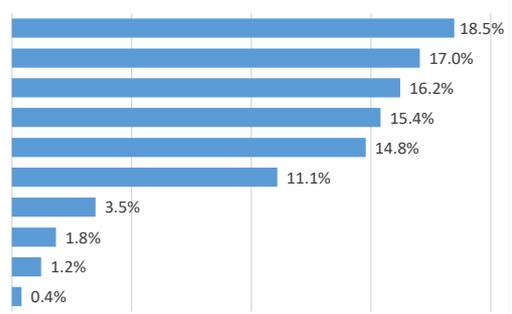
学習意欲がわかないこと	90
希望する学校に合格する自信がないこと	83
勉強がよくわからないこと	79
進学するとお金がかかること	75
はっきりした理由が見つからないこと	72
特に困ったり悩んだりしていることはない	54
自分の能力や適性（向き・不向き）に合う学校がないこと	17
保護者や先生と意見が合わないこと	9
その他（記述式）	6
相談する人がいないこと	2

487

「その他」の詳細：

- 志望校が決まらない（3件）
- 大学に行っても希望する企業に勤められるか分からないから
- 合格するかどうか

7-1. 進学に際し、悩んでいることなど



6-2. あなたが働くことを希望する理由は何ですか？当てはまるものを選んでください。

(複数回答可:最大3つまで)

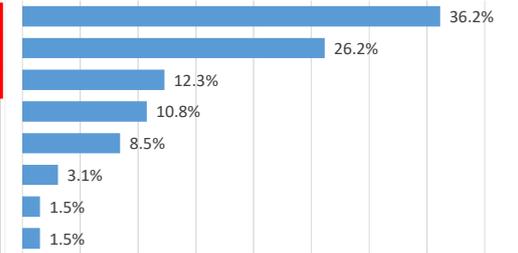
社会人として早く自立したいから	47
勉強するより仕事をする方が向いていると思うから	34
進学したい学校がないから	16
自分の学力では進学できそうにないから	14
若いうちに専門的な技術を身につけたいから	11
経済的な事情で働かなければならないから	4
周りの人がすすめるから	2
その他(記述式)	2

130

「その他」の詳細:

- ダンスがしたいから
- 実業団に入ってオリンピックに出たいから

6-2. 働くことを希望する理由



7-2. あなたが就職や家事への従事を希望するに当たり、どのようなことに困ったり悩んだりしていますか？
当てはまるものを選んでください。(複数回答可:最大3つまで)

※困ったり悩んだりしていない場合には、「特に困ったり悩んだりしていることはない」1つのみを選択してください。

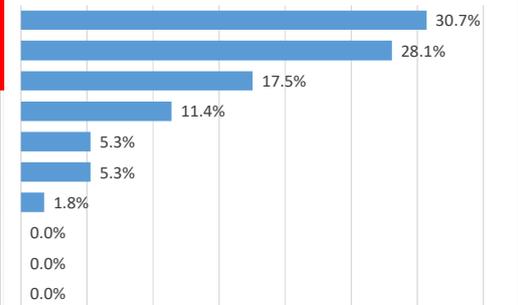
自分がどのような職業に向いているのかわからない	35
やりたい仕事が見つからない	32
特に困ったり悩んだりしていることはない	20
就職先でうまくやっていく自信がない	13
やりたい仕事はあるが、その就職先がない	6
本当は進学したい	6
その他(記述式)	2
相談する人がいない	0
保護者や先生と意見が合わない	0
就職のために家を出て生活しなければならない	0

114

「その他」の詳細:

- やりたい仕事がわからない。
- どうやって決めたらいいかわからない。

7-2. 働くに当たり、悩んでいることなど



8. 高校に入学してからあなたが学校で経験した学習や受けた指導の中で、自分の将来の生き方や進路を考える上で、役立ったことは何ですか？当てはまるものを選んでください。(複数回答可:最大3つまで)

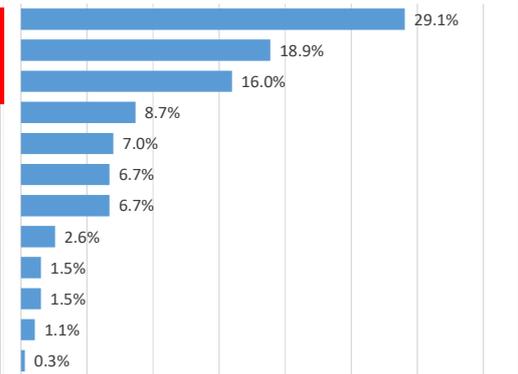
部活動	191
教科の授業・活動	124
卒業生、先生、社会人などの大人の話	105
社会人としての常識やマナーについての学習	57
外部(大学・企業・地域等)の方のお話、講演	46
委員会活動や生徒会活動・学校行事	44
進路相談	44
ボランティア活動	17
産業や職業についての調査	10
その他(記述式)	10
学校や職場訪問	7
近年の雇用の動向やグローバル化、男女共同参画社会等の学習	2

657

「その他」の詳細:

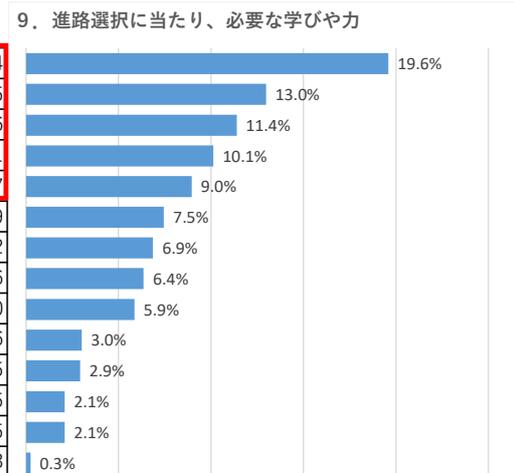
- 資格・検定取得 (3件)
- 合格体験報告会
- 担任との面談
- 嫌なことに取り組む、礼儀

8. 進路を考える上で役立った教育活動



9. 北九州市立高等学校では、令和6年度に「普通科」を「未来共創科」に改称するとともに、これまでの教科指導に加えて、学校外活動や様々な方々との対話を通じて、新しい価値を生み出したり、社会課題について考えたりする機会を多数設ける予定です。あなたは、自分の将来の生き方や進路の選択に当たり、これからの高等学校ではどのような学びや力が必要だと思いますか？当てはまるものを選んでください(複数回答可:最大5つまで)

コミュニケーション・人間関係形成の力・協調性	234
基礎的・基本的な学力	155
情報処理・情報活用能力	136
問題を発見し解決する能力	121
自分の考えを筋道を立ててまとめ、発信する力	107
職場の見学、就業体験（インターンシップ）	89
グループ学習	82
リーダーシップ力	76
上級学校（大学、短期大学、専門学校等）の見学、体験入学	70
ボランティア活動	36
学年や学校種を超えた学習	35
身近な産業や職業についての調べ学習	25
卒業生や社会人などの大人の話	25
その他（記述式）	3



1,194

「その他」の詳細：

- 自分にしかない個性を見つける。
- 個人の自然体を重視した人間形成
- 大量の問題を処理できる力

10. そのほか、北九州市立高等学校での学びの充実に当たり、意見があれば、以下の枠に自由に記入してください。

- 教育活動の見直し （8件）
- 教職員の意識改革 （6件）
- 校則の見直し （5件）
- 授業の質の向上・授業改善 （5件）
- 試験範囲を早めに示してほしい。 （5件）
- 伝統に捉われることなく、時代に合った変化を求める。 （2件）
- 行事の充実（文化祭の実施など） （2件）
- 行進などの集団行動を見直してほしい。 （2件）
- 学校施設の改善
- 制服をかわいくしてほしい。
- 地方国立以上でも、勉強すれば誰でも行けると教えてほしい。
- 改称後の学科で何を学べるのかをわかりやすく示してほしい。

★福岡県内の大学等

協力依頼校数 約50校（令和5年2月17日時点）

回答者数 延べ20校

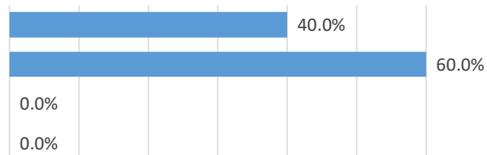
回収率 40.0%

1. ご所属先の所在地(ご勤務場所)について、以下から選択してください。

北九州市内	8
福岡県内（北九州市外）	12
県外（首都圏以外）	0
首都圏	0

20

1. ご所属先の所在地（勤務場所）

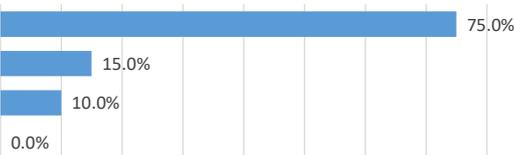


2. ご勤務先を以下から選択してください。

大学	15
短期大学	3
専門学校	2
その他（記述式）	0

20

2. 勤務先

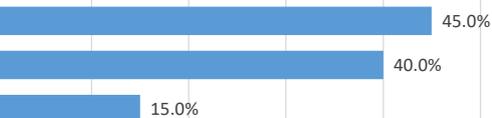


3. あなたは「北九州市立高等学校にかかる魅力向上プラン案」を読む前から、国の「高大接続改革」「高等学校改革」「普通科改革」「学びの変化」などの動向についてご存じでしたか？【概要版P.1～5】

知っていた	9
具体的なことは知らなかったが、動きとしては知っていた	8
知らなかった	3

20

3. 高大接続改革など、国の動向の認知度

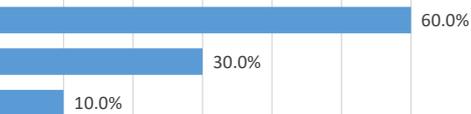


4. あなたは「北九州市立高等学校にかかる魅力向上プラン案」を読む前から、「北九州市における後期中等教育機関の今後の方針について」や北九州市立高等学校にかかる魅力向上事業などの取組についてご存じでしたか？【概要版P.4、6～7】

知らなかった	12
具体的なことは知らなかったが、動きとしては知っていた	6
知っていた	2

20

4. 市高の魅力向上事業など、市の取組の認知度

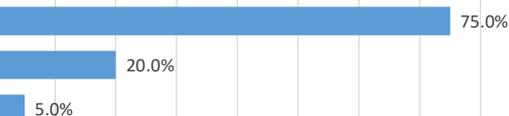


5. 北九州市立高等学校の所在地はご存じでしたか。（北九州市戸畑区浅生一丁目10-1）

戸畑区内にあることは知っていた	15
北九州市内にあることは知っていた	4
知らなかった	1

20

5. 市高の所在地の認知度

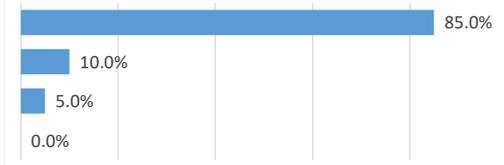


6. 北九州市立高等学校に設置している学科について、どの程度ご存じでしたか。

普通科、情報ビジネス科が設置されていることを知っていた	17
知らなかった	2
普通科のみが設置されていると思っていた	1
情報ビジネス科のみが設置されていると思っていた	0

20

6. 市高の学科の認知度



7. 北九州市立高等学校の就職・進学状況についてどのぐらいご存じでしたか？

ホームページ等で実績を見たことがある	18
よく知らない	2

20

7. 市高の就職・進学状況の認知度

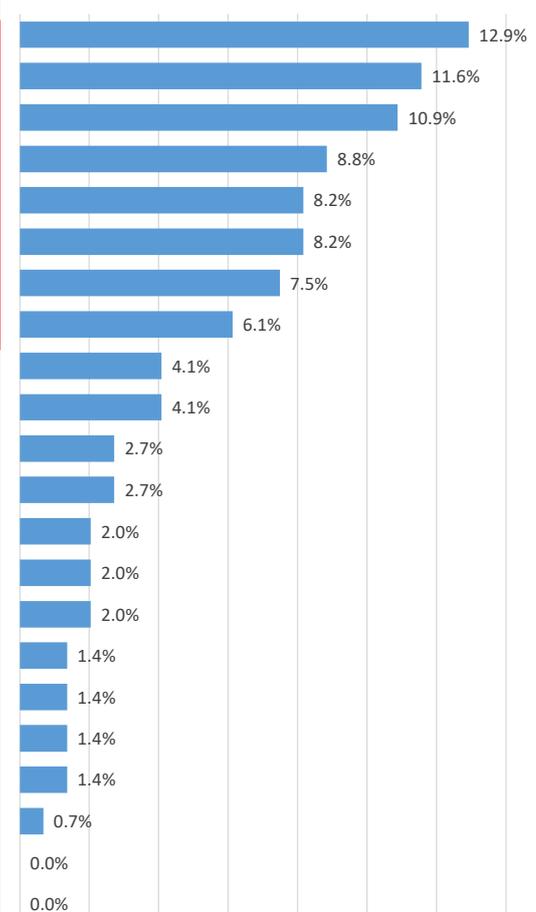


8. 北九州市立高等学校では、令和6年度に「普通科」を「未来共創科」に改称するとともに、これまでの教科指導に加えて、学校外活動や様々な方々との対話を通じて、新しい価値を生み出したり、社会課題について考えたりする機会を多数設ける予定です。SDGsの推進や未来人材の育成に当たり、これからの高等学校ではどのような学びや力が必要とされますか？優先度が特に高いものを以下から8つまで選択してください。

コミュニケーション・人間関係形成の力	19
課題発見力・課題解決型学習	17
自分の考えを筋道を立ててまとめ、発信する力	16
論理的な思考力	13
基礎的・基本的な学力	12
情報処理・情報活用能力	12
自己理解・自己管理能力	11
協調性・社交性	9
就業体験（インターンシップ）	6
社会人や職業人の講話・講演	6
卒業生の体験談	4
身近な産業や職業についての調査	4
ボランティア活動	3
グループ学習	3
上級学校（大学、短期大学、専門学校等）の見学・調査	3
リーダーシップ力	2
学年や学校種を超えた学び	2
上級学校（大学、短期大学、専門学校等）の体験入学	2
上級学校（大学、短期大学、専門学校等）の先生の講話・講演	2
職場の見学	1
先生（校長や担任など）の体験談	0
その他（記述式）	0

147

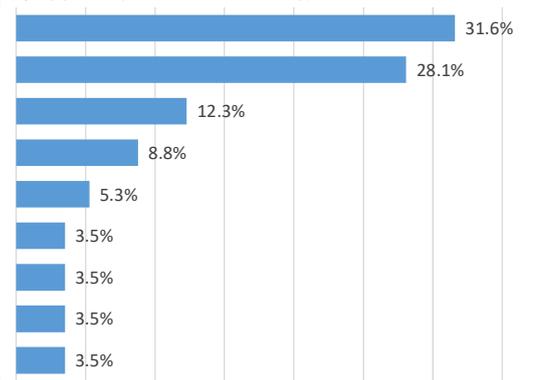
8. これから必要と思う学びや力



9. 「未来共創科」では、大学・企業・行政等と連携・協働した学びを充実させ、SDGsの推進につなげていきたいと考えています。ご所属先でご協力いただけそうな活動を選択してください(複数回答可)。

大学・会社・職場の見学などの受入れ	18
ご担当業務等にかかる出前講座の実施	16
ご担当業務に対する高校生インタビュー（ヒアリング）の受入れ	7
仕事に役立つ資格取得・技能取得の支援	5
デジタル技術・ICTスキルの向上などの支援	3
高校生とコラボレーションした商品・サービス開発	2
その他（記述式）	2
現在の職業に就くまでの進路選択過程などにかかる外部講師役	2
インターンシップ生の受入れ	2

9. 市高にご協力いただけそうな活動



57

「その他」の詳細：

大学生との協働、探究支援

10. 北九州市立高等学校から今後の教育活動へのご協力依頼などをさせていただくことについて、以下から選択してください。

協力についての相談は可能	17
協力は難しい	3

10. 市高からの協力依頼の可否



20

11. そのほか、北九州市立高等学校での学びの充実にあたり、ご意見がございましたら、以下の枠に自由に記入してください。

●過去の成功体験が強ければ強いほど、変化を恐れるものである。しかし、それ以上に社会の変化が激しく、教育も変化しなければならないと考える。また、一旦決まった方向性に突き進むことも重要だが、途中途中で評価し修正を加えながら前に進むことが大事だと考える。

●「ままごと」にならず、本当の社会を体験できるような機会とするべき。「教育だから」「高校生だから」といった特別な設定をしてしまうと、真の社会を学ぶことができない。もちろん、リスクも存在するが、そのリスクも社会の中では当たり前。真の社会を学ぶための教育を推進されることを願う。

●教育を行うのは「人」である。教職員が一丸となって取り組むことはもちろん、企業、大学、地域の方など、あらゆるステークホルダーを巻き込みながら、チームで、地域全体で教育活動を展開していくことが重要だと考える。

●内容に応じて、担当部署を紹介させていただく。 など

★北九州市内・首都圏等の企業等

協力依頼社数 約500社（令和5年2月17日時点）

回答社数 延べ133社

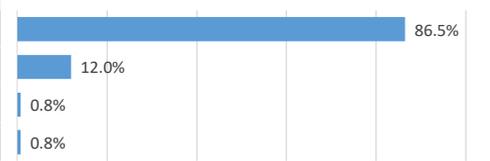
回収率 26.6%

1. ご所属先の所在地(ご勤務場所)について、以下から選択してください。

北九州市内	115
首都圏	16
福岡県内（北九州市外）	1
県外（首都圏以外）	1

133

1. ご所属先の所在地（勤務場所）

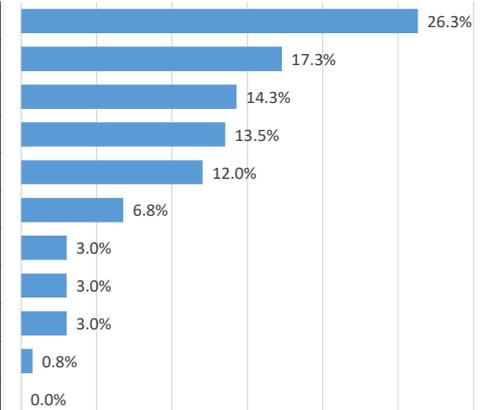


2. 業種名を以下から1つ選択してください。

建設業	35
その他（記述式）	23
サービス業	19
製造業	18
卸売・小売・飲食業	16
情報関連業	9
医療・福祉関係	4
運輸・通信業	4
不動産業	4
農業・林業・漁業	1
鉱業	0

133

2. 業種名



「その他」の詳細：

金融業、保険業、金融・保険業、教育、コンサル業、映像制作、音楽・イベント企画運営、システム開発、環境調査・分析、電力業、エネルギー事業、測量、自動車整備、産廃・一廃収集運搬業、産業廃棄物処理業、PETボトルリサイクル業、清掃業、協会事務局、市役所

3. 従業員数(常用労働者数※1)を以下から1つ選択してください。 (わかる範囲で結構です)

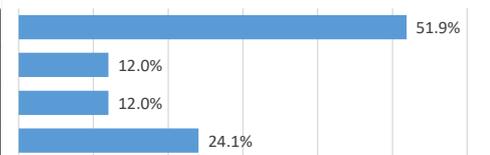
※1期間を決めず、または1か月を超える期間を決めて雇われている方

※1日々または1か月以内の期間を限って雇われている方のうち、前2か月に18日以上雇われた方ご勤務先を以下から選択してください。

50人未満	69
50人以上100人未満	16
100人以上200人未満	16
200人以上	32

133

3. 従業員数

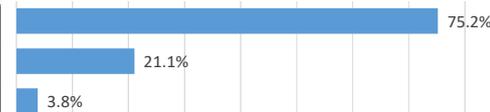


4. あなたは「北九州市立高等学校にかかる魅力向上プラン案」を読む前から、国の「高大接続改革」「高等学校改革」「普通科改革」「学びの変化」などの動向についてご存じでしたか？【概要版P.1～5】

知らなかった	100
具体的なことは知らなかったが、動きとしては知っていた	28
知っていた	5

133

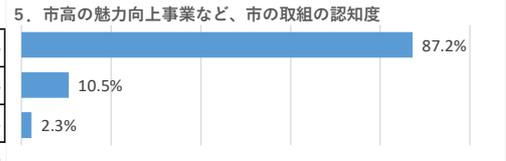
3. 高大接続改革など、国の動向の認知度



5. あなたは「北九州市立高等学校にかかる魅力向上プラン案」を読む前から、「北九州市における後期中等教育機関の今後の方針について」や北九州市立高等学校にかかる魅力向上事業などの取組についてご存じでしたか？【概要版P.4、6～7】

知らなかった	116
具体的なことは知らなかったが、動きとしては知っていた	14
知っていた	3

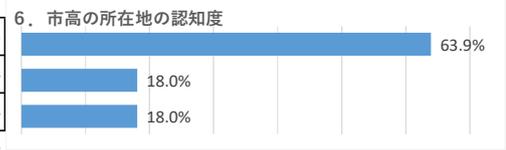
133



6. 北九州市立高等学校の所在地をご存じでしたか。（北九州市戸畑区浅生一丁目10-1）

戸畑区内にあることは知っていた	85
北九州市内にあることは知っていた	24
知らなかった	24

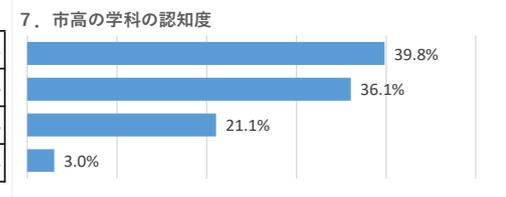
133



7. 北九州市立高等学校に設置している学科について、どの程度ご存じでしたか。

知らなかった	53
普通科、情報ビジネス科が設置されていることを知っていた	48
普通科のみが設置されていると思っていた	28
情報ビジネス科のみが設置されていると思っていた	4

133



8. 北九州市立高等学校の就職・進学状況についてどのぐらいご存じでしたか？

よく知らない	105
ホームページ等で実績を見たことがある	28

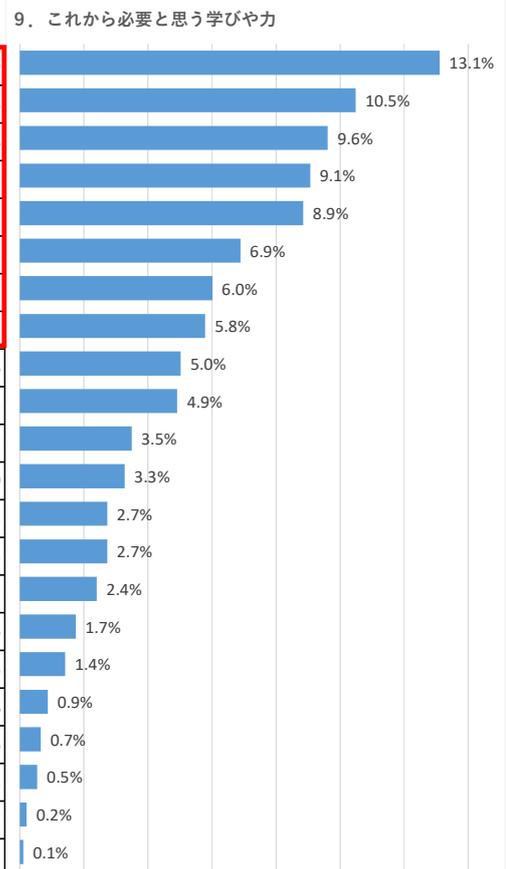
133



9. 北九州市立高等学校では、令和6年度に「普通科」を「未来共創科」に改称するとともに、これまでの教科指導に加えて、学校外活動や様々な方々との対話を通じて、新しい価値を生み出したり、社会課題について考えたりする機会を多数設ける予定です。SDGsの推進や未来人材の育成に当たり、これからの高等学校ではどのような学びや力が必要だと思いますか？優先度が特に高いものを以下から8つまで選択してください。

コミュニケーション・人間関係形成の力	120
課題発見力・課題解決型学習	96
自分の考えを筋道を立ててまとめ、発信する力	88
基礎的・基本的な学力	83
協調性・社交性	81
情報処理・情報活用能力	63
自己理解・自己管理能力	55
論理的な思考力	53
就業体験（インターンシップ）	46
リーダーシップ力	45
ボランティア活動	32
社会人や職業人の講話・講演	30
身近な産業や職業についての調査	25
学年や学校種を超えた学び	25
職場の見学	22
卒業生の体験談	16
グループ学習	13
その他（記述式）	8
先生（校長や担任など）の体験談	6
上級学校（大学、短期大学、専門学校等）の体験入学	5
上級学校（大学、短期大学、専門学校等）の見学・調査	2
上級学校（大学、短期大学、専門学校等）の先生の講話・講演	1

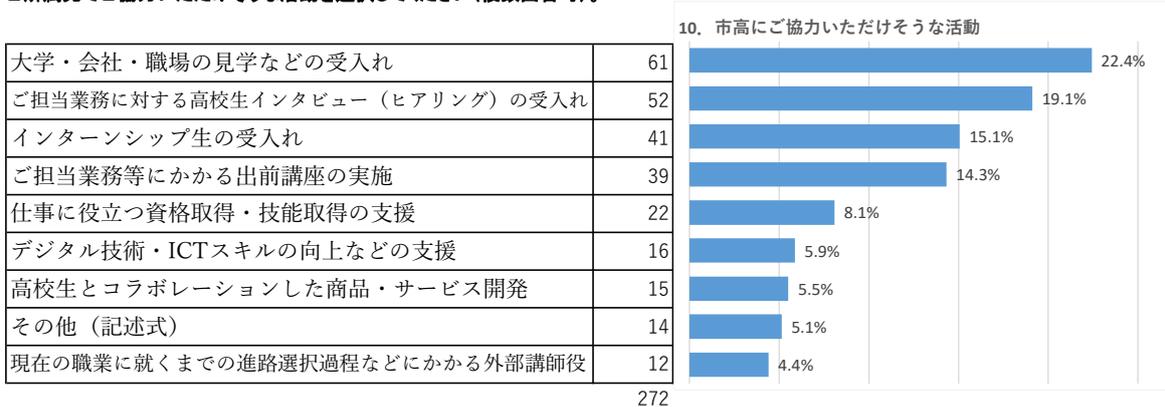
915



「その他」の詳細：

- 金融リテラシー（3件）
- ビジネスマナー研修
- 聴く力
- 社会の問題や地域の課題に関心を持つ感性
- 社会や地域貢献により生活を豊かにするという意識の醸成
- 経済、税金、本当の歴史を教育する稀有な学校
- ライフイベントの教育
- 同年代でのつながった人材との交流
- 自分の好きなこと、趣味の発見（そのことでリフレッシュ）

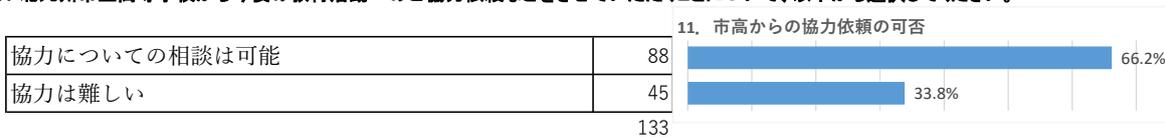
10. 「未来共創科」では、大学・企業・行政等と連携・協働した学びを充実させ、SDGsの推進につなげていきたいと考えています。ご所属先でご協力いただけそうな活動を選択してください(複数回答可)。



「その他」の詳細：

- 職場体験(アルバイトなど)
- 自社イベントへの参加受入れ

11. 北九州市立高等学校から今後の教育活動へのご協力依頼などをさせていただくことについて、以下から選択してください。



12. そのほか、北九州市立高等学校での学びの充実にあたり、ご意見がございましたら、以下の枠に自由に記入してください。

- 相談・協力することは可能（16件）
- 応援している。頑張ってもらいたい。（8件）
- 自分や家族、知り合いが市高の卒業生である。（3件）
- （時期などによっては）インターンシップの受入れも可能（2件）
- ブラック校則にも早めに対応してほしい。学校での勉強は、社会に出てから何も役に立たない。日本の未来を担える人材、外国に負けない人材を輩出してほしい。金融、ITにもっと力を入れてもらいたい。今の教えは現代に合っていない。
- 未来をしっかりリンクできる学びが大切。頭(脳みそ)に汗をかくように、考え、世界に羽ばたける教育も重要。
- 未来共創科には、興味がある。
- 企業も学校も1つの団体でできることは限られており、できるだけ協力し合って地域社会の課題を解決していくべきで、その延長に「高大接続改革」「高等学校改革」「普通科改革」「学びの変化」があるのではないかと考える。間口を狭めることなく、簡単なことから広く繋がっていくことがポイントだと思う。
- 現代社会において、特に新卒や若い方たちに総合的な知識や判断が求められることが多いように思える。その柔軟な対応力の育成には、各種多様な職業の人からの、実体験を交えた講習やディスカッションがより学びへの充実さを増すのかなと思っている。
- 社会で生きていくための人間力を養う学びが必要
- 今や、小・中学校の義務教育の在り方にも変化が急速に起こっている。いち早く「変化に対応できる体制」を作り、将来活躍する人材になるための成長を促すことは、現社会人として、親としての責務であると考え、北九州市立高等学校での学びに期待し、賛同する。

Portfolio of sustainable education and community

高校魅力化評価システム 組織診断レポート

高校名	北九州市立高等学校											
年度	2022年度											
回答者数	生徒・学生	543 (内訳)	1年生	186	2年生	188	3年生	169	4年生	0	5年生	0
	(昨年度)	(内訳)	1年生		2年生		3年生		4年生		5年生	
	大人	31 (内訳)	教職員	30	(昨年度)	大人	(内訳)	教職員				

【MEMO】
教育目標、育てたい生徒像など

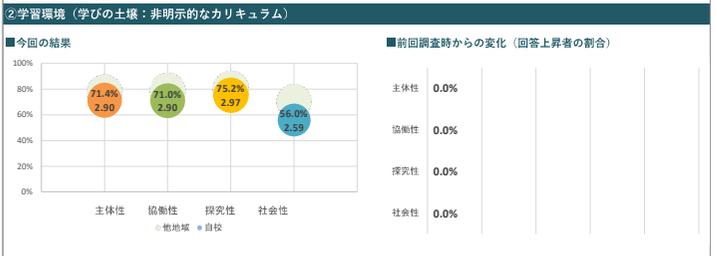
Summary 総括表

項目	■今回の結果 (まとめ)				■前回、前々回からの肯定的回答割合の推移 (まとめ)			
	主体性	協働性	探究性	社会性	主体性	協働性	探究性	社会性
① 学習活動	1	3	2	1	↑	↑	↑	↑
② 学習環境	3	3	3	2	↑	↑	↑	↑
③ 自己認識	3	3	2	2	↑	↑	↑	↑
④ 行動実績	2	3	2	1	↑	↑	↑	↑
⑤ ウェルビーイング	2	3	3	2	↑	↑	↑	↑

※肯定的回答割合が5%未満=1.50~65%=2.65%~80%=3.80%以上=4
※差から前々回、前回、今回。※受検校もグラフに表示されるため読み取り注意。



※上段の数値 (% : 縦軸) が肯定的回答割合、下段の数値が平均値



【学習活動】【学習環境】読み取り・検討の視点

- ・ 自校の強みや課題、それを増進/克服するための、協働のあり方は?
- ・ 普段から意識して取り組んでいる活動の機会や環境づくりは? その成果は出ていますか?
- ・ 協働を支えるコーディネーター機能として、どのような役割が必要か?

How to read 結果の読み取り方

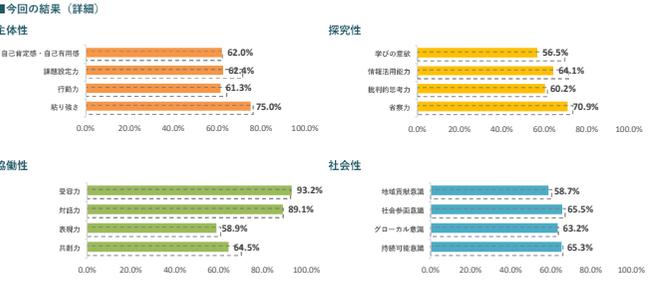
このレポートでは、以下の5側面、4領域、3軸により、高校と地域の学びの「いま」と「変化」を読み取ることができます。

- 5つの側面 → 各校・地域の状態を、「①学習活動」「②学習環境」「③生徒の自己能力認識」「④生徒の行動実績」「⑤ウェルビーイング」の5つから把握しています。
- 4つの領域から → 各設問を「主体性」「協働性」「探究性」「社会性」の4つの資質・能力に関する領域に分類しています。
- 3つの軸で → 上記のデータを「時間軸 (前年度からの伸び)」「学年軸 (学年による違い)」「地域軸 (他地域との比較)」の3つの軸で整理しています。

- 結果に出てくる数字や言葉は次の意味を表しています。
- 【割合 (%)】 → 各項目で「4、あてはまる」「3、どちらかといえばあてはまる」という肯定的回答をした割合
 - 【平均】 → 「あてはまらない=1」~「あてはまる=4」の回答の平均値
 - 【他地域】 → 同じ機会に調査を実施した他校の回答の平均値
 - 【回答上昇者の割合】 → (個人IDで紐づけを行い、複数回調査を実施した場合に表示) 前年と比べて、各領域の回答平均値が上がった回答者の、全回答者に占める割合

■強み・伸びしろ

項目	強み: 肯定的回答割合が最も高い項目	伸びしろ: 肯定的回答割合が最も低い項目
① 学習活動	86.4% 活動、学習内容について生徒同士で話し合う	23.2% 学校外のいろいろな人に話を聞きに行く
② 学習環境	88.0% 比較する人に対して、応える雰囲気がある	42.2% 自分の暮らす地域を、外からの視点で考える機会がある
③ 自己認識	93.2% 自分とは異なる意見や価値を尊重することができる	42.5% 将来の国や地域の担い手として、積極的に政策決定に関わりたい
④ 行動実績	76.1% 得意で分らないことも、自分から質問したり、分かる人に聞いた	30.6% 地域社会などでボランティア活動に参加した
⑤ ウェルビーイング	84.3% 学校の一人だと感じている	49.9% 日本の将来は明るいと思う



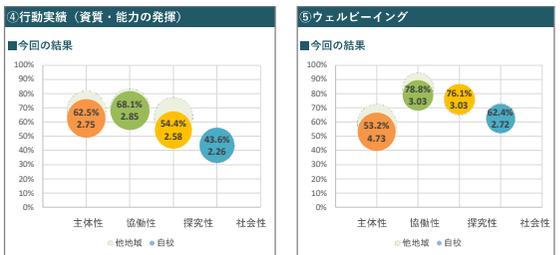
※点線は他地域における肯定的回答割合

【生徒の自己認識】読み取り・検討の視点

- ・ 普段から意識している、育てたい生徒像や、身につけさせたい力に関する指標の結果は?
- ・ 前々回からの変化は? その要因として、何が考えられそうか? (学習活動、学習環境と関連付けて)
- ・ 今後、意識して伸ばしていきたいと考える力は? そのために必要な「次の一手」は?

■総合的な生徒の満足度

生活全般の満足度 (0~10で6以上)	満足度	51.6%
前回、前々回からの推移		↑
高校に対する満足度	満足度	70.2%
前回、前々回からの推移		↑
この学校を中学生におすすめできる	満足度	56.5%

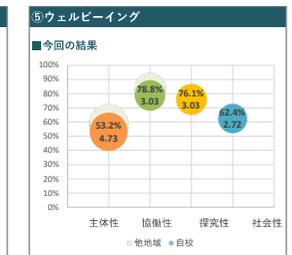


【生徒の行動実績】読み取り・検討の視点

- ・ 生徒に期待する具体的な行動は?
- ・ 生徒の自己認識との関連は?
- ・ 具体的な行動を促すような、学習活動や学習環境づくりはできているか?

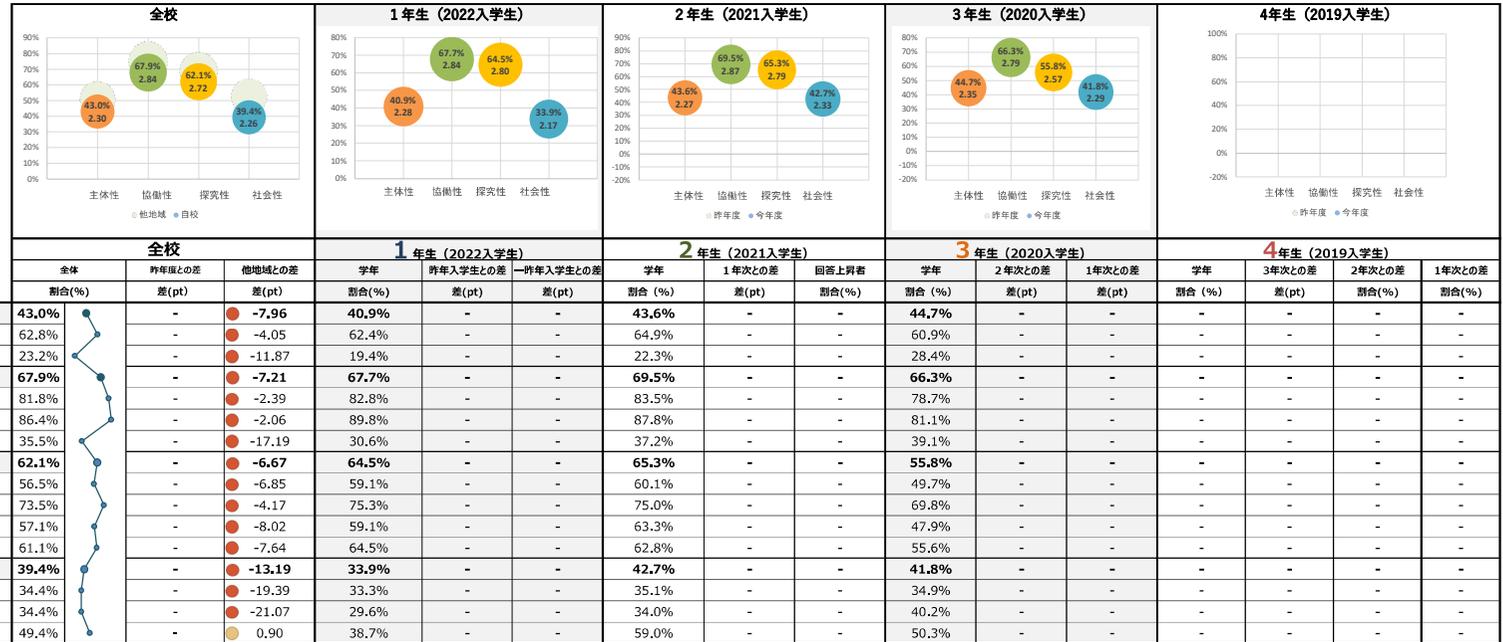
■総合的な大人の満足度

この地域を将来暮らす場所としておすすめできる	満足度	67.7%
この学校に関わってよかった	満足度	77.4%
この学校を中学生におすすめできる	満足度	58.1%



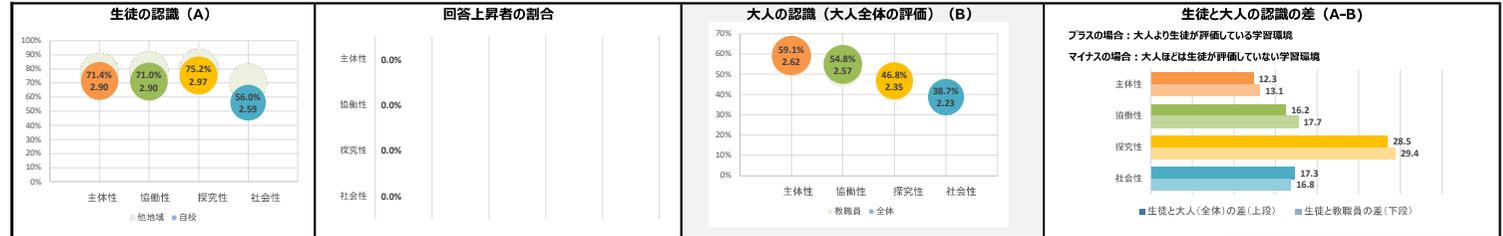
Details 詳細結果

① 学習活動（明示的なカリキュラム）



※3年生、4年生の「回答上昇者率」は「上昇率」シートで確認いただけます

② 学習環境 (学びの土壌: 非明示的なカリキュラム)



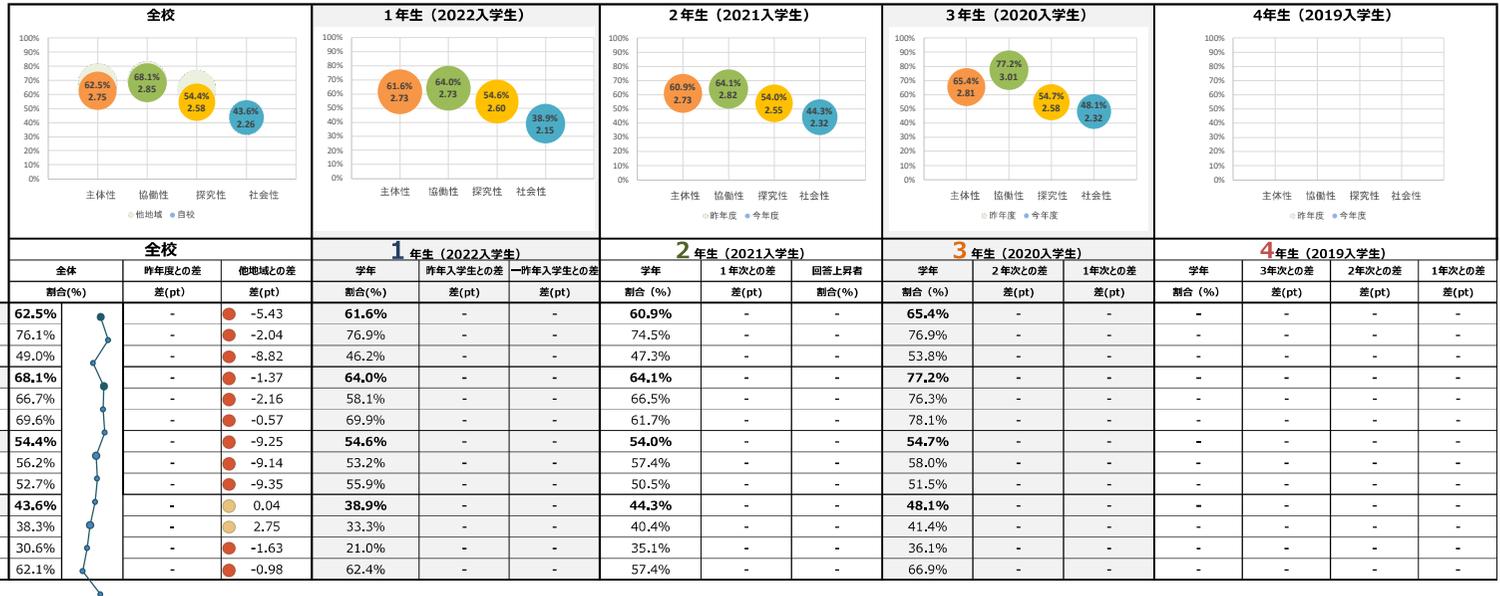
	生徒の認識 (A)				大人の認識 (大人全体の評価) (B)				生徒と大人の認識の差 (A-B)		大人質問項目				
	割合(%)	昨年度との差	他地域との差	全体	割合(%)	昨年度との差	うち教職員	昨年度との差	生徒と大人 (全体)	生徒と教職員					
主体性に関する学習環境	71.4%	-	-6.05	-	71.3%	69.8%	73.4%	-	59.1%	-	58.3%	-	12.3pt	13.1pt	
20 失敗してもよいという安全・安心な雰囲気がある	64.8%	-	-13.80	-	60.8%	68.1%	65.7%	-	45.2%	-	43.3%	-	19.7pt	21.5pt	5 失敗を恐れずに挑戦することができる
21 挑戦する人に対して、応援する雰囲気がある	88.0%	-	-2.91	-	88.2%	87.8%	88.2%	-	74.2%	-	73.3%	-	13.8pt	14.7pt	13 挑戦する人に対して、応援することができる
33 目標や当事者意識を持って挑戦している人がある	76.4%	-	-4.78	-	77.4%	72.3%	79.9%	-	51.6%	-	50.0%	-	24.8pt	26.4pt	6 目標や当事者意識を持って挑戦することができる
34 地域に、尊敬している・憧れている大人がいる	51.9%	-	-4.93	-	48.9%	51.6%	55.6%	-	-	-	-	-	-	-	-
30 人の挑戦に関わらせてもらえる機会がある	55.1%	-	-8.71	-	57.0%	53.7%	54.4%	-	38.7%	-	40.0%	-	16.4pt	15.1pt	7 自身の挑戦に、周囲を巻き込もうとしている
26 自分が何かに挑戦しようと思ったとき、周りは手を差し伸べてくれる	84.9%	-	-4.46	-	85.5%	81.9%	87.6%	-	80.6%	-	80.0%	-	4.3pt	4.9pt	14 誰かが何かに挑戦しようと思ったとき、手を差し伸べている
35 周りの大人は、自分に関わることで自分で決めることを尊重してくれる	81.8%	-	-4.46	-	83.9%	78.2%	83.4%	-	64.5%	-	63.3%	-	17.3pt	18.4pt	22 子どもの自己決定を尊重できている
36 生徒の意見が学校での意思決定に反映される雰囲気がある	68.5%	-	-4.35	-	68.8%	64.9%	72.2%	-	-	-	-	-	-	-	-
協働性に関する学習環境	71.0%	-	-7.73	-	68.8%	72.2%	72.2%	-	54.8%	-	53.3%	-	16.2pt	17.7pt	
22 人と違うことが尊重される雰囲気がある	68.3%	-	-11.09	-	66.1%	70.2%	68.6%	-	45.2%	-	43.3%	-	23.2pt	25.0pt	8 人と違うこと、異なった意見を尊重している
23 あのままの自分が尊重される雰囲気がある	71.3%	-	-10.28	-	66.7%	75.0%	72.2%	-	58.1%	-	56.7%	-	13.2pt	14.6pt	9 あのままの個人を尊重している
27 自分と異なる立場や役割を持つ人との関わりがある	77.5%	-	-4.90	-	78.0%	76.1%	78.7%	-	51.6%	-	50.0%	-	25.9pt	27.5pt	15 自分と異なる立場や役割を持つ人と交流している
28 立場や役割を超えて協働する機会がある	67.0%	-	-4.62	-	64.5%	67.6%	69.2%	-	64.5%	-	63.3%	-	2.5pt	3.7pt	16 立場や役割を超えて協働している
探究性に関する学習環境	75.2%	-	-5.09	-	73.3%	75.5%	77.1%	-	46.8%	-	45.8%	-	28.5pt	29.4pt	
17 本音を気兼ねなく発言できる雰囲気がある	75.9%	-	-5.89	-	72.0%	76.6%	79.3%	-	29.0%	-	26.7%	-	46.8pt	49.2pt	10 本音を気兼ねなく発言できる
18 将来のことや実現したいことを話し合える大人がいる	79.0%	-	1.00	-	75.8%	80.3%	81.1%	-	29.0%	-	30.0%	-	50.0pt	49.0pt	11 地域に、将来のことや実現したいことを話し合える大人がいる
24 周りの大人は、じっくりと話を聞き、考える手助けをしてくれる	76.8%	-	-9.49	-	75.8%	76.6%	78.1%	-	80.6%	-	80.0%	-	-3.8pt	-3.2pt	17 生徒に対してじっくりと話を聞き、考える手助けができています
31 お互いに問いかけあう機会がある	69.2%	-	-5.99	-	69.4%	68.6%	69.8%	-	48.4%	-	46.7%	-	20.9pt	22.6pt	18 お互いに問いかけあう機会がある
社会性に関する学習環境	56.0%	-	-14.29	-	56.0%	56.0%	55.9%	-	38.7%	-	39.2%	-	17.3pt	16.8pt	
19 地域から大切にされている雰囲気を感じる	72.9%	-	-9.34	-	72.6%	73.4%	72.8%	-	38.7%	-	36.7%	-	34.2pt	36.3pt	21 地域で生徒を育てるという意識を持っている
25 興味を持ったことに対してすぐに橋渡しをしてくれる大人がいる	64.5%	-	-12.27	-	66.7%	62.2%	64.5%	-	64.5%	-	66.7%	-	-0.1pt	-2.2pt	19 生徒の関心に合わせて、機会を提供できている
29 地域の人や課題などにじかに触れる機会がある	44.4%	-	-19.85	-	44.6%	44.1%	44.4%	-	25.8%	-	26.7%	-	18.6pt	17.7pt	20 地域の人や課題などにじかに触れる機会を持っている
32 自分の暮らしや地域を、外からの視点で考える機会がある	42.2%	-	-15.69	-	40.3%	44.1%	42.0%	-	25.8%	-	26.7%	-	16.4pt	15.5pt	12 自分の暮らしや地域を外からの視点で考える機会を持っている

③ 生徒の自己認識（資質・能力の主観的認識）

● 10pt以上の増加 ● 0-10ptの増加 ● 減少

	全校															
	1 年生 (2022入学生)			2 年生 (2021入学生)			3 年生 (2020入学生)			4 年生 (2019入学生)						
	全体	昨年層との差	他地域との差	学年	昨年入学生との差	一昨年入学生との差	学年	1 年次との差	回答上層者	学年	2 年次との差	1年次との差	学年	3年次との差	2年次との差	1年次との差
割合(%)	差(pt)	差(pt)	割合(%)	差(pt)	差(pt)	割合(%)	差(pt)	割合(%)	割合(%)	差(pt)	差(pt)	割合(%)	差(pt)	差(pt)	差(pt)	
主体性に関わる自己認識	65.6%	-	● -2.53	64.3%	-	-	60.3%	-	-	72.8%	-	-	-	-	-	-
【自己肯定感・自己有用感】	62.0%	-	● -0.20	61.8%	-	-	56.1%	-	-	68.6%	-	-	-	-	-	-
51 自分にはよいところがあると思う	71.3%	-	● -1.37	71.5%	-	-	64.4%	-	-	78.7%	-	-	-	-	-	-
52 私は、自分自身に満足している	52.7%	-	● 0.97	52.2%	-	-	47.9%	-	-	58.6%	-	-	-	-	-	-
【課題設定力】	62.4%	-	● -9.01	62.4%	-	-	56.4%	-	-	69.2%	-	-	-	-	-	-
39 現状を分析し、目的や課題を明らかにすることができる	62.4%	-	● -9.01	62.4%	-	-	56.4%	-	-	69.2%	-	-	-	-	-	-
【行動力】	61.3%	-	● -2.83	59.9%	-	-	58.0%	-	-	66.6%	-	-	-	-	-	-
40 目標を設定し、確実に行動することができる	63.7%	-	● 0.27	62.9%	-	-	60.1%	-	-	68.6%	-	-	-	-	-	-
53 自分で計画を立てて活動することができる	58.9%	-	● -5.93	57.0%	-	-	55.9%	-	-	64.5%	-	-	-	-	-	-
【粘り強さ】	75.0%	-	● -1.32	72.0%	-	-	68.9%	-	-	84.9%	-	-	-	-	-	-
37 うまくいかからないことにも意欲的に取り組む	77.5%	-	● -2.77	77.4%	-	-	71.8%	-	-	84.0%	-	-	-	-	-	-
47 忍耐強く物事に取り組むことができる	72.4%	-	● 0.13	66.7%	-	-	66.0%	-	-	85.8%	-	-	-	-	-	-
協働性に関わる自己認識	72.9%	-	● -1.92	71.5%	-	-	70.1%	-	-	77.6%	-	-	-	-	-	-
【受容力】	93.2%	-	● 0.43	93.0%	-	-	93.1%	-	-	93.5%	-	-	-	-	-	-
43 自分とは異なる意見や価値を尊重することができる	93.2%	-	● 0.43	93.0%	-	-	93.1%	-	-	93.5%	-	-	-	-	-	-
【対話力】	89.1%	-	● -0.23	89.2%	-	-	87.8%	-	-	90.5%	-	-	-	-	-	-
42 相手の意見を丁寧に聞くことができる	89.1%	-	● -0.23	89.2%	-	-	87.8%	-	-	90.5%	-	-	-	-	-	-
【表現力】	58.9%	-	● -1.99	56.5%	-	-	54.5%	-	-	66.6%	-	-	-	-	-	-
49 自分の考えをはっきり相手に伝えることができる	63.7%	-	● -3.08	61.8%	-	-	59.0%	-	-	71.0%	-	-	-	-	-	-
50 友達の前で自分の意見を発表することは得意だ	54.1%	-	● -0.89	51.1%	-	-	50.0%	-	-	62.1%	-	-	-	-	-	-
【共創力】	64.5%	-	● -5.83	62.4%	-	-	60.6%	-	-	71.0%	-	-	-	-	-	-
44 共同作業だと、自分の力が発揮できる	64.5%	-	● -5.83	62.4%	-	-	60.6%	-	-	71.0%	-	-	-	-	-	-
探究性に関わる自己認識	61.1%	-	● -7.40	59.5%	-	-	58.3%	-	-	66.1%	-	-	-	-	-	-
【学びの意欲】	56.5%	-	● -13.13	55.6%	-	-	54.6%	-	-	59.8%	-	-	-	-	-	-
38 家や寮で、誰かに言われなくても自分から勉強する	54.7%	-	● -16.30	51.1%	-	-	51.6%	-	-	62.1%	-	-	-	-	-	-
61 地域を対象とした課題探究学習に熱心に取り組んでいる	47.1%	-	● -11.45	45.2%	-	-	50.0%	-	-	46.2%	-	-	-	-	-	-
67 学習を通じて、自分がしたいことが増えている	67.8%	-	● -11.65	70.4%	-	-	62.2%	-	-	71.0%	-	-	-	-	-	-
【情報活用能力】	64.1%	-	● -7.45	61.8%	-	-	61.7%	-	-	69.2%	-	-	-	-	-	-
45 情報を、勉強したごとと関連づけて理解できる	71.5%	-	● -6.44	68.3%	-	-	68.1%	-	-	78.7%	-	-	-	-	-	-
46 勉強したものを実際に応用してみる	56.7%	-	● -8.45	55.4%	-	-	55.3%	-	-	59.8%	-	-	-	-	-	-
【批判的思考力】	60.2%	-	● -1.16	58.3%	-	-	56.6%	-	-	66.3%	-	-	-	-	-	-
41 複雑な問題を順序立てて考えることが得意だ	43.3%	-	● -2.57	39.8%	-	-	42.0%	-	-	48.5%	-	-	-	-	-	-
54 一つ二つの立場だけでなく、できるだけ多くの立場から考えようとする	77.2%	-	● 0.24	76.9%	-	-	71.3%	-	-	84.0%	-	-	-	-	-	-
【省察力】	70.9%	-	● -2.55	68.8%	-	-	66.0%	-	-	78.7%	-	-	-	-	-	-
48 自分を客観的に理解することができる	70.9%	-	● -2.55	68.8%	-	-	66.0%	-	-	78.7%	-	-	-	-	-	-
社会性に関わる自己認識	63.0%	-	● -1.16	61.5%	-	-	60.1%	-	-	67.7%	-	-	-	-	-	-
【地域貢献意識】	58.7%	-	● -1.79	58.8%	-	-	55.3%	-	-	62.3%	-	-	-	-	-	-
65 将来の国や地域の担い手として、積極的に政策決定に関わりたい	42.5%	-	● -2.34	39.8%	-	-	41.5%	-	-	46.7%	-	-	-	-	-	-
56 地域をよりよくなるため、地域の問題に関わりたい	61.9%	-	● -2.88	60.8%	-	-	60.1%	-	-	65.1%	-	-	-	-	-	-
58 将来、自分の住んでいる地域に役に立ちたい	71.6%	-	● -0.16	75.8%	-	-	64.4%	-	-	75.1%	-	-	-	-	-	-
【社会参画意識】	65.5%	-	● -1.51	61.3%	-	-	63.8%	-	-	72.0%	-	-	-	-	-	-
57 私が関わることで、社会状況が変えられるかもしれない	46.4%	-	● -2.27	41.9%	-	-	39.9%	-	-	58.6%	-	-	-	-	-	-
62 地域や社会での問題やできごとに興味がある	69.1%	-	● -2.38	66.1%	-	-	71.3%	-	-	69.8%	-	-	-	-	-	-
55 18歳選挙権を取得したら、選挙に行こうと思う	81.0%	-	● 0.12	75.8%	-	-	80.3%	-	-	87.6%	-	-	-	-	-	-
【グローバル意識】	63.2%	-	● -0.50	63.4%	-	-	60.8%	-	-	65.5%	-	-	-	-	-	-
59 地域の課題と世界での課題は関連していると思う	68.9%	-	● -0.62	70.4%	-	-	67.6%	-	-	68.6%	-	-	-	-	-	-
64 将来、見知らぬ土地でチャレンジしてみたい	62.8%	-	● -6.91	63.4%	-	-	59.6%	-	-	65.7%	-	-	-	-	-	-
63 将来、自分のいま住んでいる地域で働きたいと思う	57.8%	-	● 6.01	56.5%	-	-	55.3%	-	-	62.1%	-	-	-	-	-	-
【持続可能意識】	65.3%	-	● -0.67	63.2%	-	-	60.6%	-	-	72.8%	-	-	-	-	-	-
60 地域文化や暮らしを、自らの手で未来に伝えたい	54.7%	-	● -3.70	52.7%	-	-	51.6%	-	-	60.4%	-	-	-	-	-	-
68 自分の将来について明るい希望を持っている	75.9%	-	● 2.36	73.7%	-	-	69.7%	-	-	85.2%	-	-	-	-	-	-

④ 生徒の行動実績（資質・能力の発揮）



⑤ 学習・その他

	全校			1年生 (2022入学生)			2年生 (2021入学生)			3年生 (2020入学生)			4年生 (2019入学生)			
	全体 時間(分)	昨年度との差 差(分)	他地域との差 差(分)	学年 時間(分)	昨年度入学生との差 差(分)	一昨年度入学生との差 差(分)	学年 時間(分)	1年次との差 差(分)	回答上昇者 割合(%)	学年 時間(分)	2年次との差 差(分)	1年次との差 差(分)	学年 時間(分)	3年次との差 差(分)	2年次との差 差(分)	1年次との差 差(分)
91 平均的な学習時間【平日】	61,45	-	-21.55	63,66	-	-	44,52	-	-	77,87	-	-	-	-	-	-
92 平均的な学習時間【休日】	99,08	-	-42.41	90,59	-	-	67,98	-	-	143,02	-	-	-	-	-	-

	全校			1年生 (2022入学生)			2年生 (2021入学生)			3年生 (2020入学生)			4年生 (2019入学生)			
	割合(%)	差(pt)	差(pt)	割合(%)	差(pt)	差(pt)	割合(%)	差(pt)	割合(%)	割合(%)	差(pt)	差(pt)	割合(%)	差(pt)	差(pt)	差(pt)
90 この学校を中学生におすすめできる	56.5%	-	-22.72	57.5%	-	-	52.1%	-	-	60.4%	-	-	-	-	-	-
78 国際社会の課題解決に貢献したい	55.2%	-	-0.58	57.0%	-	-	52.7%	-	-	56.2%	-	-	-	-	-	-
79 まだ世の中になく新しい技術やサービスを生み出してみたい	53.4%	-	1.47	53.2%	-	-	53.7%	-	-	53.3%	-	-	-	-	-	-
80 客観的な証拠に基づき考え、判断する科学的視点から課題解決にあたることできる	42.7%	-	-2.13	40.9%	-	-	40.4%	-	-	47.3%	-	-	-	-	-	-

⑥ 大人向け調査

	大人向け調査（全回答平均）			大人向け調査（教職員のみ）		
	全体 割合(%)	昨年度との差 差(pt)	他地域との差 差(pt)	全体 割合(%)	昨年度との差 差(pt)	他地域との差 差(pt)
25 この学校を中学生におすすめできる	58,1%	-	-27.82	56,7%	-	-27.49
26 この学校に関わってよかったと思う	77,4%	-	-12.87	76,7%	-	-12.39
27 この地域を、将来暮らす場所としておすすめできる	67,7%	-	-8.98	66,7%	-	-6.85
28 【教職員のみ】地域・社会との協働を通して、授業の質の向上につながっている	40,0%	-	-23.24	40,0%	-	-23.24
29 【教職員のみ】地域・社会との協働を通して、自身の資質・能力の向上につながっている	36,7%	-	-34.31	36,7%	-	-34.31
30 【教職員のみ】地域・社会との協働を通して、学習意欲が高まった生徒がいる	46,7%	-	-22.56	46,7%	-	-22.56
31 【教職員のみ】地域・社会との協働を通して、業務負担感の軽減につながっている	0,0%	-	-17.59	0,0%	-	-17.59

⑦ 生徒のウェルビーイング



	全校													
	全体		1年生 (2021入学生)		2年生 (2020入学生)		3年生 (2019入学生)		4年生 (2019入学生)		3年生 (2019入学生)		4年生 (2019入学生)	
	割合 (%)	差 (pt)	割合 (%)	差 (pt)	割合 (%)	差 (pt)	割合 (%)	差 (pt)	割合 (%)	差 (pt)	割合 (%)	差 (pt)	割合 (%)	差 (pt)
主体性に関わるウェルビーイング	53.2%	-	47.1%	-	50.0%	-	63.5%	-	-	-	-	-	-	-
81 今の生活全般に対する満足度 (0~10で評価: 6以上の割合)	51.6%	-9.49	41.4%	-	48.9%	-	65.7%	-	-	-	-	-	-	-
82 普段のあなたの幸福度 (0~10で評価: 6以上の割合)	52.7%	-9.17	45.2%	-	48.4%	-	65.7%	-	-	-	-	-	-	-
83 現在の日常生活に不安や心配事がない	55.4%	2.14	54.8%	-	52.7%	-	59.2%	-	-	-	-	-	-	-
協働性に関わるウェルビーイング	78.8%	-	78.1%	-	74.6%	-	84.0%	-	-	-	-	-	-	-
66 この学校に入ってよかったと思う	70.2%	-14.87	66.7%	-	64.9%	-	79.9%	-	-	-	-	-	-	-
84 学校の一員だと感じている	84.3%	-1.99	86.6%	-	79.8%	-	87.0%	-	-	-	-	-	-	-
85 大切な人を幸せにしたり、楽しませたりしていると思う	81.8%	2.25	81.2%	-	79.3%	-	85.2%	-	-	-	-	-	-	-
探究性に関わるウェルビーイング	76.1%	0.49	72.0%	-	70.9%	-	86.4%	-	-	-	-	-	-	-
68 【再掲】自分の将来について明るい希望を持っている	75.9%	2.36	73.7%	-	69.7%	-	85.2%	-	-	-	-	-	-	-
86 自分の将来についての見通し (将来こういふ風でありたい) を持っている	78.6%	0.77	73.1%	-	75.0%	-	88.8%	-	-	-	-	-	-	-
87 自分の将来に向けて大切だと思うことを実行している	73.8%	-1.65	69.4%	-	68.1%	-	85.2%	-	-	-	-	-	-	-
社会性に関わるウェルビーイング	62.4%	-	63.4%	-	58.1%	-	66.1%	-	-	-	-	-	-	-
58 【再掲】将来、自分の住んでいる地域に役に立ちたい	71.6%	-0.16	75.8%	-	64.4%	-	75.1%	-	-	-	-	-	-	-
60 【再掲】地域文化や暮らしを、自らの手で未来に伝えたい	54.7%	-3.70	52.7%	-	51.6%	-	60.4%	-	-	-	-	-	-	-
88 この地域を、将来暮らす場所としておすすめできる	73.5%	4.64	74.7%	-	70.2%	-	75.7%	-	-	-	-	-	-	-
89 日本の将来は明るいと思う	49.9%	-2.32	50.5%	-	46.3%	-	53.3%	-	-	-	-	-	-	-